

資料編

1 まちづくりシンポジウムの開催

■開催概要

魅力あるまちづくりシンポジウム

○期 日 平成26年5月31日（土）

○時 間 開場 13:30
開始 14:00
終了 16:50

○会 場 大子町文化福祉会館「まいん」 1階 観光交流ホール

■当日開催テーブル

○基本構想説明

- ・「大子町中心市街地活性化基本構想」の説明と近隣市町における整備事例の紹介
- ・基本構想に対する質疑応答

○基調講演

- ・テーマ「人口減少社会における魅力あるまちづくり」
茨城大学 人文学部教授 斎藤 義則先生
- ・講演に対する質疑応答

○パネルディスカッション

- ・3名の町民によるパネルディスカッション

①太子町中心市街地活性化基本構想の説明

②近隣市町村のまちづくり事例の紹介

1

①太子町中心市街地活性化基本構想の説明

■太子町の状況

- ・年間100万人の観光客が訪れる県内有数の観光地である

太子町は、日本三名瀑の1つである袋田の滝をはじめ、八溝山や久慈川の清流、奥久慈温泉郷などの観光資源が豊富である。また、蒟蒻、茶、りんご、しゃも等の多くの特産物に恵まれていることにより、年間100万人の観光入込客を数える県内有数の観光地となっている。

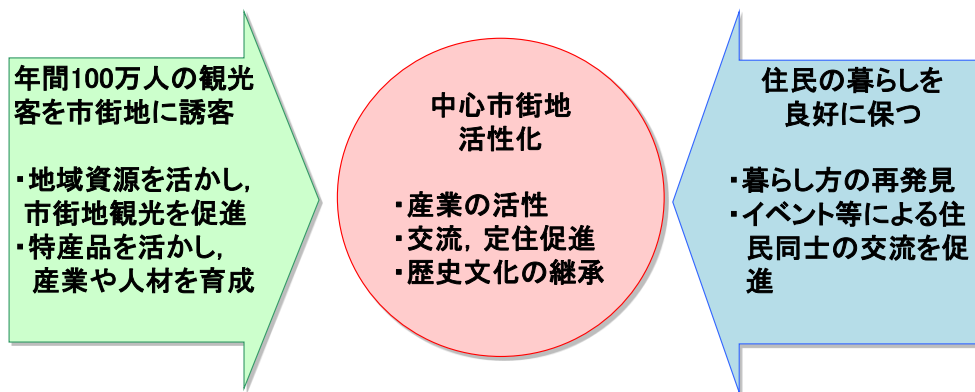
- ・一方で、県内で唯一町全体が過疎化地域に指定されている

太子町は、県内で唯一町内全域が過疎地域に指定された自治体であり、住民の高齢化により、医療費の増大による財政負担の増加や、若者流出による後継者不足により産業の衰退や自治会活動の低下などが課題として顕在化している。

2

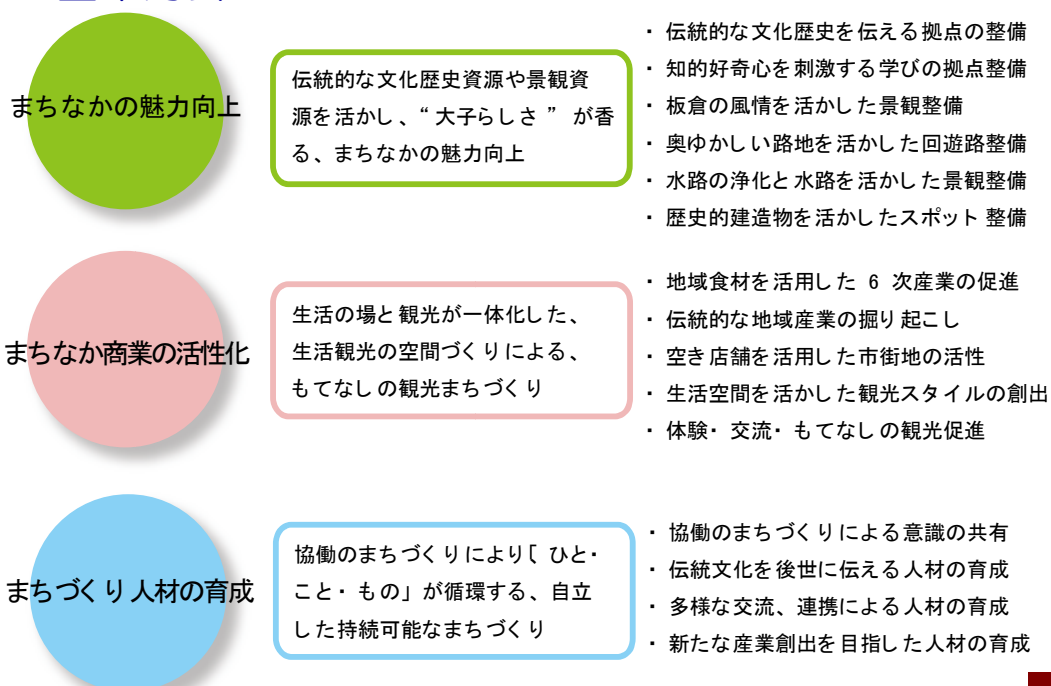
■まちづくりの方針

- ・主要観光地から市街地へ観光客の誘客を図り、観光を意識した中心市街地のまちづくりを進める。
- ・町民の暮らしの中から大子町に合った観光スタイルを創出し、交流人口の増加を狙いとした中心市街地の活性化を図る。



3

■基本方針



4

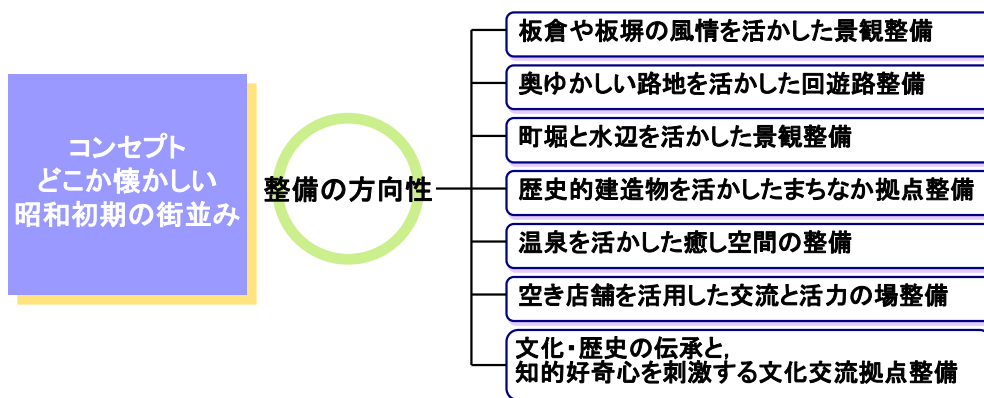
■ まちなか魅力向上のための整備方針

大子のまちなみは、深い歴史と文化が息づき、奥ゆかしい路地や町堀がのこり、奥久慈の美しい山並みと水の風景に囲まれ、どこか懐かしい昭和初期の風景を感じさせます。

この“古き良き日本らしさ”が大子の魅力であると捉え、地域資源を活かし、大子の魅力を最大限に引き出す事で大子らしさを強みにしたまちづくりを展開します。

まちに点在する地域資源や文化・歴史・産業と、中心市街地内の各拠点と連携しながら、市街地全体の魅力を高めるため、「どこか懐かしい昭和初期のまちなみ」づくりを目指します。

その実現に向け、以下のような各整備の方向性を設定しました。



5

■ 板倉・板塀の風情を活かした景観整備

整備方針

【板倉や板塀による街並み景観の演出】

中心市街地には、林業のまちを思わせる板倉の建築物が多く存在する。この風情ある板倉景観を活かし、大子らしいまち並み景観を創造する。

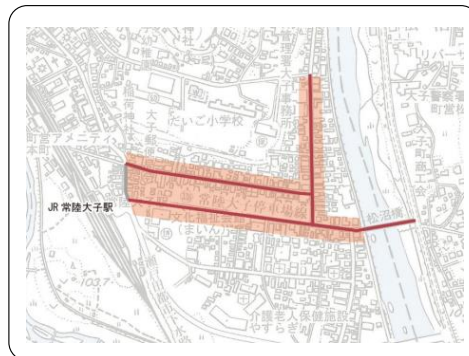
【整備の課題等】

修景のためには、景観に対する住民の意識醸成や、イメージの共有が必要となる。また、住民への費用負担も考えられるため、補助金等のインセンティブについても検討する必要がある。

【住民と協働の方針】

景観に対する住民の理解が重要となるため、まちづくり勉強会、講演会、ワークショップなどを重ね、将来的に、まちづくり協定や景観条例などを作成することが望ましい。

推進するエリア



6

■板倉・板塀の風情を活かした景観整備

整備例



↑ 現在の大子町のまちなかの現状
ブロック塀や外壁を工夫することで、まちなみ景観を統一することができる。



ブロック塀など無機質な人工物に板を張り、大掛かりな整備をせざるも修景をすることが出来る



＜写真＞滋賀 近江八幡

まちなか活性化のヒント



＜岐阜県美濃市まち並みマップ＞

- ・板倉の街並みマップの作成
- ・学生や住民を交えた、(仮)板倉建築研究会の発足
- ・板倉サミットの開催など



＜廃材ワークショップ＞

- ・古くなった板塀を使った加工品(ブローチ等)の試作・展開
- ・廃材ワークショップの開催
- ・板塀修景により余った木材を炭にして販売など

7

■板倉・板塀の風情を活かした景観整備

建築物の景観誘導例



整備前：
外壁や窓などを工夫することで、落ち着いた和風建築物に改修できる。



整備後：
建築物のファサードに加え、エアコン室外機についても目隠しにより外から見えなくすることで建物の統一感を出している。

電線地中化による景観誘導例



整備前：
電線が景観の阻害要因となっている。また、電柱が歩行者の障害となっている。



整備後：
電線地中化により景観が向上した。また、無電柱化により歩行空間にゆとりができた。

8

■奥ゆかしい路地を活かした回遊路整備

整備方針

【奥ゆかしい路地を活かした回遊路整備】

大子のまちなかには奥ゆかしい路地が多数あり、住民が挨拶を交わすのどかな風景がみられる。この“どこか懐かしい”路地裏観光に着目し、生活観光の空間づくりと、まちなか回遊路の整備を図る。

【整備の課題等】

狭隘道路に構造物が入り組んでいるため、防災・防犯面や、バリアフリーなどを意識した整備が必要となる。また、オープンスペース確保のため、住民の理解と協力も必要となる。

【住民と協働の方針】

これまでの生活通路を観光の回遊路とするため、路地の趣ある雰囲気演出には、住民の理解と協力が必要となる。先進地視察、ワークショップなどを重ね、観光客との接し方や、おもてなしの方法などに関するルール化が望まれる。

推進するエリア



9

■奥ゆかしい路地を活かした回遊路整備

整備例



←現在の大子のまちなかの現状

塀の形状や意匠がばらばらのため、景観が統一されていない。また、支柱線などの構造物が歩行空間の障害となっている。



塀の形状や意匠を合わせることで、まちなみにも統一感が生まれ、歩いて楽しい回遊路となる。
＜写真＞京都市石堀小路

まちなか活性化のヒント



自宅の庭を使って特技や趣味を紹介するなど、観光客も楽しめる空間づくり。
「真壁のひなまつり」オープンガーデンで琴の演奏



イベント時には自宅の庭を開放し、観光客との交流場へと変貌する。
「つくば神郡」オープンガーデンで郷土芸能の発表

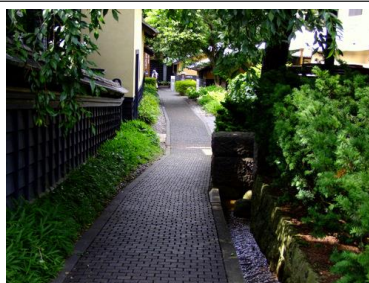
10

■奥ゆかしい路地を活かした回遊路整備

建築物等の景観誘導例



塀の色彩や意匠の統一により、連続する路地景観を演出している。
(滋賀県東近江市)



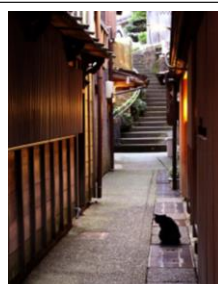
連続する低木による緑化、路面舗装材と開渠水路などの演出により、潤いのある路地空間を演出している。
(長野県小布施町)

まちなかの回遊路整備事例



小径の景観整備により、まちなかを回遊する楽しさの演出と、奥行きのあるまちなみを創出している。

<写真>
金沢市東茶屋地区



11

■町堀と水辺を活かした景観整備

整備方針

【水路と水辺を活かした景観の演出】

中心市街地には、押川から引き込まれる町堀が張り巡らされている。この町堀を活かし、美しい清流が流れるまち並み景観を演出する。

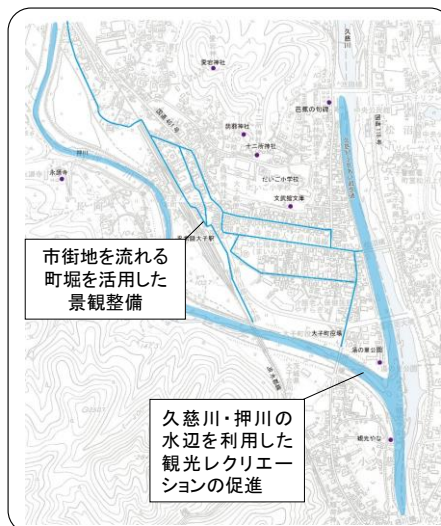
【整備の課題等】

まち中の水路は生活雑排水の排水路として利用されており、水質の浄化や排水の整備など、適切な排水計画が求められる。まちなみの景観整備と併せ、都市インフラに対しても見直しを行う必要がある。

【住民と協働の方針】

浄化槽設置や排水整備に向けた住民の理解を深めるため、清流を活かした住環境の整備などについて、勉強会やワークショップを開催することが望ましい。

推進するエリア



12

■町堀と水辺を活かした景観整備

整備例



↑ 現在の大子現状
水路には過去に洗い場として活用していた跡などが残る。水辺の修景や排水の見直しなど、町堀を活かす整備を検討する。



〈写真〉滋賀県 針江



〈写真〉岐阜県 高山



〈写真〉岐阜県 郡上八幡



〈写真〉島根県 津和野

まちなか活性化のヒント

- ・まちなかの魅せる水路の整備
- ・清流のまちなみに向けた、水路の清掃運動
- ・久慈川沿いの遊歩道へのアクセス向上
- ・久慈川沿いでの集客イベントの企画
- ・水生生物観察会など水生環境の保全に向けた運動



魅せる水路の整備



水路の清掃運動

13

■町堀と水辺を活かした景観整備

町堀を活用した景観整備



水路に竹柵を設置した景観アクセント



町堀を活用した親水公園の整備



水車を設置した景観アクセント

久慈川・押川の水辺を利用した観光レクリエーション



魚のつかみ取りイベント



手作りボート大会のイベント



納涼川床の設置



シガの観察イベント

14

■歴史的建造物を活かしたまちなか拠点整備

整備方針

【歴史的建造物を活用した、まちなかの賑わい拠点整備】

まちなかには、時代を感じさせる歴史的な建造物が点在する。これらの保全や活用方法の検討を進め、まちなかの賑わい拠点として、まちづくりにおける積極的な利活用を図る。

【整備の課題等】

建物の維持管理、運営など、商工会や地域組織との連携が必要である。また、まちづくりに寄与する目的であれば、企業や法人団体等が利用できるルールづくり等を検討する。

【住民と協働の方針】

まちなかの憩いの場として、住民や観光客が気軽に利用でき、交流や情報発信の拠点となるよう、活用方法や管理・運営の仕組みについて、意見交換会やワークショップ等を開催することが望ましい。

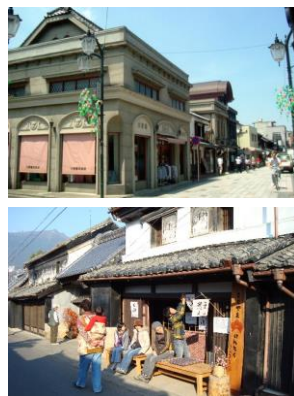
15

■歴史的建造物を活かしたまちなか拠点整備

整備例



桜川市：旧真壁郵便局



左上：川越市 大正浪漫通り

左下：つくば市
つくば道みせ蔵

上：土浦市
まちかど蔵「野村」

まちなか活性化のヒント

- ・通りで統一したのれんや看板の整備
- ・建築物を紹介する案内板の設置
- ・休憩スペースとして活用
- ・住民や観光客が集う“たまりの場”
- ・まちなみ景観のランドマーク的存在の整備
- ・まちづくりボランティアの常駐



左：滋賀県守山市
のれんの演出

右：姫路市
歴史建造物での
記念撮影、プライ
ダル撮影



16

■ 温泉を活かした癒し空間の整備

整備方針

【整備の方針】

市街地に流れる温泉送水管を活用し、足湯などの休憩所の整備を進める。

【整備の課題等】

空き店舗の活用や温泉の民間利用なども含め、温泉インフラの維持管理手法などを検討する。

【住民と協働の方針】

観光客や住民の憩いの場として気軽に利用でき、交流や情報発信の拠点となるよう、活用方法や管理・運営の仕組みについて検討が必要。

推進するエリア



17

■ 温泉を活かした癒し空間の整備

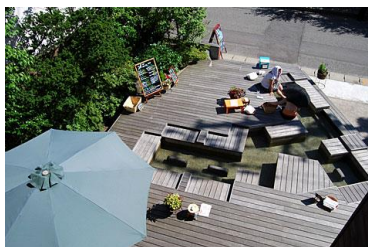
整備例



まちなかに足湯の共同浴場を整備し、観光客や住民の憩いの場となっている。
(兵庫県湯村温泉)



足湯カフェ、チットモツシェは民族工芸品が展示販売されるほか、地域紹介や観光情報の提供も行っている。また、カフェとして軽飲食も提供しており、施設前面にはオープンデッキの足湯が整備され、観光客の憩いの場となっている。
施設は民事再生法を受けた施設を市が買い取り、指定者管理制度を活用して公設民営で運営される。(山形県鶴岡市)



18

■空き店舗を活用した交流と活力の場整備

整備方針

【空き家・空き店舗を活用した交流施設の整備】

市街地には空き店舗が点在し、それらを放置すると、まちなか全体の活力の低下を招いてしまう。このような空き店舗対策として、町民や観光客が交流できる利便施設の整備を図り、市街地における交流と活力を促進する。

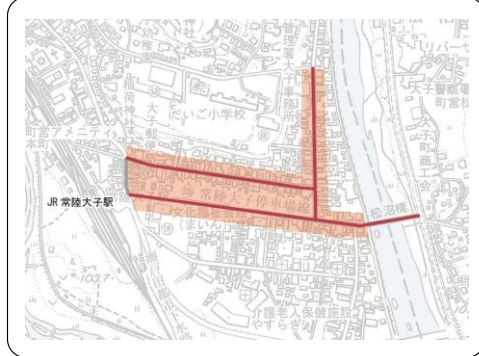
【整備の課題等】

まちなかの交流の場とするため、空き店舗の活用ルールや管理・運営の仕組みについて検討が必要。

【住民と協働の方針】

商工会やまちづくり組織などと協働で、まちなかの活性化に効果的な空き店舗の活用方法を検討し、有効利用を図る。

推進するエリア



19

■空き店舗を活用した交流と活力の場整備

整備例



商店街の空き店舗を活用した「孤坊庵(こぼうあん) (大判焼きなどを提供)」障害者の自立支援充実のために、地域の活性化と障害のある方の雇用及び地域拠点の活用を図っている。
(愛知県半田市)



空き店舗を活用し、フリーマーケットスタイルのチャレンジショップを運営。アンティーク雑貨・ハンドメイドアクセサリー・焼き菓子・コーヒーなど、出店者の自由な発想によって店舗が運営される。
(長崎県佐世保市)



空き店舗を活用した「まぜっせプラザ」では都市と農村の連携・交流の促進を図る場所として、イベント情報や観光・物産情報などを発信したり、毎月第1週目の週末には特産品や生鮮野菜を取り揃え販売する「まぜっせアーケード」の開催を行っている。
(福岡県郡山市)



商店街活性化やにぎわい創出を目的として「学生による空き店舗活用事業」を行っている。この事業は、産学官連携事業として、栄町商店街と関西大学・関西学院大学が「関関COLORS」を運営し、若い力で商店街の活性化に貢献している。
(大阪府池田市)

20

■文化・歴史の伝承と、知的好奇心を刺激する文化交流拠点整備

整備方針

【伝統文化と知識を育む拠点施設の整備】

中心市街地活性化の基本方針とした「住民の暮らしを良好に保つこと」と「観光客が市街地を楽しめること」の実現に向けて、中心市街地のまちづくりは、地域に特に大きな刺激や影響を与える「拠点機能」と「拠点機能間の連携・補完関係」が重要となる。

そこで、既存の拠点である「太子町文化福祉会館(まいん)」、「JR常陸太子駅」、「道の駅奥久慈だいが」、さらに「町有地を活用した新たな拠点」を加えて、まちづくりの拠点機能の連携を図る。

【整備の課題等】

まちづくりの拠点施設とするため、中心市街地の活性化に寄与する機能や、中心市街地の商店等との連携が図りやすい機能が求められる。

【住民と協働の方針】

整備を進めるにあたり、住民の理解が重要となるため、利用方針や運営・管理などを含め、町民との意見交換会や、ワークショップ等を実施し、合意形成を図る必要がある。

21

■文化・歴史の伝承と、知的好奇心を刺激する文化交流拠点整備

整備例



八溝杉のPRとなる木造のシンボリックな施設とすることで、林業の活性化と集客に寄与することが出来る

<写真>

左：埼玉県 飯能市図書館

中央：秋田県 教養大学図書館

右下：岐阜県 みんなの森ぎふメディアコスモス



まちなか活性化のヒント



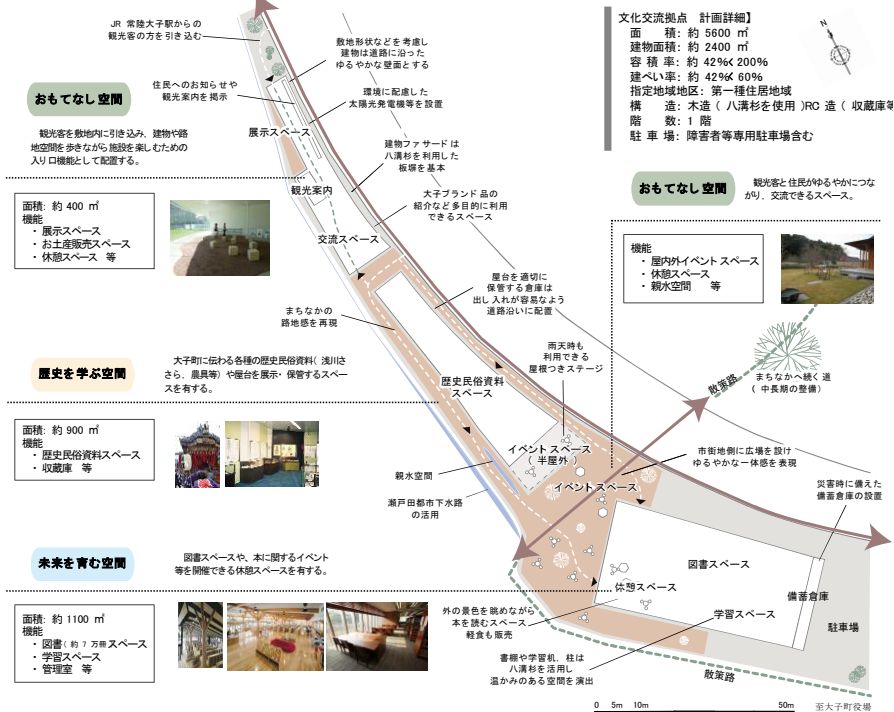
図書館や生涯学習施設など、住民の学習意欲を満たす拠点を整備。
<桜川市真壁伝承館>



歴史民族資料や、郷土料理など、地域の伝統や文化を後世に伝える場所も必要。
<こんにやく生産用具>

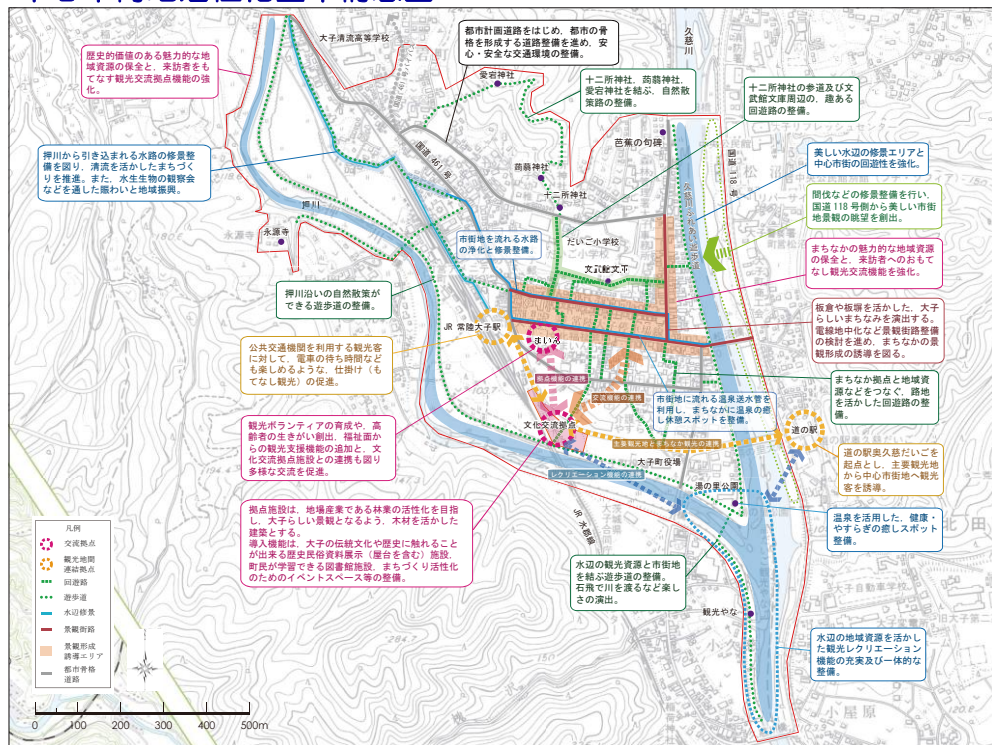
22

■文化交流拠点配置図（案）



23

■中心市街地活性化基本構想図



24

②近隣市町村のまちづくり事例の紹介

25

■栃木県大田原市 拠点施設による都市機能の強化とにぎわいの創出

大田原市では、定住人口減少や高齢化、それに伴う商業施設の衰退・減少、大型店の郊外立地および公共公益施設の分散化が加速し、市街地の空洞化が劇的に進行している。

そこで市民活動・市民交流・生活支援サービスの拠点として、図書館・市民交流施設・駐車場・公園整備など、市街地に賑わいを取り戻すための整備を行った。

「トコトコ大田原」は、中心市街地の活性化の核となる商業施設と、まちなか居住を促進する住宅、市民サービスを充実させる公共公益施設を併設した複合施設であり、大田原市の中心市街地における都市機能の強化とにぎわいの創出を目指す。



整備前



整備後

再開発事業による拠点整備



3F 市民交流センター



4F 大田原図書館



1F TOKO-TOKOマルシェ



2F 子ども未来館(わくわくランド)

26

■栃木県那珂川町 道路環境の改善による中心市街地の活性化

那珂川町においては、馬頭広重美術館を核とした周辺道路の整備（歩道拡幅、バリアフリー化、電線類の地中化・景観等の整備）により、同美術館により集客された人々を中心市街地に引き込み、中心市街地の活性化を図る計画としている。

電線類の地中化、歩行者専用道路のバリアフリー化



整備前
(H12.8)



整備後
(H16.4)

馬頭広重美術館とマッチした江戸風の街路灯、統一した看板の設置



【馬頭広重美術館】
隈研吾氏の設計によるもので、切妻屋根の平屋建物は周囲の景観に溶け込んでいる。
天井や壁のルーバーには八溝杉を使い、床は芦野石、壁には烏山和紙が使われている。



まちなみには、江戸風の街路灯と統一した看板の設置。

27

■常陸太田市 店舗の改修や空き店舗を活用した商店街の再生

常陸太田の中心市街地である鯨ヶ丘商店街は、小売店、飲食店を中心に金融機関も多く、明治～昭和時代に建てられた建物が多く残っていて、一瞬その時代へタイムスリップでもしたかのようなたたずまいの商店街である。

しかし、昭和50年代後半を境に、後継者不足や高齢化などを理由に閉店する店が増えた。そのような中、歴史と文化を感じさせるまちなみを生かし、お客さんを取り戻したい。こんな発想から季節の行事や風習を和暦(旧暦)で行う事で、季節感が感じられる街づくりに取り組んでいる。

まちなみの形成には、県の補助事業などを活用し、店舗の改修事業や、空き店舗の活用事業などを行っている。



歴史を感じるまちなみを生かし、店舗の改修や空き店舗の活用

歴史のまちなみに合わせた店舗の改修。
【整備前】



【整備後】



空き店舗を活用して、子どもたちのダンス教室を運営。まちなかの交流拠点として活用される。

28

■那珂市 市民発案型イベント交流事業によるまち興し

水郡線の分岐点である上菅谷駅前を舞台とする「カミスガ・プロジェクト」は、かつての上菅谷を「甦らせる」という事ではなく、「上菅谷」に「カミスガ」という新しい街を作ろうと考えた。もう一度、水郡線という鉄道を見直し、上菅谷駅に新しい役割を作ること、そして『街のユーザー』である市民目線での街作りが必要だと考え、復興策でもなければ、振興策でもない、新しく興す、「新興策」を提案・実践している。

水郡線沿線の街への来訪者を増やすために「駅前通り」を歩行者天国にしてテナントによる「一日商店街」を実現。2ヶ月に1回開催する。このイベントの目的は「来訪者の誘致」、「地域住民同士・住民と商店の交流」、「沿線地域、近隣地域への貢献」としている。また、水郡線を題材とした映画の製作と上映なども手掛ける。

何もない駅前通りを歩行者天国にしてテナントによる「一日商店街」を実現



かつては、鉄道の要所として賑やかな街であったが、鉄道利用者の減少により、街は急激に衰退。再開発により駅前通が整備されたが、空き地が多い。



イベント開催時には2万人以上の来訪者でにぎわう。水郡線沿線の市民ボランティアなどによる手作りのイベント。

29

■笠間市 地場産材を使った道路整備とご当地グルメ開発による活性化

三大稲荷で有名な「笠間稲荷門前通り商店街」では、かつての賑わいを取り戻すべく、多くの観光客に訪れて頂くための様々な取り組みを行っている。

商店街の顔となる門前通りでは、地場産材である「稲田御影石」と「笠間焼き」を使って、門前町にふさわしい景観づくりを意識した道路整備を行っている。

また、地域食材を使ったご当地グルメ(笠間いなり寿司)の開発を行い、全国のご当地グルメサミット「B-1グランプリ」に参戦するなど、地域特性を活かして“おもてなし”するまちづくりを進めている。

笠間稲荷神社周辺地域では、商店街と行政が連携し、「かさまち考」を立上げ、商店街の活性化に向けて、市民が主体となり、まちづくりを考えている。

「ご当地グルメサミットin笠間」を開催



門前通りの整備



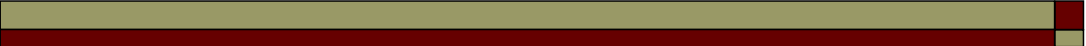
【整備前】



【整備後】

まちなみの景観整備と合わせて、商店街の活性化のイベントを開催。

30



■大子町のまちなかの活性化に必要なことを考える

- まちを綺麗に整備しただけでは活性化などしない。そこで何をやるかが重要。
 - ⇒まちを整備すれば住環境は良くなる。しかし活性化はしない。
 - ⇒まちが活性化するためには、人が集まるための仕掛けが必要。

- 何をやれば人は集まるのか？ 見せたいものは？ 喜んでもらえるには？
 - ⇒何を求めて人はやって来るのか。遊ぶため？学ぶため？食するため？
 - ⇒訪れた人に何を提供できるか。自慢したい地域の財産とは何か。
 - ⇒訪れた人は何に満足するのか。また来たいと思わせるために何が必要か。

- 活性化は何のためにやるのか？ 誰がやるのか？
 - ⇒地域が存続するため。つまり自分たちの生活をより良くするため。
 - ⇒行政はお手伝いをするだけ。主役はそこに住んでいる人である。

2 まちづくりアンケート詳細

中心市街地活性化基本計画を策定するうえで、町民の中心市街地についての利用実態やニーズを把握し、今後の市街地の活性化やまちづくりのあり方について意見を聞き取り、町民からみた中心市街地のとるべき方向性や活性化方策を検討する基礎資料とすることを目的としてアンケート調査を実施しました。

(1) 調査期間

平成 26 年 6 月 17 日 ～ 平成 26 年 7 月 4 日 (18 日間)

(2) 実施方法

郵送による発送及び返信

(3) 調査対象者

20 歳以上の町民 1,000 人を対象に実施。(無作為抽出)

(4) 回答数

368 通 (368/1,000) 回収率 36.8%

(5) 設問項目

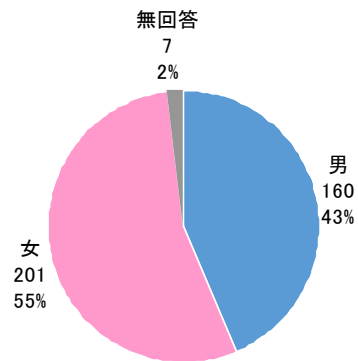
- ① 回答者属性(あなた自身について)
- ① 現在の中心市街地の状況について
- ② 大子町らしい中心市街地について
- ③ 中心市街地の活性化に重要なこと
- ④ 文化交流拠点の整備について
- ⑤ ④で文化交流拠点が必要でない理由について
- ⑥ 文化交流拠点の機能について
- ⑦ 文化交流拠点の管理・運営について
- ⑧ 自由意見(中心市街地のまちづくりについて)

（６）調査結果

（回答者属性）【あなたご自身についてお伺いします】

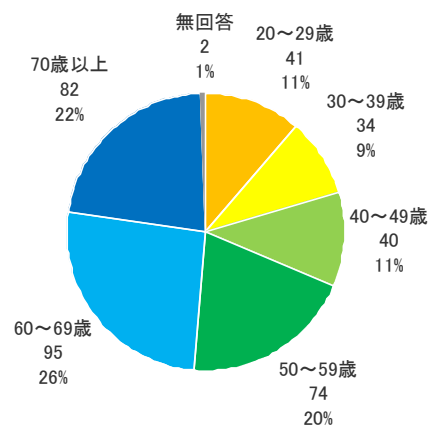
１．あなたの性別は

男＝160 人，43%
女＝201 人，55%
無回答＝7 人，2%



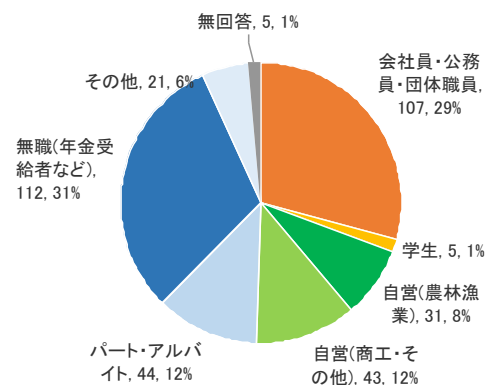
２．あなたの年齢は

20～29 歳＝41 人，11%
30～39 歳＝34 人，9%
40～49 歳＝40 人，11%
50～59 歳＝74 人，20%
60～69 歳＝95 人，26%
70 歳以上＝82 人，22%
無回答＝2 人，1%



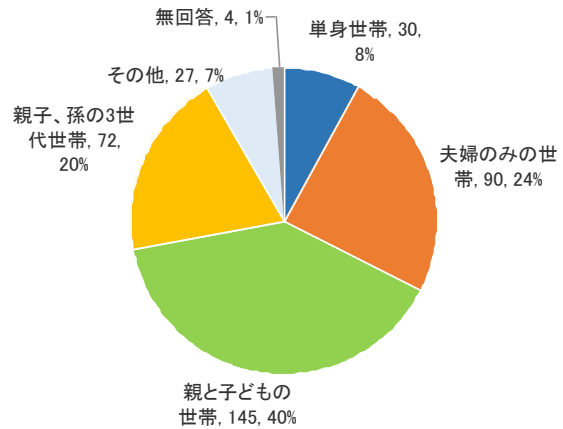
３．あなたのご職業は

会社員・公務員・団体職員＝107 人，29%
学生＝5 人，1%
自営（農林漁業）＝31 人，8%
自営（商工・その他）＝43 人，12%
パート・アルバイト＝44 人，12%
無職（年金受給者など）＝112 人，31%
その他＝21 人，6%
無回答＝5 人，1%



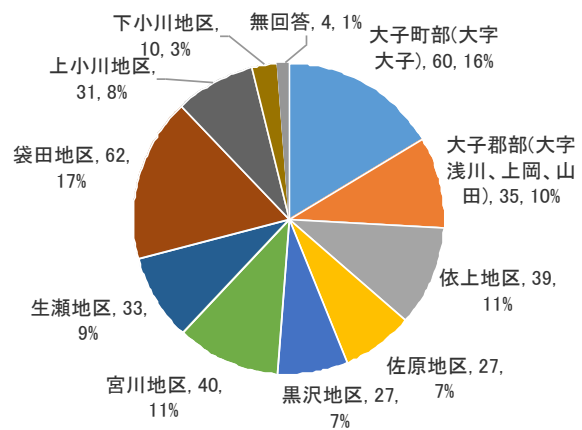
4. あなたの同居家族は

単身世帯	=30 人, 8%
夫婦のみの世帯	=90 人, 25%
親と子どもの世帯	=145 人, 39%
親子、孫の3世代世帯	=72 人, 20%
その他	=27 人, 7%
無回答	=4 人, 1%

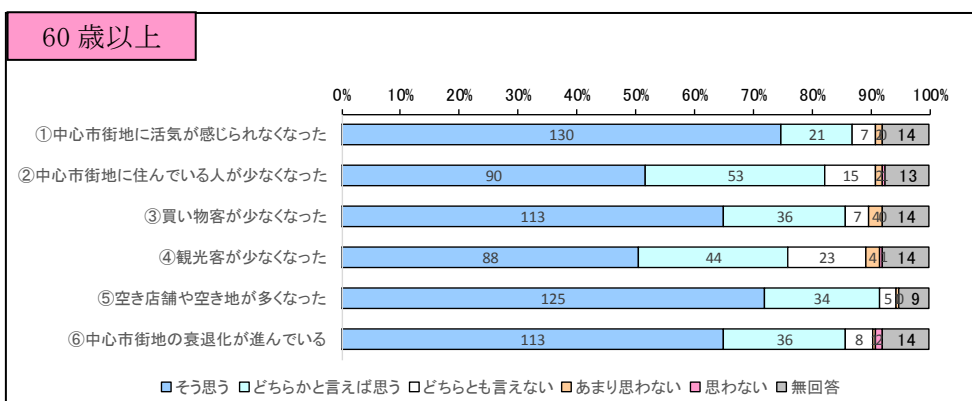
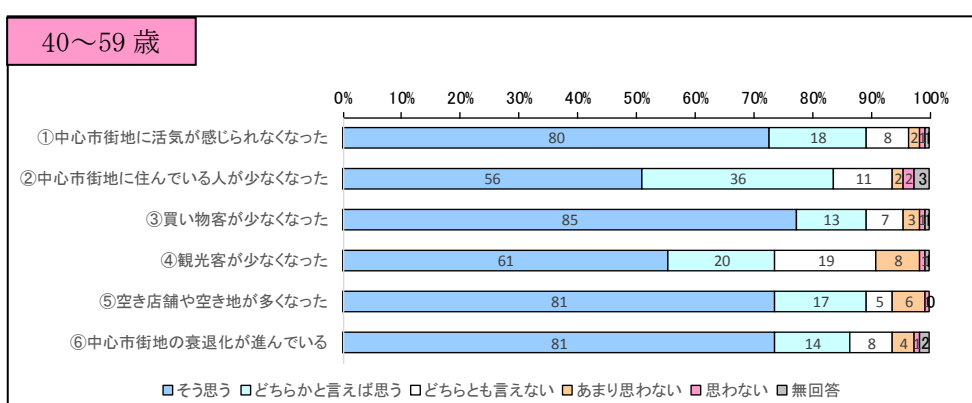
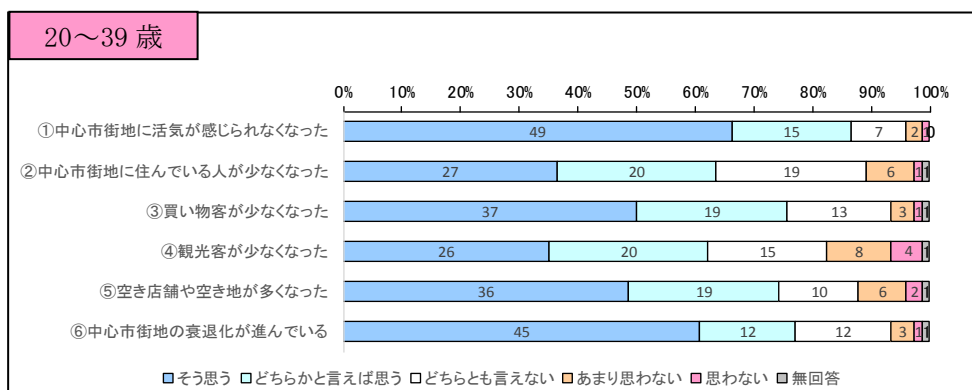


5. お住まいの地域は

大字町部(大字大字)	=60 人, 16%
大字郡部(大字浅川, 上岡, 山田)	=35 人, 10%
依上地区	=39 人, 11%
佐原地区	=27 人, 7%
黒沢地区	=27 人, 7%
宮川地区	=40 人, 11%
生瀬地区	=33 人, 9%
袋田地区	=62 人, 17%
上小川地区	=31 人, 8%
下小川地区	=10 人, 3%
無回答	=4 人, 1%



問1：【現在の中心市街地の状況】について、どのように感じますか。



⑦その他、【現在の中心市街地の状況】について気づいた点、気になる点

- ・一方通行が初めて来る人にはわかりづらい。中心市街地に見るところがない
- ・わずかの年金で生活が苦しい
- ・ここ住んでない私には昔の盛況はわかりません。役場がどこにあるかも知らず大変でした。もう 85 歳も過ぎこれからの人生なんて望めません。若い方々に頑張って頂く外ありません。子供達は大学が終わると戻りませんでした
- ・夜間真っ暗！
- ・商店などの廃業が多く見受けられ、その為廃墟や空き地が増えていると思われる
- ・店舗近く、又は家の近く(すぐ脇に)に駐車スペースが、余り無いので、車を止めにくい
- ・空き家の増加、住民の高齢化
- ・新しく建設予定の歴史民族資料館を建設するのは反対です。人は集まらないと思います。アウトレットショップ等の方が、人は集まるのではないのでしょうか？
- ・大子町を歩いてみても魅力が無い。店が閉まっている
- ・町の中の商店はお年寄りぐらいしか利用してないと思うし、安値もしくは品物もあまりないと思う
- ・お年寄りしか見かけない
- ・自家用車を持って運転できる人は町にも行けるが年寄りには乗り物がないし、バスも時間的にないし行けないと思う
- ・若い人がいない。観光資源もあり、観光客も来るのにうまくマッチングできていないと思う。他の観光地は交通インフラも充実していて、リピーターも多い。商売っ気がない。「もったいない」町だと思う。他の観光地をもっと見て、大子にも取り入れるべき
- ・高齢者の増加に伴い、独居老人が増え、外との交流ができない方々に対しての考慮が必要(話し相手) 集落での交流会
- ・若い人が働ける場所を作ってほしい
- ・活気が必要。書店やゲームセンター等をふやすべき
- ・おしゃれな店を出店させ、大子と融合した雰囲気の中で活性化を目指している方向性は感じられるが、1 つの集落(観光地)と呼ぶには今一歩及ばず、と感じる。大子にお金を落としてもらえる”買いたくなるもの”が少ない気がする。キャラクターグッズ、キャラお菓子、展示物がにぎやかで買いたくなる雰囲気などなど足りないような気もする
- ・自然があるのに、憩いの場がない
- ・バスを利用して昔は買い物に出かけていきましたが、現在ではバスの時間本数などに限りがあり不便になりました。大子町では商品、品揃えが少なく結果的に町で買い物をしなくなりました
- ・daigocafe などの古民家、空き店舗を活かした店作りが今後増えるといい
- ・他の市街地と比べて物価が高い。故に他の市街地に購入に出向いてしまう。それ故さびれてしまう
- ・自業自得、町が手を出す必要は無い
- ・子供一人で歩かせるのは心配な感じがする
- ・住民もそうだが、観光に来る人も時期によるが全体的に少なくなっているように思える
- ・バイパスの大型店の出店により車で移動するため便利な場所へと移行しています。商店街の活気こそ町の活性化です。もつと無料駐車場等アピールして大型店には無いサービス、おもてなし、努力してほしい。殿様商売は昔です
- ・駐車場が多くなった(商店をやめて、建物を壊した跡)
- ・中心市街地は駐車場等の問題あり。周りの環境を整えることが大切なのでは
- ・大子町に住んでいながら、そこ周辺には足が向かない。魅力を感じない
- ・シャッター商店街(空き地)をなくす考えが必要です。町中は駐車場も多くなき買い物などはバイパスのほうへ流れていると思います
- ・まいんができて、文化的催しが多くなった点は良かったと思う
- ・基本構想図は大変よくできていると思う。しかし、この様に活性化を目指す構想するには、莫大な予算を計上する必要がある

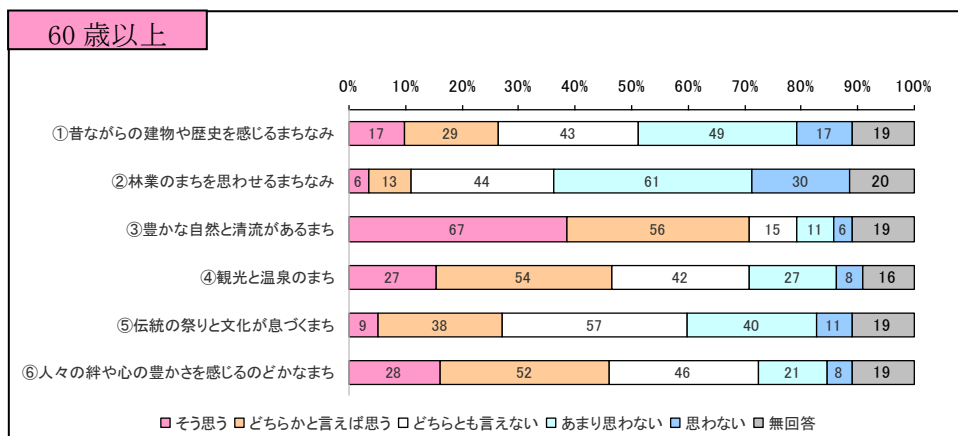
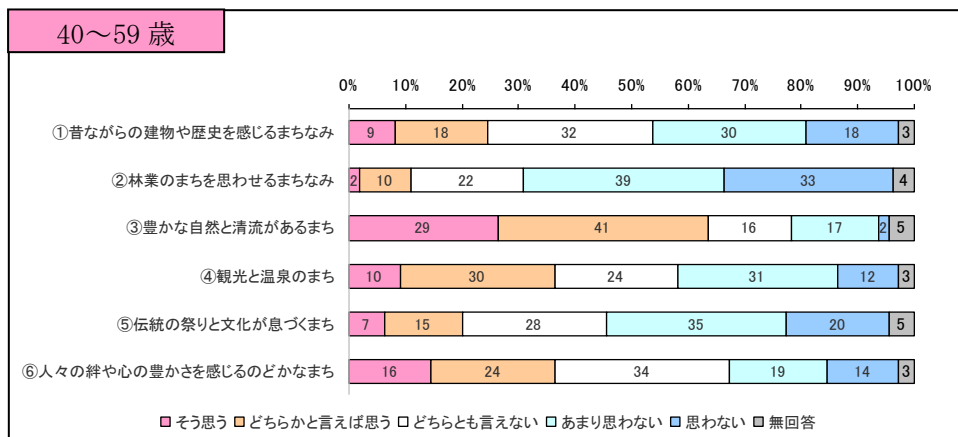
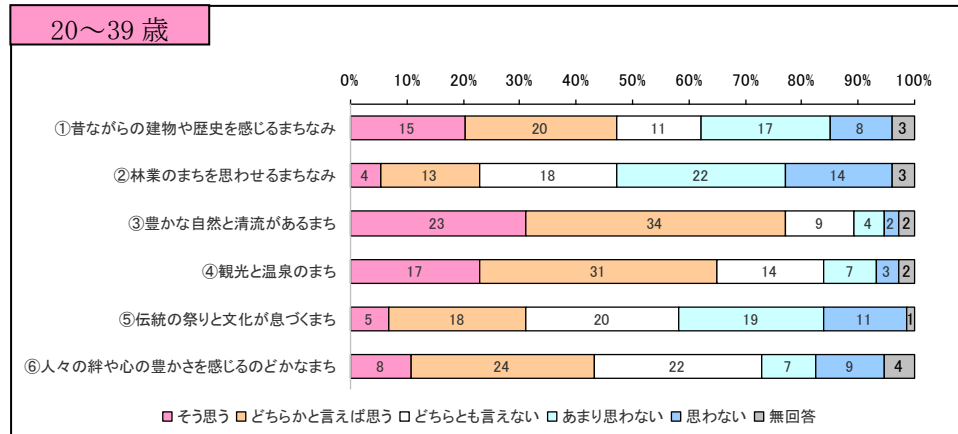
と思う。勿論やらない事には発展もなし。良い指標であると思う

- ・駐車場少ない
- ・池田地内(R118 号)エコス周辺が大変込み合いスーパーから国道に出られない。私案 裏通りに道路を作り、次の信号まで通行の利便を図る
- ・歴史民俗資料スペースは必要ないと思います
- ・空き家が増えている。何とか有効利用したい。所有者の意向もあると思うが、働きかけはしたい
- ・生活に必要なものが少なく、あまり通らなくなった
- ・空き家やシャッターのしまっているところが多く見られる
- ・若者が集まったりしているのをあまり見かけない(夜など特に)。自分たちのころより、だいぶ活気がなくなったように感じる(遊びが制限された)。
- ・若い世代の人が見られない
- ・人の往来が少ない(特に夕方は全く無い状態)寂しい限りです
- ・夕方など、店の閉まる時間が早いと思います。勤め帰りの人は利用できません
- ・昔もそれほど中心市街地に観光客があふれている(平常時)ということはなかったと思う
- ・後継者のいる店舗がほとんどない
- ・昔からそうだけれど、買い物に行っただけの対応の悪さが目立つ
- ・人口が少なくなり高齢者が多くなった大子町。仕方がないと思います。若い人は一人でのいる男の人が多い
- ・大子町の商店での買い物はほとんどしません。品物が少ないので、水戸やひたちなかに行きます
- ・大型店規制緩和が衰退の原因である。市場のような大型施設を作り客テナントで1ヶ所で何でも買える場所を作ることひとつの方法では?
- ・中心市街地に限らず、人口減少が進んでいるので活気がなくなるのは当然。人口が増えない限り、活性化は難しいと思う。観光に力を入れるなら、もっと観光客に優しい温かみのある接客等が必要
- ・原因は人口減少、高齢化。④観光客はもう一度行きたいと思う町でなければならない。良い町とは住む人、つくられた産物、欠如しているものは何か
- ・若い人、子供連れの買い物客の姿がほとんど見られません。若い人を呼び込む店がない(あっても目立たないのか)ように思います。子供向けのリサイクルショップを月に1回(洋服、おもちゃ、自転車他)町の中で行うのもいいかもね
- ・お手紙ありがとうございました。87歳になりお答えできませんが陰から活性化を祈っていました
- ・大きなスーパー(総合的な)が出来たらいいです
- ・シャッターが閉まっている店が多い。買い物しにくい。アーケードになっているとうれしい
- ・空き家、空き店舗、空き地を無料駐車場として町が動いてくれれば町での買い物客が増えないか?
- ・若い人の働く場所、工場等も考えて
- ・バイパス通りに大型店が出来たためと思う
- ・高齢者が多く、若い人たちがいない。大子町がなくなるのではと心配しています
- ・観光にばかり力を入れていると若者が離れ老人だけの町になってしまうと思う私も大子では働いていないで役場職員だけが最高の職場だと皆思っているのでしょう。採用試験をちゃんとやらないで臨時職員を1~2年で正職員にするような町だから若者は町を出て行くのです
- ・駐車場がなく狭い道路に車を止めなければ動けないので不便だし、車道もより狭くなるので危険
- ・まいんが作られたり、カフェが出来たり、百段階段でイベントが行われるなどがんばっている部分があるので、一層の支援で工夫充実を図るといいと思う
- ・大子町内のみでなく地方にも気を使って欲しい。例えば日曜は交通便がないため催しがあっても行けない
- ・商店街に魅力を感じない。地元の私がそう思うのだから、駅を利用して来る観光客は、当然満足しないだろう

- ・シャッター通りになっている
- ・道路が一方通行が多く来訪者にわかりにくい。歩いて楽しめる街ではない。(観光地ではない)
- ・高齢者が多いとのことではたないのかもしれませんが、若者向けのお店が少ない。「FM だいご」も中高年向けの曲が多いようにおもえますが！
- ・狭い道などが多いのに、案内標識が少なく、迷う人が多いのでは？他の地域から来た人はあっているのか不安になり帰ってしまうのでは？
- ・食料店が少なくなってきたと思う
- ・すべて中心街というのではなく半径 3, 4kmのところにも目を向けて、久慈川べりや四季折々の花のある所を作ったらと思う。水や花のあるところには人が集うと思う。
- ・駅前も整備され「まいん」や、大子カフェなど、良くなっている、通勤していても、駅前を通り過ぎるだけで買い物はしません。活気ある中心市街地を知っているだけに寂しいです。
- ・土日だけでなく平日も中心市街地に人が全然いない様に感じる。本当にさみしい感じ。
- ・池田に複数の大型店舗が進出してから、中心市街地で「のれん」を守ってきた個人の店が閉店に追い込まれた。ホームセンターや大型スーパーに対する国の規制緩和政策を見直す必要がある。
- ・中心市街地商店街が少なくシャッター通り、この構想図の中心地に人々が集いような場所が必要ではないでしょうか。
- ・早い時間にお店がしまっているので行かない。スーパーが少ない。
- ・各お店のモチベーションが低いのが一番の問題＝やる気がない。
- ・上記6項目に付け加え、ウィンドウショッピング等散策する身所区が薄い
- ・シャッターの下りている店が目立つ中、最近様々な店がオープンして良いことだと思う。栄町本町等もっと特徴のあるまとまりのある統一感が出たら良いと思う。人の目を引く様な店が一軒もないと思う
- ・駅前に行くバイパスが出来たので中心市街地の中を通らなくなって町の様子がわからなくなった
- ・あまりにも中心市街地の範囲が大きいことにびっくりしました。大変残念ですが全ての項目に⑤をつけました
- ・中心市街地に行く必要が今のところ全くといってない。となると楽しいところであればと思うが、文化的なものも全くない。沢山の人が目的を持って毎日通えるところになって欲しい。
- ・中心市街地に駐車場がないため利用しにくい。
- ・昭和のような初売りの活気がほしい
- ・働く会社が少ない
- ・住民が町中で買い物をする必要がないから、町中に行かないのなら必要性を感じさせる商店にしていく努力が必要。観光客に町中を歩き利用してもらいたいなら、蔵の町のように行ってみたいと感じる魅力が必要だと思う。昔のままの入りづらい店が多い。お金もかかるので、中々難しいですね。
- ・中心商店街に新築の家を造るのは良い事だと思うが、もう少し町並みに配慮した景観のほうが良かったのでは？
- ・大子町に人が少なくなったのは、まず高校を残さないとダメだと思う。安定した役場、観光協会、社会福祉協議会等の職員を大子清流高から毎年5名限定採用したりして、まずは大子町の高校を魅力あるものにして、高校卒業生を大子町からださないよう工夫すること。高校生も歩いていない町は寂しい。
- ・若い人が働ける様な場所の提供、仕事、とあれば活気が出てくると思います。
- ・休日でも街中を歩いている人が少ないし、夕方6時以降は余り人気がないように思う！
- ・市街地を盛り上げたいのなら、企業誘致。企業があれば、自然と盛り上がる。
- ・車は通るけど人は全然歩いていない。
- ・私は子供を連れ徒歩で中心部を利用します。大子の中心部は①路駐が多く、子供を連れての利用に多々不便を感じます。②営業しているのかいないのか……個人商店が利用しづらい。しかし、中心部には古風な建造物が多くあり。この建造物を最大に活かして欲しいと感じます。

- ・通称もみじ寺の観光客がこの頃増えたと思う。まいんができた事により、イベント等があり、人の集まりが感じられる。集合スーパーが中市街地に欲しい
- ・よっぽど用事がない限り、中市街地には行きません。
- ・空き家が多く見られますが、店舗に借りるには借り賃が高すぎて払えないし、又なかなか貸してもらえないそうです。改善することは出来ないでしょうか。
- ・町内を歩いているのは病院帰りのお年寄りだけ。
- ・道幅がせまく車の流れがスムーズにならない。駅前通りが一本通行なので、車での利用に制限がある。(移動範囲)
- ・今回の構想が仮に実現し仮に観光客が中市街地に流れ込んだ時、各店舗がその観光客に対応できるだけのやる気とスキル、企業体力があるのか疑問に思う。
- ・営業していなくても、シャッターを開けておける様なアイデアが必要。
- ・駅やまいんができてとてもいいです。買い物をしたいお店がもう少し多いといいのですが。朝市でも一箇所週一回でもしてはどうですか。
- ・観光地近辺なのに、街が廃れている。汚い
- ・中市街地に何も用がなくなってしまった。
- ・中市街地で若者や観光客を見ない
- ・何故お客さんが少ないのか？と考えてみれば、魅力的な商品がないこと、車が止められない、閉店時間が早すぎる等々、本当に店を繁盛させたいのなら、皆で何かをするのもいいけど、各店ごとの努力が必要だと思います。お店が暇なのは、人口が減っていること事だけでなく、来てくれなくなったお客さんのせいでもなく、個々の努力とやる気が足りないのだと思います。
- ・建物の老朽化が進んでいるように思います。
- ・町を活気ある町にするのは若者であり未来の子供たちです。子供たち若者の定住を望みます。それには一番働く場所の確保だと思います。

問2：【大子町らしい中心市街地】についてどのような印象やイメージを持っていますか。



⑦その他、【太子町らしい中心市街地】について、思われること

・時折買い物に出ても知人にお逢いすることも少なくなりました。私がまだ生きていることのほうが不思議なくらいです。今しばらくよろしく願います

・個々人は頑張っているが一体感がない

・昔ながらの娯楽施設(例:映画館など)

・伝統を重んじすぎて、新しい風を受け入れられない町だと思っております。もっと、新しい事に目を向けるべきでは？

・一人ひとりの思いやりが欠けていると思う。観光と温泉地なら駐車場が少ないと思う

・年間の行事と毎月の行事又毎日の同じメニューの食事(たとえばカレー、ぎょうざ、コロッケ等有名都市のように)しゃも、こんにゃく、りんご、鮎他

・統一感が無い。何が売りなのか見えにくい。自然豊かで昔ながらのものが多く残っている所が強みだと思うので、もっと明確にアピールした方がよいと思う

・建物の老朽化が目立つ

・今の市街地は、建物も古く(ただ汚い)統一感を感じられない、何に重点を置くのか太子町からは伝わってこない。伝統を重んじるのか、観光なのか・・・どれも曖昧。思い切ったアイデアを投入して太子町の発展の起爆剤を考えて欲しい。世の中の求めているものをちゃんと見極めて欲しい

・よさこい祭りのとき、118号沿いにある旗は紫色の「常陸太子連」？だけではなく、よさこいの写真がのっている旗や看板を出して、中心地でいかに盛大に行われているかをアピールしたらいいと思った。全く祭りが118号には出ていなくて、せっかくのいいアピールチャンスを損している気がした。118号は遠方を往来する人が通る道なので祭りのある町をアピールできると思う。太子町らしい意見とずれていたらすみません・・・

・町在住の人も観光客も楽しめるまち

・人間が少ないからどうしようもない

・林業の町を思わせる町並？(きれいな水が流れる町堀、魚が見られる町堀)

・寂れた町でしかない

・すべて大人目線で作られている。休日に親子で遊びに行こうとは絶対に思わない。税金の無駄遣いです

・まちづくりをするにあたり、コンセプトとなる「テーマ」が明確になっていないため、太子町＝？というイメージが強い

・④についてもっとアピールが必要です。足湯が無いのも温泉の町とは言えない。口コミは大事です。中心市街地から発信してほしい

・老人や大人向け、小さな子供がいる人は太子に来るか。子供が楽しめる場所も必要なのは。「生き物を展示する場所」「遊園地のようなもの」

・太子町らしいという言葉は漠然としすぎている。まずは1つ！どこにも負けない太子町のよさを見つけることが大事では・・・？

・震災以来、袋田の滝へ行く人も少なく閑散としている。温泉もいまひとつ。おもてなしの強化とか・・・？

・太子町らしいとは、どのような事が太子町らしいのかがよく分からない。さすが太子町だと思えるインパクトを感じない

・町民の減少のためか？活気がぜんぜん見られないと思う。商店街である町内が、夕方など早々とシャッターが下りている。とてもさびしい気持ち。客が少ないから仕方なし

・若者が住めない町

・中心部のコンセプトは何かまとまりがない。ばらばら

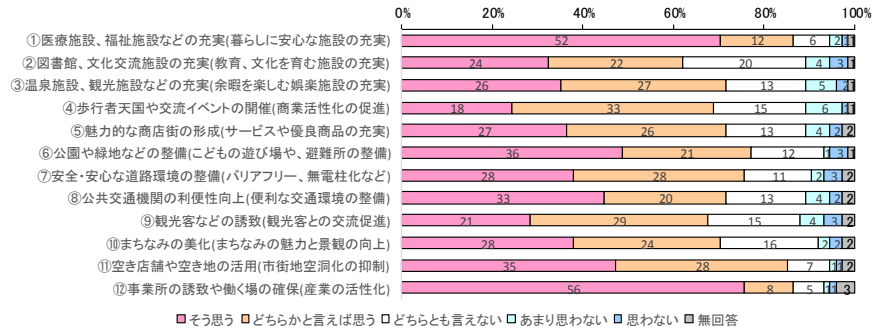
・特に印象に残るものが無い

・歩行者は少なく活気の無い町である。これは太子町に限られたことではなく、日本の地方都市のどこでも見られる現象である

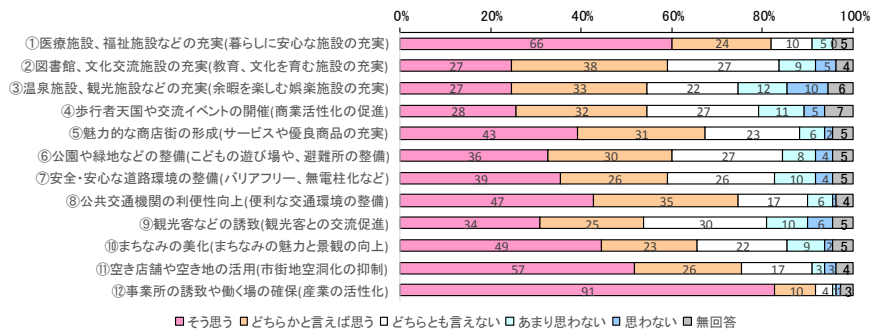
- ・ 大子町は笑顔の無い町。人の笑顔が大切です
- ・ 歴史のある学校(廃校)の活用は今後も続けてほしい
- ・ 「町が生き生きとしている」と感じるのは…。すべてに美しさを求められるが、まず人間・わたしたちが生き生きとした日常、道路、家並み、呼吸していることが他から感じられることが大事
- ・ これといったものがない。良質の温泉という事をもっとアピールしてほしい
- ・ ④③は町の宝です。本町一方通行を止める事はいかがですか？
- ・ あまり中心市街地では観光などに力を入れているようには感じられない
- ・ 「大子町らしい」いわれと…何だろう？と思ってしまいます
- ・ 大子といえば袋田の滝と返ってくる。中心市街地とは少し距離があるが、大子の一番の観光名所なので、少し離れていても足を運んでもらえる工夫があるといい。大子町全域の伝統の祭りや文化を中心市街地で行う方向はどうか
- ・ 木や花などをメインに自然の豊かさをアピールした街。
- ・ 設問の内容は、今はすべて感じられない。これからいかにして取り戻していけるのか期待したい。
- ・ 数年前、常陽銀行付近で、観光客らしい人に「温泉街はどちらの方向ですか」「公衆トイレはどこですか」と尋ねられ、一瞬、返答に窮したことがある。観光地と名乗る以上、それなりの陣容を整えるべきである。
- ・ これ以上古くてレトロな物(建物など)を壊さないように。レトロを生かす
- ・ 自然は豊かだが、清流という名がついているなら、町堀整備をしっかりとったほうがいい。また温泉の町を謳うのであれば、中心市街地に温泉施設をつくることも検討しては。
- ・ 何を売りにしている町かまったくわからない「温泉とりんご」まったく感じない
- ・ 大子町の林業とはどういうことをさすのでしょうか？中心市街地にまず温泉というイメージは全くありません。大子町の文化とはどういうことを指すのでしょうか？
- ・ 歴史といっても他地域に比べ弱い。中心街に自然があふれる街は他に見たことがあまりない。自然の中であたたかい人達がお客様を迎えたら素敵です。
- ・ 「大子町らしい」とはどういう事か分からない。逆にどういう中心市街地を造りたいのか
- ・ 祭り伝承館等、地元以外の人にはあまり興味がないと思う。百段階段のひな飾りは企画が良く3万人もの人が集まった。あのような企画を月一回開催できるようボランティアを募って考えて欲しい。
- ・ 中心市街地でも空き家が多く、きれいじゃない。
- ・ 問1で述べた同様に「古風な建造物です」中心部の建造物は昭和を感じる建物がきれいに残っており、魅力を感じます。また「人々の絆。温かさ」小さな町だからこそ人の温かさを感じます。
- ・ 大子町の魅力を知る機会がありません…
- ・ 町の中の商人の鼻が高すぎ
- ・ 何が「大子町らしい」のか良く分からない。大子町とはどんな町なのかアピールが足りないと思う、
- ・ 食べ物にも工夫をして、食堂を活性化すると良いと思います。
- ・ 旧大子地区か現在の池田街かどちらかにしぼりたい

問3:【中心市街地の活性化に重要なこと】は、どのようなことだと考えますか。

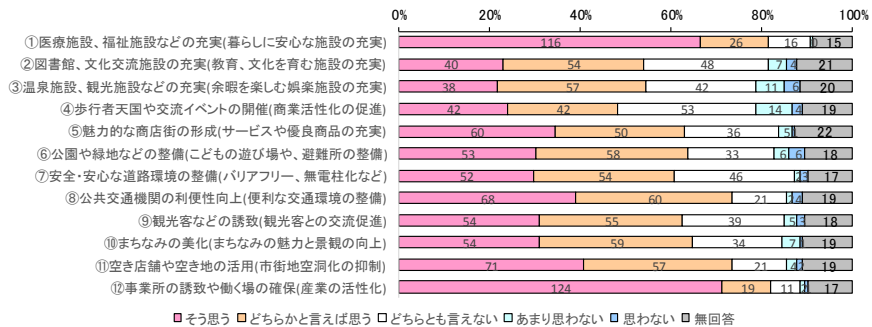
20～39 歳



40～59 歳



60 歳以上



⑬その他、【中心市街地の活性化に重要なこと】についての意見 ・病院は多いが、小児科専門医のいる病院がないので、多くの人は大宮方面に出向いてしまう。耳鼻科・眼科・小児科など専門医がいてくれると福島方面の人も大子町に出向くと思う ・⑤について 魅力ある商品の充実が必要(特に衣料品)。若年層を引き付ける商品が少ないと思う。中心商店街の<u>努力</u>がもっと必要 ・働き場所の確保→人口増加 ・若い人が遊べる場所が少なすぎます。若い人には、少しも楽しめない町で悲しいです。カラオケ店を設置してください。CDをレンタルできる店を建設してください ・子供たちの働く場所をぜひ確保して欲しい。皆帰ってくると思う ・高齢者の方々に対してのおもてなし。独居生活の人々たちの医療施設への交通手段への充実への向上 ・空き家等を利用し、大子町の歴史や文化を伝え、現在利用できるように又、新しい職業も(店舗)募集してはどうか(全国ネットにて) ・若い人が出て行って戻ってこない町。働く場所、交通インフラの整備等にも力を入れて、”戻ってきたい”と思う町にした方がいいと思う。定住住宅もそういったものが整ってからでないと形骸化してしまうと思う ・中心市街地、店舗、駐車場の活性化 ・まいんができ、今までトイレが市街地に無かったのが不安だったが確保され、ある程度は安心でき、散策できるようになりよかった ・ここに掲げてあることはどれも重要だと思うけれど、今、大子町の現状を考えたら若者の流出をまず防ぐことだと思います。より若い人たちが楽しく過ごせてほから若者が来てくれる事が大子町の活性化だと思います ・読書のまちということもあり素敵な図書館ができたらとてもうれしいです ・大子町らしさ(他の市町村と異なる)が感じられるまちづくり ・医療施設→町の病院は信用できない 他県の大きな所へ行きたくするような病院の態勢 ・袋田の滝へ来た観光客を長時間滞在する場を春・夏・秋と変化する植物園(自然園)を設置してはどうか ・①の医療施設の充実について 現在の大子町にある病院には通院したいと思わないので若い方でも、病院に(大子町の)かかりたいと思える施設・医師の充実を図っていただければと思います。 ・①～⑫重要である？ ・大子町は老人が多い町です。お年寄りの方から町内に休むベンチが少ないという声を聞いたことがあります。ベンチがあれば休むこともできるし、いろんな人と話をする機会にも good ・まずは若い世代が働ける場所を提供しないかぎり、地域の活性化は無いと思います ・地元に残りたい住みたい人はたくさんいますが、⑫がなく他へいかざるをえないと思います。大子町を本当に”ほこり”と思うのなら若者を助けてください ・昭和レトロの街を生かし、おしゃれできれいな中心市街地にしてほしい。温泉のまちをうたっているならば、足湯やカフェなど(足湯カフェ)など気軽に立ち寄れる場所がほしい。温泉街をもっとアピールしてほしい ・年間を通して観光客が来るようにすること、4月の桜はよい。5月～10月に欠けて大子に来てみたいと思えるような環境を整えること。見所も分散しないように。例えば5月は「つつじ」6月は「しょうぶ」四季を通じていつでも客がこられるようなまちづくりがよいのでは ・中心市街地の活性化は、住民に対してか観光客に向けてか、それによっても考え方が違ってくるのでは・・・？ ・人口流出、若い人が出て行く町、それを食い止めるにはやはり働く場所、住居等、企業誘致です ・町の活性化の一番の重要性は働く場の確保だと思う。観光地としても、中途半端。労働の場も中途半端、林業関係も中途半端のように思われる ・働く場所が無いことはどんどん若者の町離れが当然のように思われる。働くところがあれば、ふるさとを嫌いな人はいない
--

と思うし、外へ出なくても落ち着いてくれると思う

・建物の高層化による駐車場の確保が必要。市街地に公園と避難所

・働く場所がないため、大子町で働くと思う人たちが少ないと思う。若者が住みやすい環境づくりも重要ではないだろうか

・若い人たちの働けるまちづくり

・人が集まることが大事。市街地でやる行事を増やすこと

・まず、中心市街地をどのようにしていきたいのかがよくわからない。観光地は袋田の滝まででよいと思う。人口が増やしたいのか観光客を呼びたいのかがはっきりしなければあいまいで話が進まない

・駐車場の整備が必須と思います

・特色ある優良商品の開発による大子町ならではの物産を準備して販売する。そんな物流と販売している生産者もある。こんな事業者に補助する態勢を町としてもとる必要がある

・働く場所が無いのに、活性があるはずも無い

・まいんがあるので建物は必要ない。施設が重複している(計画と)。働く場所や若者が住んでもメリットのある施策を考え、人口流出を防ぐことが重要と思う。高齢者ばかりの施策ではなく、子供、若い世代、これから家族を作る人々にも目を向けてほしい(給食費助成とかではなく(子供がいない人に何の恩恵も無い)子育て住宅)

・①～⑫全部大事なことと思います。「活性化」単純に考えれば高齢者を含めて生き生きと生活できる環境の中で生きがいに直結した動きが必要と思われます。その為には、一人ひとり町民が楽しい生活が求められていて、幸せでなければなりません。健康であり、生活できる経済力が欠かせないことである。働ける所でありたい

・空き地利用。駅前とか。大子名産物のリンゴの木を植え下にベンチを置き、休み場を何箇所か作るのはいかがでしょうか。茶の木(花)、ブナの木

・若い人のはたらくとこがほしいです大子町の表にもよろしくおねがいします ・誰もが安心して働いていける大きな職場があれば・・・？

・他市や町からも来たいと思わせるような店を多くして、たくさん歩かなくても(近い場所に)お店が集まっている、ショッピングモールのような感じにするといいと思う

・⑪⑫がまずやるべき。⑦は望ましい

・大子町は物価が高いとよく聞きますが、給料も他の県に比べれば安いです。私の職場も時給 700 円ですから

・SL やゆるキャラの活用

・福島のように、屋内で子供が遊べる施設を充実させてほしい(土日でも利用可だとよい)。授乳やおむつ交換が出来る場所をもっと増やしてほしい。大子町は子連れで外出するとたいい車内で済ませなければならない

・街がきれいゴミが落ちていない街は魅力的で訪れるお客様に感動いただき再訪問や口コミによる来訪者の拡大につながるのでは。毎月メーデーを清掃の日として街と町民の心をきれいにすることはどうかと思います

・働く場所が少なく給料が少ないから人(子)がいなくなる！

・人口減少を止めるには働く場所の確保が重要と思う

・空き店舗が多くなると、どうしてもゴースタウンの様なイメージになってしまう。大子駅前から空き店舗がありイメージが良くない。大子町の特産品等が展示してあるだけでもちがうのでは。

・町民が生活していく中での活性化が一つと、滝などに来訪した観光客が車を置いて楽しめるような活性化の二軸が必要。館を建てることだけにこだわらないで、お金をかけなくても花々が咲き乱れているだけでも人は集まってくる。(花見山なども◎)

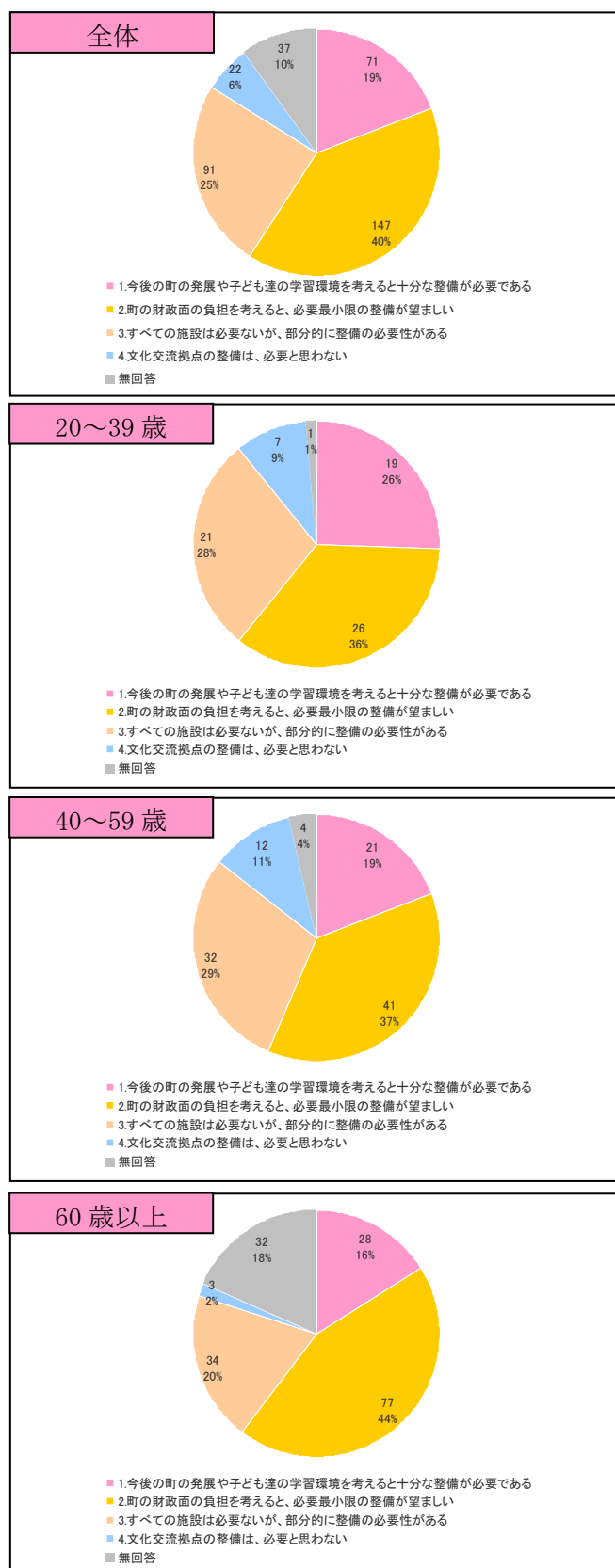
・若い世代の人たちに残ってもらえるようにすること、まず。働く場が一番だとおもいます。(収入が良くないと残れない)

・小さい子供がいながらも働けるような場所。働ける時間に融通がきくところ。難しいとは思いますが、子供がいる身としての意見です。そんなところがあつたらいいなと思いました。

・空き店舗や空き地の活用は、中心市街地が衰退していると思われる状況下で、地元住民の協力を得る事が出来るのか？

- ・働く場が無いために帰ってこない友達が大量います。観光客を呼ぶだけでは一部の町民のためにしかなりません。観光客ではなく、大子町民を増やすことを考えてはどうか？
- ・質問はいずれも重要な課題ばかりであるが、限られた予算の中ですべてを実現することは不可能である。そこで、ボランティア活動で担える分野については町民に働きかけて組織し、住民との協働により実現を図るよう工夫する必要がある。
- ・イベントのPRがイマイチで、いつやっているかわからない(ポスターのはる場所が限られている)
- ・まずは地元の若い世代の人が、自分の町に足を運んで利用する。コンテンツの形成
- ・まったく項目通りです。具体的に取り組んで欲しい
- ・油絵パッチワーク等それぞれ観光に来た人達が興味をもち体験できるようなところ、又それを販売してみたいかなものか？家で楽しんで趣味をしている人たち(お年寄り)の作品なんかも販売してみたい。高齢者が病院の帰りなど身軽に立ち寄り、雑談食事などできるスペース
- ・安全な施設があっても金銭面などの問題があつては利用できない。②③の新たな施設の建設は必要ないと思います。便利な交通環境は安心な暮らしにつながると思います。⑫大子町の立地条件を考えると誘致は難しいし大子町の働き手が少ないことが大きなデメリットだと思います。まずは大子の職場が良くなっていかないと
- ・若い人が出て行かないようにこう所得が得られる会社を誘致して欲しいものです
- ・やはり”人”でしょう。大子はどうしてもかたまったコミュニティができあがっていて、人を受け入れることもてなすことが下手なような気がします。限られた人たちのための中心市街地でなく、町民全体のための中心市街地になってほしい。
- ・一番重要なのは、地元住民の活性化への意欲の向上
- ・①②⑨⑫については町として重要では？
- ・観光では生活していけない。若い世代を大子に残すには企業の誘致が必要
- ・温泉の町といっても何もなく、若い人たちはこないと思う。
- ・観光客を袋田の滝より先(中心部)に呼び寄せることと同時に、町民の利用者(特にこそだ出世代)の増加が大切だと感じます。
- ・観光客が一日遊べる必要があると思います。今ある施設が簡単につながって移動できたり、(汽車のバスをおやき学校、茶の里公園までまわれるようにするとか、大宮、福島方面まで行って観光客を集めてくるとか…)道の駅に施設をまとめるとか。田舎の老人のほうが、もっと簡単に街に出てこれるように交通手段を安く便利に使えと良いと思います。
- ・働く場所はとても重要
- ・増える高齢者をターゲットに趣味やサークルを空き店舗、空き地を利用しては？
- ・空き地や廃業となったお店はそのままにしないで、なるべく早く次のお店にしたり公園にしたりする！！
- ・若い人が働く工場や商業の誘致をして欲しい。
- ・大子町にしかない町並みにする。

問4：【文化交流拠点の整備】（別紙，文化交流拠点の必要性を参照）について，あなたはどのように考えますか。

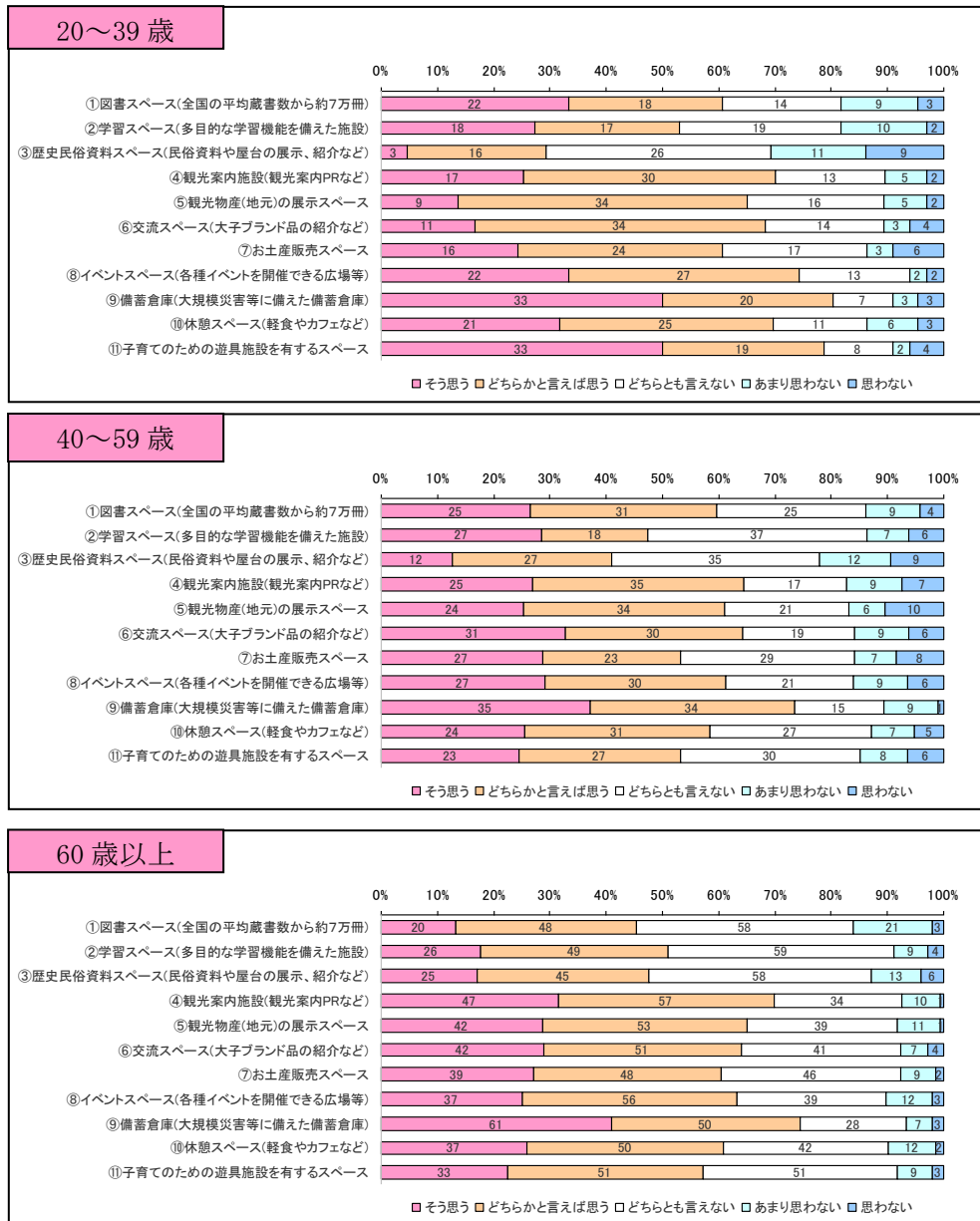


問5：問4で【必要と思わない】と回答した方にお伺いします。その理由についてご記入下さい。

問5についての意見

- ・中長期的な政策が大切だと思う。施設を増やせばいいってものではないと思う。「まいん」を作る時点で、ここまでのビジョンが考えられなかったのか。高齢者が多い町で、また施設を増やしたら、財政の負担が問題ではないのか
- ・赤字の現状でさらに経費をかけるのはどうかと思う。人口も減っているのに町民の負担が増えるのでは！？町職員・町会議員等に、町をもっと良くしようと考えたいのであれば、自らの収入(給料等)を減らしてから構想してほしい。町長もです
- ・金の無駄。他所から来た人は興味を持たない
- ・利用する人が少ないから
- ・高齢化県北一の所では、ハコモノはもう必要ない。いかに老後を充実した生活が送れるかが課題
- ・お金が無いと思うのでお金がかからないようにすべき
- ・現在の大子町にとって、町民が働ける場を設けることが大切だと思う
- ・図書館は現在のもので十分。観光案内・物産などでまいんで十分。新しく作る必要は無い。今、ある所を利用する
- ・まいんと重複するため。空き家活用を考えた方がいいのでは。新しい施設を作るなら、老朽化した役場を建て替えたほうがいい。エレベーターもないので、階段を上がるのが大変(お年よりもベビーカーも)
- ・中心市街地にそもそも観光交流はあまり意味がないように思う。すぐにすたれそう。わかりづらい。何か作るのに町の金を使うのは・・・町長の儲けになりそうではからしい
- ・財政面が第一だが、町の少子化や若者離れ(働くところがない)を考えると、それほど必要とは思わない
- ・箱物を作れば良いとは思わない。汽車からの景観が開けたのに建物で遮るのはどうかと思う。中心市街地には空き店舗がある。それを利用してはどうか？イベント会場くらいで良いのでは。
- ・町民自体が動き、町民の方々、町に移住したい人に、今ある宅物を有効活用してもらおう。町がすすめ補助する。
- ・町の財政面が厳しい状況であり、少子・高齢化であることから、もっと若い方が安心安全にすごせる地域づくりを考えるべきと思う。もっと余裕ができてから考えるべき。
- ・そのために「まいん」があるのでは？そもそも「まいん」を作るときになぜ図書館を作らなかった？みんなが図書館が欲しいと言っていたのに。
- ・大子町は年寄り(病者)が多いのに大きな病院がありません(近くにあれば助かります)
- ・本当に必要ですか？
- ・箱物ばかり造っても、経費ばかり出て、最後には無駄になる
- ・財政面を考えると必要ない
- ・中心地は面積に限りがあり、あまり発展性がないし、イベントをやるにしても駐車スペースが少ない。

問6【文化交流拠点の施設機能】について、あなたはどのような施設機能が必要だと考えますか。



⑫その他,【拠点施設】に必要と思われる機能施設等 ・足湯など所々に作る ・駅前開発 ・休憩所は奥まった所にあるのは知っていますが一々不便なので利用させて頂いていません。駅前にあると便利なのではないですか ・⑤⑥⑦項については分割する必要はなく一体でいいのではないのでしょうか。図書、学習スペースと休憩スペースを分けたほうがよい ・対象者？(町内の人、町外の人) 前者→①②③⑪後→④⑤⑦共通→③⑥⑧⑩ ・文化施設の発展が、少しでも大子の人たちの為になる様頑張ってください ・大子町に来る方は皆車で訪問。駐車場があればゆつくりできると思う ・イベント開催の際の高齢者への配慮・参加を促す 高齢同士での談話する場を設ける 出張ペットセラピーの場 ・年間を通して芸術祭に参加した作品等を展示しておけるスペースとそれに伴った交流の場が必要と思います(若者参加も) ・家族連れがちよっとよりたくなる道の駅より少し発展型の娯楽スペースができるといいと思う。栃木県のろまんちっく村はともいいと思う。ただ、図書館も設置となると地元の人のための施設？すべてを対象としている施設？施設を利用するときに観光者がたちよるスペースと地元の人が利用しやすいスペースが混在するとめんどくさそうな気がします。おみやげと図書館の駐車場が一緒に車の出入口がごちゃごちゃする、とかはちょっと嫌かな、と・・・ ・人の流出を防ぎ、U ターンをしなくなる環境、移り住みなくなる環境、甲子園出場をめざす下宿・寮、指導者、後援会、町民の盛り上がりをする行動計画 ・図書スペースもそうですが、まず大子町に本屋が無いので、出店してほしいと思います。雑誌などはコンビニでも買えますが、「本」を買う所がないのは県内でも少ないかと・・・ ・自然と子供を持つ親が遊びにこられる場所があれば、町外に出ずに町内で遊ぶことができる。安心して遊ばせられたら町外の人だって利用する。お金だって使うだろうから一石二鳥。⑪が最も大切なのでは・・・ ・⑩のスペースにコンビニがあればいいと思います ・拠点施設より医療施設と福祉施設を優先するべきだと思います ・街の財政面は大丈夫か？ ①利用する人は何人くらいいますか？②まいんでいい⑪子供が少ない ・観光物産は、茶の里公園、おやき学校など遠くて行かない人が多い。観光客が一ヶ所で買い物ができる場所、袋田地区などで販売できると良いのでは ・前項でも書きましたが、この施設もまず何を目的にしているのか？住民のため？経済効果(観光客)のため？あれもこれもと欲張りすぎでは何も変わらないのでは？まいんと重複する部分もあるのでは・・・？今ある施設を見直しながら時代に合った施設を作ってほしい。図書スペースはとても必要だと思う。読書のまち宣伝をしている以上、プチソフィアでは十分とは言えないと思う ・図書・学習のスペースは必要だと思うが、現実的に考えてみても、子供が少なく、大人としても使用者があるかどうか？あまり金をかけるのもどうか？ ・歴史民俗資料スペースはいらない ・若者が少ないのだから、もちろん子供も少ないわけですし、どうしたら町から若い人が出て行かないかという事を考えてください ・町民(これから住むかもしれない人も含む)のための施設なのか、観光のための施設のなのかをはっきりした方がよい ・⑨備蓄倉庫は廃校になった所などを利用すればよいのでは！ ・大子の自然を生かした四季を感じる公園(昆虫等の生息できる(見学できる)環境)。近くには B 級グルメなど食す事ができる施設があれば。観光スポットの整備など ・現在考えを進めると町民一人ひとりの「心のゆとり」にたどりつく。文化に感動を持つ日々の生活に求められる。教育の力に

よる施設と機能でありたい。町民一人ひとりが生きることに対して考えを深め、向上し、もっと夢とか希望の持てる日々にするため、自らが明るさを求めたい。いい町にしたい

- ・⑩⑪は若者、子育て、高齢者が一緒に気軽に利用できる場所がすぐにでもほしいです
- ・子供たちが少ない。施設機能とかよりも、人口をふやす努力が必要ではないかと思う
- ・観光ばかり言っていないで他に収益を上げることこそまず一番に考えるべきである。収入がなければ人は皆他の町村に行ってしまう。役場職員の給与が高すぎるのである。8時から17時までであれだけの給与をもらえば夫婦2人で働いていたらいくらもらえるんだ。民間の厳しさを思ってお母ちゃんの方をパートにすれば若者を採用できるでしょう。何か腐っている
- ・交流のスペースや、観光物産のスペースを考える前に駐車場の確保など人が集まれる環境を作るほうが先なのでは？
- ・まいんや地図書館、道の駅がヶ所に集まったような建物だと感じます。子供の遊具で夕方までいられる場所だと良いと思う(大田原市のトコトコのような)
- ・学習スペースは防音でしょうか？人が集まる場所になるなら、学習スペースは静かで集中できるように配慮すべき。年寄りが赤ちゃんに触れ合う機会はあまりないので、そういう場所があると年寄りの方も元気が出るのでは！
- ・目的と手段との関係性を整理すると問4との関連では、今後の町の発展③④⑤⑥⑦⑧・子供たちの学習環境①②③ JRからの導線に加え広いスペースの駐車場を設けてはどうかと思いました。また、レンタサイクルもあれば良いと思います
- ・⑤展示と販売の広いスペース必要！
- ・保育園やデイサービス(老人施設)なども併設されてたら良いなと。
- ・どれだけの人が来て利用してくれるかが心配だ。
- ・図書スペースが街中心にあると歩いていける人が多くなると思うが
- ・既存施設、とくに文化福祉会館との機能が重複する部分があるのではないかと。総合的に考えるべきか？
- ・若い人と年配の人が交流出来るような施設
- ・図書館等の施設は必要だが、現在のプチソフィアの利用状況、少子高齢化現象や将来の人口減を予測すれば、全国町立図書館の標準である7万冊とこれに見合った閲覧場所等のスペースは、必ずしも必要ではないと思います。
- ・歴史民族資料施設は必要だが(旧山方町や大宮町にも現存する)、屋台展示を含めると広大なスペースを要し予算も嵩むので、見直すべきと思う。しかし、最終的に屋台を展示するというのであれば、次の条件を考慮してもらいたい。それは町内での差別や不満をなくすため、全町内の屋台を対象に歴史的・文化的価値を有し、鑑賞に耐え得る美観を備えたものを厳選して決定すべきである。
- ・温泉の町をアピールする意味で、足湯施設等あればいいと思う
- ・こんにやくの民俗資料を展示するのはいいが、それだけでなくこんにやく製造体験もセットに
- ・薬局が多くありすぎると思う。少子化が進んでいる現在、子供子育て問題を最優先には考えられない
- ・①②③は現存の施設の中に考えるべき
- ・現在のイベント開催になにか不自由があるなら必要でしょう。軽食カフェをするのに、かかる経費(材料人経費等)を考えるとちよっぴり無理かな。来た人がゆっくり休める空間が良いと思います。図書スペースと一緒に考えます。もちろんゆっくり読書できる部屋は必要ですが
- ・今ある施設を生かしきれていない。”まいん”に人があふれるのはイベントがある時だけ。もっと自由に若者からお年寄りまで利用できないでしょうか。プチソフィアはどうなるのでしょうか。
- ・色々つめこむ中途半端な施設になりかねないのでは？本来の目的を重視した施設づくりを。
- ・どんなスペースも利用する人が少ない。スペースがあっても人口が少ないから、人も集まらない。大子町に住み、子供を出産する人にお祝い金をだしては！！
- ・文化交流拠点は観光客の集客を考えるのではなく、幅広い町民が利用したくなるような施設を作るべきだと感じます。ここにくると元気がある。明るくなる楽しい施設
- ・③などわざわざ造る必要はないと思います。全国で無駄になっている箱物があります。民族資料展示などは一度見たらそ

れで終わりです、もったいないです。

- ・衛星電話のような震災を経験したからこそ必要な物事や、震災時の大子町の当時のことを紹介するスペースも欲しい。原発等の緊急時における非難 等を紹介するスペース

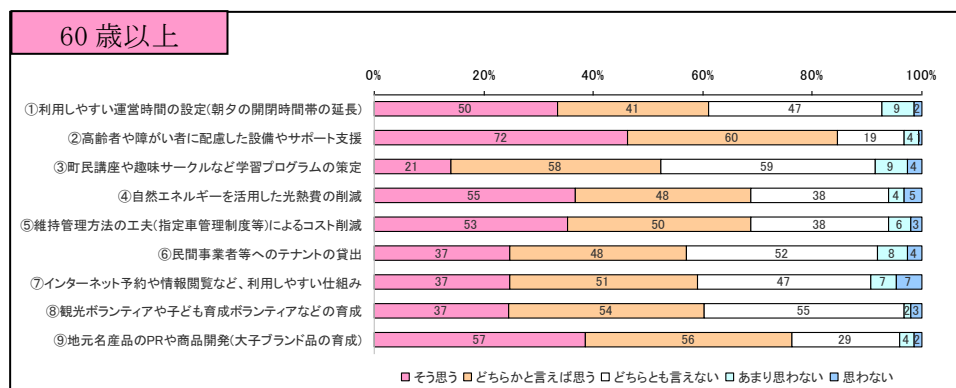
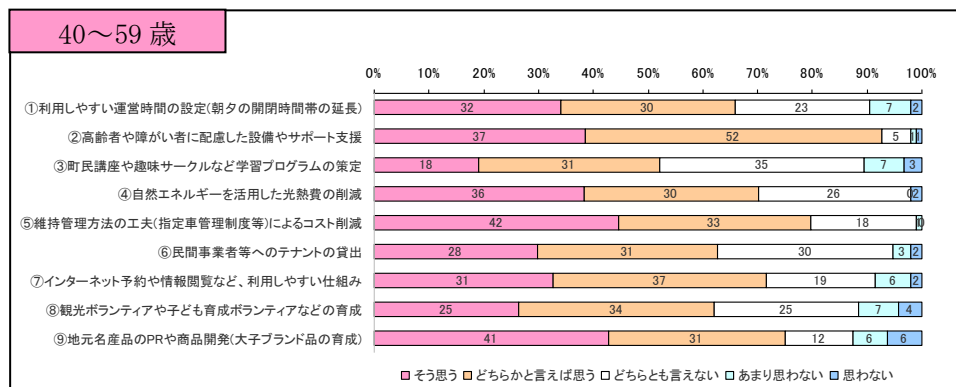
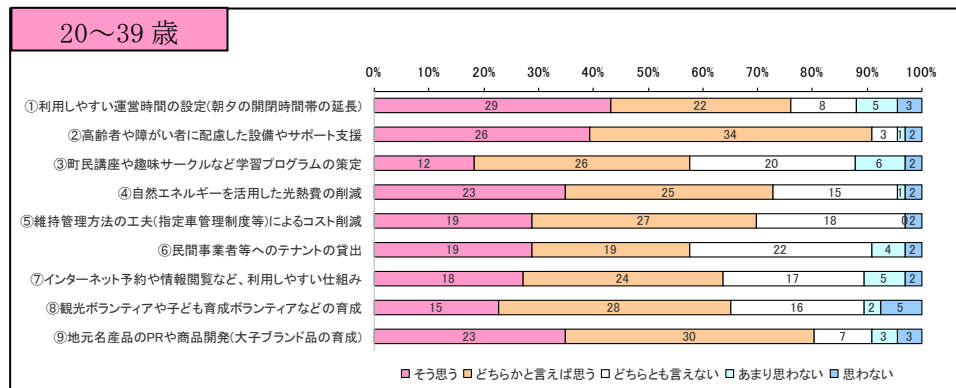
- ・観光物産を含むお土産や休憩スペースを設置した際、町の活性化の為という名目で採算を無視した価格を設定し、道の駅同様開発公社での連結決算ということで赤字を表に出さない仕組みをとった場合、まじめに経営している同業者の商売に少なからず悪影響が出る事が予想される。そういった間接的な税收を使い、蒸気のようなことになるのは納得できない。

- ・大子町2013年の歴史を分かりやすく表現する。

- ・野球場(公式戦の出来るもの)

- ・フォレスパ大子のような広い公園までは必要ないが、小さな公園がもっと欲しい。子供が普段飽きてしまう。

問7【文化交流拠点の管理・運営など】について、どのような点を重視したほうが良いと考えますか。



⑩その他,【文化交流拠点の管理・運営】についての意見

- ・温泉施設の閉館時間が早すぎる(休日くらいはもっと長くやってほしい)。時間が短いと温泉の町とは言えないと思う
- ・何と云っても私も 85 歳の高齢で私の意見等何のお役にも立ちません。どうぞお許してください
- ・運営については協議会の様なものを設けて定期的に検証, 改善をした方が良い。維持管理については一部ボランティアの活用も考えてはいかが
- ・高齢化→健康促進・ボケ防止のためのクラスなど 少子化→子育て支援(ベビーシッターなど)
- ・施設の発展に心がけるより, 現状維持で十分ではないでしょうか? 発展に努める所は, 若い人が大子に残ってくれるための施設や仕事ができる所を作成した方が良いと思います
- ・袋田の滝では, ただ見るだけ。商店街はお客様のためではなく, 自分の利益だけ求めているからゆっくりできない。子供と女の方が楽しめる場所を造って欲しい。たとえば足湯とアスレチックスジャングルジムとか?
- ・定期バスの本数が減って高齢者には不便になったように思うので, みどり号を週 1, 2 ぐらいの本数にして利用してもらう
- ・真剣に町の発展に関わる人材を全国より募集してはどうか(期限を切って)
- ・民間へのテナント貸出は, そうすることにより集客が見込めるなら入れるのも 1 つの方法かと思います。コンビニとかでしょうか... 集客につながらない民間業者なら貸出してもあまり意味はなさそうなのでそれならあまり重要ではないかと思います
- ・ちまちま色々やることよりも, 大子の特徴を全国にアピールできることもやる
- ・観光より商業を充実させてほしい。外部より, 企業や商店を呼んでほしい
- ・問 6 と同じく, 上記の案はよく考えてみるとやること自体はみんな良いことと思う。しかし, 大子町に今の時代ではお金をかける必要ないと思う。財政的に大変と思う
- ・コスト削減は必要だが, サービスが必要ではないか
- ・夕方店を閉めてしまうのが早すぎるように思う。もう少し長く, せめて PM8:00 頃までやってもらえればいいかなと思う
- ・ブランド品を商品開発しても供給できるだけの量が確保できないとしたら PR する意味は無い。外面をよくしてもダメ。地道にいった方が...。よいものは PR しなくてもよいと思った人が PR してくれる(タダで)。そして一気に広まる。ダメなときもすぐに全国に知れ渡るので順序が大切
- ・前向きに努力していること十分理解できます
- ・大子町を多くの方々にしてもらうためにも, PR はどんどんしてってもらいたい
- ・箱物ばかり作るから町が大変になってきている。南の方の町村を見てきて他の町村のまねばかりしていると町民が一番大変になる
- ・町民の活動を支援するような施設が望ましい(子育てサークルなど)
- ・サークル活動など利用したい人には自由に貸出できるといい
- ・本拠点とまいんとの機能分担を明確にした上で, 町民の視点と観光目的で訪れるお客様の視点で利用しやすい仕組みをお願いします
- ・町民の働く場が増えたら◎
- ・70 歳以上になると, インターネットなどは, ついていけない。
- ・公民館が今は何かおかしい。昼休み(12 時~13 時)事務室入り口のカーテンが引かれ入りづらい。利用者は昼休みに利用申込等, 利用できればと思う。無理か?
- ・グルメブームなので, 大子でも, 大子だけでなく栃木や福島などの協力を得て, 「B 級グルメ」選手権などをやったらいいがでしょう?
- ・現在の道の駅における「大子味ランド」の店舗は中途半端の規模で, 大子町の特産品やブランド品, 生鮮野菜等の PR と大量販売に応えられる状態ではないように思われる。そこで, 大子味ランドに限らず希望する民間事業者テナントの貸し出しをすることには賛成である。

- ・テナント貸出をしたところで採算が取れないと撤退するだろう。東京みたいに人が多いわけでもなしに
- ・お金をかければよいとか人の数をかければよいとかではなく、低コストで何かできると思います。
- ・まいんの施設でも大丈夫な気がするけど
- ・まいんは文化交流の場ではないんですか
- ・大田原市の”トコトコ”のような管理, 運営が理想だと考えます。
- ・分野に携わっていなければ, 意見は何とも言いません。
- ・現在ある文化福祉会館「まいん」との違いや今後のそれぞれの機能はどのようなになる(変化する?)のかなと思いました。
- ・③は「まいん」とダブルため

問 8 : 【自由意見】 中心市街地のまちづくりについて、アイデアや意見等がありましたらご記入願います。

- ・観光に来ても見所が少ないと思う(滝くらい)。これではリピーターが少ないと思う
- ・「百段かいだんのおひな様」を大きく PR しているが、大子町の物産、土産物など出店があるととても楽しめると思う。何も出ていないので、もったいないと思う
- ・もう少し若い方々のご意見をどうぞ
- ・町の住人の増加が一番いい
- ・企業の誘致→特に IT 企業をターゲット、環境の良い場所に小規模な工業団地を建設する
- ・高齢者施設等の発展も大切ですが、若い人が喜ぶ娯楽施設が欲しいです。カラオケ店(ビッグエコー等の子供も行ける所)や CD がレンタルできて、本も購入できる店を建設してください。お願いします
- ・上岡小学校の跡地を見学に行ったが目の前で時間でずとシャッターを閉められて子供が東京からワザワザ来たのに見られず残念!! 時間延長をお願いしたい。係員の方のおもてなしが欠けていると思う。事務的残念!! 土日に SL バスが大子駅から滝を往復乗ったが場所の案内も無く無言。袋田の滝も周って欲しい。走りが速い。大子町良い所を再度案内して欲しい
- ・町を活性化するには、若い人たちに意見を聞いた方が。地元名産品がどこで販売しているか分からない。読売の地域情報誌よみうりタウンニュースに街の話題で PR するとか
- ・街の活性化を目的、過疎化をくい止める試みなのだと思いますが、中心市街地のまちづくりだけでは難しいのでは。活性化していないので人が減り、若い人はどんどん働く場を求め流れる→出生率が下がりお年寄りのまちになっている。若い人が留まる町へと変えていかないとこの先不安です。もはや、観光ばかり重視できないと思います。働く場、会社の誘致、お店(大子で服を買うより水戸、宇都宮という事は、求められる店が少ないのでは)誘致。土地はたくさんあるのですから、観光だけでなく、少し都市化を平行して考えて住みたい便利な町への対策も考えて実現できたら人口が減る事が防がれて中心市街地のまちづくりも充実したものになるのではないのでしょうか
- ・高齢者の人々が市街に来てゆっくりくつろげる場所の設置。買い物等に来た人がカートではなく買い物しやすいように(高齢者)シルバーカー等を設置し買い物
- ・産業の活性化を図り、安心して若い人が住める町 町から人口を減らすのではなく、人口が増える町にしていかなければならないと思う
- ・町内にずっと住んでいと周りがよく分からなくなってくる。全国より募集し町を活性化してくれる人を選び、期限を切って<<古き大子、良き大子、夢ある大子>>をみんなで作っていいと思います。私も参加してみたいですねー
- ・大型店の出店やスキー場を作る・・・など。「昔、こんなことがあったよ」と聞いたことがあります。以前の失敗を繰り返さないよう。子供たちもずっと大子にいたいと思えるような町になることを願っています
- ・無駄に施設ばかり増やすのではなく、今ある施設の有効な活用方法を考えた方がいいと思う。又、どんどん高齢化が進んでいるので、中心市街地までの交通整備の方が大切だと思う。大子町は合併もしていないので、井の中の蛙な気もする。超高齢化。人口減少。もっと中長期的に考えていかないと、この町の将来が本当に不安である
- ・私の住む集落には一応災害時の避難場所がありますが、利便性が無く(水道・ガス・トイレ)の設置がありません。それでも避難場所と言えるのか? 疑問である
- ・総合病院があると便利
- ・空き店舗など営業を希望する人に利用しやすくして活気を取り戻し、町全体の営業時刻をもう少し延長して欲しい。観光客などが真っ暗な町並みではがっかりしてしまうと思うし、住民も買い物しやすい。栃木県的那須にだって負けない観光名所があると思うのに、何が違うか感じてほしい。各店舗の PR や良質、アイデアのある商品をもっとふやして他県からの人を呼び込む努力が足りない。それと、観光時期の渋滞は、1 本道の 118 号しかないせいだと思う。もっと便利な所にしないと人は集まらない

・観光、農林業では人口増は不可。工場誘致策で、人口増を考えてから。今のままでは活性化は不可

・高齢者たちへのやすらぎの場 障害者たちへのやすらぎの施設、送迎つき ペットカフェ(猫・犬) 書店を増やすべき

・俗っぽい話にもなりますが、”観光者がお金を使いたくなる”物や場所が増えたら、イコール活性化につながると思います。商店街の通りを現代風にライトを使ったら夜の街並みがおしゃれに見えるような気もします。プロのアーティストにメイキングしてもらおうとか…。あとは商店街に等間隔に飾ってある旗を、いかにも商店街っぽい物ではなく、”しゃも組合”の紺基調に白文字のような趣のあるものにすると街があかぬけて見える気もします。たきまるくんのおみやげをもっとつくるといい。たきまるくんのペット、とか少し無理もあるかもしれませんが動物モチーフのキャラも人形とかクッキーとか売れそうな気もする。小学生が買いたいキャラグッズもあると地元の子の間ではやったら買ってくれるし、ママの口コミで近隣地域にも広がるかな…(これは考えすぎでしょうか)

・大子町の名産品や一品(自慢できる)をブラブラ歩きながら買えたり、楽しめたりできるアーケード街やショッピングエリアなど東京のショッピングエリアの創出。再度、大子町から甲子園を目指す。外人部隊賛成、家族で一時移住しよう。大子出身の子弟を3年間大子に預け、甲子園を目指そう！行政も後押し！

・自然エネルギー太陽光発電はどんどん利用すべき。各家庭にというように町全体で取り組むべき。このあいだ頂いたラジオもったいない。電波が悪くききににくい、つまらないという人の話を聞くと残念です。ただでさえ、税が8%になって家計が大変なのに町はさびれて活気が無く住みづらい。たくさん生活に苦しんでいる人がいますよ。もっと町全体を知ってください。お願いいたします。

・矢祭町をみなうべき。仕事を作らないと、若者がいなくなる

・人口が減っていきつつあるのに、町職員(臨時を含めて)は大きく減っていない。公用車もまだまだ多い。…これらを先に対処してから後、まちづくり構想をするべきだと思う。議員も議会でも多々発言・質問しても、実際その場の事で終わってしまうのがほとんど…名ばかりの名誉職で多くの手当てをもらって…こちらのほうを先にどうにかするべき。「まちづくり」の前にするべきことはもっとあります！！

・観光の町という考えから変化するべき。無駄な施設を作るより借金を減らせ。外部から大型商業施設を誘致するべき。車の移動しやすい道を作ったり、整備を進めることが必要

・観光客がたくさん来るよう、空き地に多くの花を植える。人は花が大好きである。人が集まる場所でもある

・無料で子供を遊ばせてあげられる施設を考えてほしい。広域公園のすべり台は小学生には良いが幼児には向いていない。遊具があるが駐車場のすぐ近くで危ない。フォレストは利用料が高く利用しにくい。温泉が出るのなら、子供が遊べる(水遊び)施設を作る。安心して遊べる遊具、芝生。そこに特産物コーナーあれば利用します。子供世帯の意見を大切にしてほしい。今の構想は無意味です。反対

・若い世代がどんどん大子町から離れていくのは、働く場所が無く、医療施設もすぐ近くにないため、生活の基盤となるものが気づけないので、どんどん人口が減少していているというのがひとつの原因になっていると考えています。景観を良くする事よりも、先にすることがあると思います

・町の中を病院等に通う高齢の方を見かけますが、足元が悪かったり不便があると思います。貸手押し車、つえ、高齢者に優しい街づくり ・若い子たちが集うまちづくり(全国〇〇〇ゲーム大会)等イベント ・天気は左右されず、のんびり買い物ができる(屋根つき)商店街

・働く場所がたくさんあれば若者も町に残り活気のある町になると思う。観光ばかりに力を入れず、産業活性化に力を入れてほしい

・新しいものを作るのは、なるべく町民の負担の無いようにしてほしい。古いものを上手に使用してみても… 林業の町なのだから

・厳しい財政状況の中、新しい取り組みをするには町民やまちづくりにとって、本当に必要なものを見極め、実施していくことが必要だと思います。どこに重点を置くのか。外観だけにとらわれず実用性のあるものを検討していただきたいです

・今のうちの子供たちが、「大人になってもこの町にいたい！！」という気持ちになれるようなまちづくりを心から望んでい

ます

・人口減少の今、清流高校の生徒数減少をどうい止めるか？林業といっても林業課に入る生徒が少ない現状、魅力ある内容を考え中身の濃い科目を作り将来につなげるよう都会へ流出しないようにしないとますます老人ばかりになってしまう

・高柴牛牧場は必要ない

・街中にスポーツジムも健康維持にあればいいと思う。まいんの中にでも空いているところがあれば？

・大子町に限らず少子高齢化が進んでいます。特に年々人口が減少しております。特に若い世代が町からいなくなっております。そして大手企業でなくても10～20人少人数の雇用の場が必要だと思います。大子は観光や農林業環境に恵まれています。それぞれ利用してこそ子育て支援、長寿社会、学識経験者たちが多数その力を入れてまちづくりに頑張っていきたいです

・まず人口を増やすこと考えねば、何を作っても、何をやろうとしても使用者がいなければ仕方ないと思う。それにはまず働く場を作り若者を定住させ、人口を増して、環境を住みよく、安全な所を作る考えとしたほうがいいと思う。いくら施設に力を入れても、人がいないことには困る。大勢の利用者が見込まれるのなら、間7も最高と思うし、大事だと思われる

・何もできないのなら、やらないほうがまし。どんなアイデアもこの町ではかなわない。何も無い田舎町のままでよい。今さら事業所を募っても、こんな町は嫌われる

・一般の車、駐車場が少ない。押川の水郡線鉄橋の上流にあるせきが2ヶ所ありますが、そのうちの上流のせき1ヶ所必要ないと思いますので壊してもらいたいと思います。長岡の下部の民家では、床上大水害が2～3年に一度あります。耳元で聞いてください。堰がないと水位が下ると思います

・歴史民俗資料スペースは必要ない。その分図書館の蔵書数を増やしてほしい

・大子町の財政事情・環境・町民の意向等他町村のマネでなく、大子町独自の活性化を

・若い人が働く場所と嫁問題について考えてほしい

・最近スケートボードを通じて若い人たちとの交流があります。主に公園を利用していますが、夜9時にはしまってしまうためあまり長時間で きません(集まるのが夜のため)。わざわざ内原の公園に行ってスケボーしたこともあります。遊ぶ場所が制限されてしまったりと、以前よりも若者を見かけなくなったし、活気が無いように感じます。もっとスケートボードができるスペースなどを造ったりすれば、若者も遊ぶ環境ができて、過疎化なども防げるのではないのでしょうか

・駅前バスの発着所付近に気軽に立ち寄れる交番があればよいと思います。高齢者が多いので心配を抱えている人が多いと思われます。施設の中でも良いと思います(経費削減のため)

・観光客誘致のための施設の建設よりも、厳しい財政ならば必要最小限のポスト、町職員、町議などの人件費削減につとめ、若者が町から出て行かないように仕事のできる場をたくさん作ってください

・観光客を大子町に呼び込むには上小川(生瀬)地区の開発が必要だと思う。上小川・生瀬地区にたくさんの観光施設を作り、そこで働く人の住む場所が中心市街地になれば考える

・観光客の人たちが利用できる体験型の施設などを考えてみたらどうでしょうか？

・町職員の個々の改革から始めない限り、まちづくりなどできない。威張った職員ばかり、仕事が無いほど人ばかり多くてこの無駄から減らしては

・中心市街地は今のままで十分。それより若い人が働く場所をお願いします

・商店街に活気がなくなったのは人口減だから外に無い ・毎年高校卒者が町外へ何百人も出てしまう。流出人口を少しでも地元にとどめることが大事である。男女とも働ける雇用の場を作ることが第一条件である。 ・子育て支援住宅は実家から出て核家族化しただけである。 ・男女とも独身者がとても多く感じる。婚活の支援を要望する

・人口減少の原因を改善しないと活性化は難しい。観光客を増やしたいなら、「また来たい」と思ってもらえるおもてなし精神が必要。官民協働でまちを盛り上げてほしい。住民の意識向上が大切(自分たちで盛り上げる)等という意識)

・10年後の大子町を考えますと、明るい材料より力、マイナスのほうに心配が走ります。人口の減少、高齢化、そのためには若い人たちがこの町に夢の将来が描けることだと誰もが思っています。しかし、なかなか容易でない。若い人たちがこの町に

残れる(住む)こと、そのためには(1)一生働けること、町であること(2)町の魅力、山と川のある町、住みたいと思える町でありたい

・老人の町にふさわしく、温泉の町にふさわしく、病院の帰り待ち時間などに気軽に温まれる「足湯」に浸れたらおしゃべりしながら楽しめるように思います。帰ってすぐ食べられるようなおかずや菓子がそこで買えたらもったいいかなと思います。季節ごとに花がいっぱい咲いているのを見たら。(このアンケートを読んでも年寄りには何の魅力も感じません。あしからず)

・まちづくりについていろいろアイデアを出しているようですが、当方住んでいる依上地区の道路面や橋と道路の継目など、平らになっていない部分があり、以前から役場担当者への報告をしているのかかわらず一つも実現できていない現状なのに、観光者誘致等を行っている余裕があるのかと問いたい。まず、山田地区内の橋の継目等、被災箇所の整備をきちんとしてください

・現段階で、プチソフィアの利用客？を見てもあまり多くない。いつ行っても閑散としている。これ以上ひろげるのはムダ！！本屋(大きい)がないのは困るという声が多い。レンタル CD、本屋など大子町では借りられないので、大宮に行ってしまう人が多い。ジャスコなどずっとみて、買い物が出来て、ゲームコーナーがあって、いろんな店があり、色々食べられるような場所に人は集まる。一度にいろいろな事が一ヶ所で済むのが求められていると思う。ショッピングモールが一番いいと思った

・若者人口増の為、町出身者で事業に成功している方々をリストアップし大子での事業所進出をお願いしてはいかがでしょう

・お金が動くところに人は集まると思うので、若い人たちが来るようにしてほしい

・悪いことをやった職員こそ免職にしないような町は後がないと思う。新卒の高校生の方で役場職員は皆テストで入らないで皆こねではいっているのだからそれを見ている親ははずかしい。こういう町に何があるというのですか。町長さん、議員さんよく考えてください

・若い人たちも立ち寄れる雑貨屋さんやカフェなどレトロな感じを残した街並みがつくれれば、観光も人が増える様な気がします。笠間の街などは、今けっこう若い人たちが歩いているのをよく見かけます。陶芸のお店もかなり並んでいるので若いカップルなどが多くいます

・「町の活性化」と考えたとき、ゴールがあるのだろうか？と思いました。観光地として中心街に空き店舗などないほうが良いだろうし、来てよかった、住んでいて充実だ、と感じる町がよいだろうと思いますが、町民一人ひとりが何が課題でどう改善されていけば良いまちづくりになるのかが目に見えてわかるといいなと思います。そのような展示スペースも文化施設にあってもいいのでは。個人的には高速が出来ると便利だなと感じます

・雨の日でも遊べる室内のキッズスペース等が欲しい。子供連れでも気軽に活用できるカフェが欲しい

・大子は町が広いので、滝やおやき学校、茶の森公園等々が散りばめられて為、移動が必要となってしまう。大子の地のものを食べるにも 現状はどこにもない。大子の特産のいろいろなおいしい食べ物が1ヶ所で味わうことができたならば一転集中でそれらのいい物いいところが1ヶ所見・感・味出来ればいいと思っています

・FM ラジオが全く聴けないので意味がないような気がしてなりません。片付けてあるので取りに来てほしいです

・大子町に素敵な施設ができるのを楽しみにしています。商店街には若者がいないイメージがありますが、活気のある商店街が取り戻せるといいですね

・3年前に大子へ戻った者です。中心市街地のあるべき姿の前に大子町のあるべき姿のアンケートがあってもよいと思いました。(すでにアンケートを実施されたのかもしれませんが)町民自身が豊かな暮らしを実現するための視点と観光地として繁栄するための視点に区分した設問としても良かったと思いました。町民として行政に求めるべき施策と商店や観光関連業者に求めたいことが一緒に含まれたアンケートであると感じました

・大子町に働く場所が多くなれば自然と街は活性化していき人口が減少するのを抑えられる。働く場所が多くできれば街も豊かになる。大子町には若い人の働く場所が少なすぎる

・広い直売所・観光土産を中心とした交流点(他地区のよい所をまねる)

・客が少なくても早くシャッターをしめず、30分～1時間でも長く開けたほうが良いと思う

・大子町は、画家・陶芸家・音楽家などの芸術家、文化人がたくさんいる町です。そのあたりも PR していければいいと思います

す。

・駅前商店街の整備→一貫性のある商店(昭和(レトロ)感のある街並等。

・観光客にやさしい接客→今は又来町したいと思える接客ではない様に思う。

・道の駅の整備→温泉が設備されているのだから、もっとアピールした方が。野菜・特産売場の充実。

・市街地という事からは離れてしまうかも知れませんが、東京・水戸から来町する友人・知人に聞くと、観光スポットが離れすぎていると。久慈川沿いに滝までのトレッキングコース、そこが桜だったり、アジサイだったり、木や花が咲いていたら良いですね。車で来町する人が帰る時、道の駅から久慈橋あたりの右手の山々が美しいのに、下部分が杉山なのが惜しいと言っていました(京都の嵐山に似ていると)。那須とは地形の違いもありますが、那須はアウトレットやおいしいレストランや並木道やつつじの群生地や美術館、まとまっていますね。電車で来町する人のためには水郡線と常磐線のアクセスを良くして欲しい。観光地としては中途半端なので、いっそのこと楽しい老人の町にしたら。日本一老人施設の多い町、そこで働く若い人が増えるかな。

・人口減少では、どうにもならない。この計画はすでに遅いと思う。どの設問も同じことが言える。大規模な構想のようだが将来を見据えて計画すべき。※箱物は絶対作るべきではない。役場を中心として、商店はビルでテナント方式して、保育所、小・中学校、病院、文化施設等を5分以内エリアの整備をしては。

・大子には林業のまちなで間伐材を使った遊具や建物を多く作るとか、他にはない大子町らしい物を考えて下さい！

・久慈川沿いに駐車スペースを作ってほしい！川遊び、バーベキュー、鮎釣りなどをするにあたって、特に鮎釣りなんかは、6月以降になれば釣人が増えるし、他から人が来るのだから駐車スペースが必要だと思う。

・子供がいる親からの目線アンケートなどもあるといいと思う。こんな物があつたら便利だな！とか思っている人もいると思うので、意見をもっと取り入れて欲しいです。

・若者が集まり楽しめる場所。

・総合病院がほしい。

・多くの人が働ける場を作ってほしいです。お願いします。

・文化交流拠点の整備より、設備の充実した、安心して利用できる医療機関を整備して欲しいです。公立の病院の誘致等、検討して頂きたいです。

・中心市街地活性化基本構想図、拝見しましたが、すばらしい構想だと思います。私も応援しています。将来、孫を連れて気軽に行けるような中心街を目指して下さい。

・中心市街地に住んでいる人、商売を営んでいる人たちが一番重要と思う。中心商店街の活性化に至る施策の具体化が急務だろう。人口減少の進行する現在、種々課題が山積みしているが、本計画が明るい未来を創造するものであることを願う。

・学習スペース、休憩スペースは「まいん」と同じではないか？立派な施設があっても駐車場がなくて人は人は呼べないのでは？あれだけの広さの場所にあれもこれもいろいろな施設をつくっても結局全部中途半端になってしまう様な気がする。

・1日のうちに1時間でも良いので、誰でもアルバイトができるような、ちょっとした雇用を生み出せる場所を設ける事はできないでしょうか？病院帰りのお年寄りや主婦の方が少し開いた時間を利用して話をしながら内職的な事等が出来る場所があったら良いのでは？と思います。

・「大子町中心市街地活性化基本構想」を読んだだけでは、どんな街並みができるのかイメージアップできない。次の説明会では立体的な絵図面かコンピューターグラフィックスで全体像を明らかにしてもらいたい。仮に、この基本構想が実現したとして、観光客に楽しんでもらえる中心市街地となりうるのか。また、町有地活用による新たな拠点づくりは、規模が小さく中途半端なまちづくりに終わるのではないかと懸念が払拭できないので、次の説明会に期待したい。

・「中心市街地のまちづくり」の成否は、町民、とりわけ中心市街地以外の住民の理解と協力が得られるかどうかにかかっていると思う。したがって、すくなくとも町内8～9地域で説明会等を実施し、中心市街地を活性化することが大子町全体の利益につながるという道理を明らかにし、宣伝を徹底する必要がある。これらの手続きを踏まずに、また、町議会での議論も不十

分のまま、急いで決定することはできないと思う。

・百段階段を中心のシンボルとした周辺の整備(階段からまいんへ抜ける歩道など)→「大子にきたら百段階段(中市街地)に寄っていこう」という観光意識を創出。・公園は必要。子供が溜まったり、ベビーカーのママさんが行くような普通の公園。・木がない。駅前、商店街、桜とかもみじとか木が欲しい雰囲気作りが不得手

・イベント開催の敷地又は「まいん」での催し時の駐車場としての利用敷地空間を十分に確保して欲しいです。

・自然を利用した公園の整備。健康管理のためのスポーツ施設。サイクリング・ウォーキング・ランニングコース(体力に応じたコース設定)等の整備を提案する。

・観光はあきらめろ。確かに日本の三大名瀑はあるが、他は世界遺産という黙っていても客が呼び込めるからやっていける。中心市街地に活気がないのも町で働けないからに他ならない。子育て支援より会社の誘致でもした方が何ぼか役に立つ。

・何をやるにも中途半端ではだめだと思います。(河川敷に飾られたイルミネーション)・箱物を作ると維持費が大変だと思うのであまり造って建てて欲しくない・町職員議会議員も多いのではないのでしょうか？老若男女問わず、花木を觀賞することは良いと思いますので、各地区団地で耕地を借りて育ててみるのはいかがでしょうか？一箇所で購入物が全てできる様なショッピングセンターがあったら助かります

・中心市街地のみならず、もっと大子町に住みたくなるような外部から人が入ってこれるようなシステムをくるべきだと思う。

・歴史民俗資料のスペースなどは町中心に作ったほうが良いと思います。(空スペースを利用して)新しい施設を造るだけでなく空スペースを使用して中心に色々使用したほうが良いです。本は新しい本を購入するのではなく要らなくなった本を全国から寄付で集めても良いと思います。

・まずはそちら様にあう回答が出来ましたか大変不安であり、失礼がありましたらお詫び申し上げます。数字に〇をつけるということは大変難しく迷うところは沢山ありました。お仕事される方は本当にご苦労様です。ただ今一つ最後に不満を言わせて頂ければ「地域おこし協力隊」って何？って感じです。どのように町民の方から賛同をもらうのでしょうか？今はまだ事務所作りで大変そうですし。一年間という一日一日がなんとももったいないと思います。もっと長議員さんにごんばってもらいたい切に思います。

・空き地などに季節の花々があると良いかなと思います

・まいんと同じ様な利用の仕方なら、利用者が分散されるだけであって必要なのか疑問に思う。大子町はお金ありますか？もっと他にやることあるのでは？と思ってしまふ。

・町の中心に様々な施設が集まったコンパクトな街だと便利です。今の中市街地は自動車でも不便ですし歩いても障害物だらけで不便です。

・重要なのは住民の意識。必要なのは方向性が見極め。理想は町と住民の足並みがそろること。大子町の最大の魅力は自然環境のはず。田舎なら田舎らしい環境整備の方法もあると思う。

・空いている店舗の再利用。とにかく店が閉まっている市街地は淋しい

・財政を考えたとき町議員の駐車場など整備したりしておりますが、きちんと利用議員から駐車料金等とっているのでしょうか？役場利用者のスペースはせまいのに、職員駐車場がかなり広いと思いますが、まさか駐車料金を徴収していないなんてことはないでしょうね！他の個人駐車場と同じ様にとれば、その分違う施設に利用できると思います。

・一時的にイベント等で盛り上がるのではなく、企業とかを誘致して若者たちが残れるような町にして欲しい。

・文化交流拠点を作ることを前提としたアンケートであるなら意味がないと思います。箱物を作ってしまうとそれにかかる維持管理費が発生します。それも考えるべきです。マインにしても小中学校の音楽界も実施できない。イベントのときは駐車場に入りきれない。プールも中途半端な大きさで使用しづらい。等今までの政策を見直し、これからの大子町が発展していくためには、何が大切かを今一度考えるべきではないのでしょうか？歴史民俗資料施設等茶の里公園と同じになると思います。観光客を呼ぶためならば、もっとリサーチすべきです。人は何を求めて集まるか等、バラ園や体験型等も考えてはどうでしょう(例)久慈川でカヌー体験とか

・袋田の滝は手を加えずにいると思います。もう少し自然のままがいいと思います。

・近年十二所神社階段やヨサコイ等のイベントが周知され、集客力も上がってきたと思うが、イベントではそのときだけだと思います。通年で集客力があがるようにするには、食べ物が良いのではないかと最近なつても小生瀬入合にあった「なかさわラーメン」ネットで見たと行って探しに来る観光客がいます。大分県の鳥から揚げ、秋保のおはぎ、長野のおやき、会津の豆腐みたいな行列の出来る店でもできればね、ご当地グルメみたいな。隣市水府地区は常陸秋そばで最近やってますが、里美のほうがお客さんはきているように感じるしね。この2～3年ハロプロの里山でTVでバスツアーやってるようだが。

・中心市街地は、人の通行も少ない。イベントがある時だけ人がくるのも、どうですか？イベントで人を集めるとイベントがないときは、お店も困ってしまう。太子町に住んでいる人も太子町で買い物を進んでするような企画を考える。太子町のお店で買い物した人はポイント制にして温泉券や商品券を発行するとか。他から人を集めることを考えるのではなく、太子町在住の人に太子中心街を利用するような企画を考えては！！

・老人の多い町では、中心市街地の活気はありません。若い人の住みやすく働く場所を作りましょう？観光客だけでは長くは持ちません。

・R461号の構想について。街づくりの発想から、実現となるとしたら、観光客利用ばかりじゃなく、地元住民も気軽に利用できる活用性のある施設にしてもらいたい。

・とにかく企業誘致が必要。若い世代を太子に残したくないのですか。若い世代に必要なのは働くところです。

・商店の若い人達はいくつとアイデアを出してやっているようですが、空回りが多いようです。

・文化交流拠点の想図を見る限り、何を目的とし、誰のために造る施設なのか分かりません。この施設を造ることで、観光客は滝より先に興味を持ち、足を運ぶでしょうか？多くの町民が歴史民俗資料スペースを利用するでしょうか？私は町民になるまで太子町でお祭りが行われていることを知りませんでした。県民の多くの人が知らないでしょう。まずは歴史民俗資料スペースなどを造る前に、祭りの周知、特産物の周知を行い滝より先に（中心部）に興味を持ってもらうことが大切だと感じます。問2で述べたよう、商店街には素敵な景観が多くあります。そこを活かして観光客の集客とし、文化交流拠点は多くの町民が利用したくなる施設を造るべきだと感じます。

・人口を減らさないこと

・特にありません

・SL路線バスの廃止（とにかく必要ないものは少しでもなくすべきだと思います。特に太子は若い人が県内でも2番目くらいに少ないと聞いていますので、負担を軽くして欲しい）

・中心市街地活性化基本構想図にあるような道路の整備が進むことで、子供から高齢者まで安心してちょっとしたウォーキングができるのかなと思いました。健康のためにもいいことだと思います。また、自分の子供と一緒に文化交流拠点を気軽に利用しながら、中心市街地をゆっくり散歩できたらいいなと思います

・新しく建物を造ることに疑問を感じます。できるだけ無駄なく多目的に利用できるものにしてほしいです（コンパクトに）又老人が集まってこれる様なところにして欲しいと思います。わざわざ行かなければならない様な場所に予定されているような気がします。町民や老人のほうで運動できるよういろいろな道具や設備があると良いと思います。中心地活性化とは別の意見ですが、町の収入をあげるために…。田舎のほうで耕していない畑や放棄地など町でまとめて、漢方薬の植物を栽培するという事なども考えて頂けますか？現在漢方の材料はほとんど中国産で不作もあり、漢方薬の会社では積極的に国内栽培を進めています。タケなども行っています。太子は耕地は少ないかもしれませんが、ご一考ください。ネットなども見てください。

・中心市街地のまちづくりアイデアではありませんが…。「森の温泉」「フォレストスパ」の回数券もっと利用者が増えるように10枚に5枚プラスくらいのこととして欲しい。利用期限をつければ利用する。今はたった1枚です。他の温泉の回数券は工夫されている。参考に調べてください。

・少子高齢化社会の現状では、若者が地元で働くことができるような新しい企業誘致など必要かと思う。新しい施設ばかり増やすのではなく、町全体の環境の整備や寂れた町のイメージをなくすために観光地を美化し、多くの観光客を太子町に招き入れられるように努力してもらいたいと思います。そして今いる若者を町外へ出さないように。

・インターネット整備や Wi-fi 等通信系の整備も必要。本屋やゲームセンターのような娯楽施設を充実？ フェイスブックやブログ等をうまく活用するため、いろんな角度からの情報を盛り込む必要があると思います。BGM(有線)も流れることで通りの雰囲気が盛り上がるのでは？(若者向け・清涼なイメージソング)

・中心市街地が活性化することは、大賛成。町民や観光客が中心市街地ということも賛成。ただし、観光客を集めるという点において、どこにでもあるような一般観光客を集める施設を造るのではなく、大子町近隣(水戸～郡山位)をターゲットとし、日帰りで少し遊んで帰るような施設を目指したほうが良いと思う。大子町に来る観光客を中心市街地に呼び込むのではなく、中心市街地として観光客を呼び込み、その行き帰りの道中でお金を落とすことで、大子町全体に経済効果と新たな商工業のチャンスを創出することが重要と考える。

・正直に申しますと、私たちの税金をこの形使われてしまうのは、とても残念です！！今ある施設で十分ではないでしょうか(道の駅、茶の里公園 おやき学校、広域公園、森のいで湯、まいん etc)アンケート内容を見ているとまいん等で運営可能なことばかりです！！冒頭に書いてある厳しい財政現状という現実をただの言葉の羅列で受け止めているのではないのでしょうか。大子町を巡れば、中心街ばかりでなく、道路の整備の必要なところ、通学路には該当が少なく寂しい所、うっそうと茂った雑草や木立の道路。私たち住民は、生活環境の充実を節に望みます。これ以上大子町に新しい施設は必要ないです。百段階、100円市、今ががんばっていることを今ある施設利用で、より幅広く大きくなるよう、そちらのほうに知恵を絞ってください。私の意見は、ゴミ箱行きですか？(清掃事務所)

・空き店舗を利用し、リフォームし活用すればいいと思います。

・長期計画で、色高さ使用材料などを制限する景観条例を制定し、町全体が観光地になる様に！

・今まで十分やってきたと思うが、またかと思う。車社会なので道路の整備を。箱物を作るのはよしと思う。

・中心市街地活性化について 大子町では、茨城県の中でも少子・高齢化の代表格にあります。問2で問われている、今の中心市街地に求められている”大子町らしい中心市街地”は、少子・高齢化や住民流出を踏まえて、働く場の確保、社会福祉の充実をサポートするための中心地的な姿ではないでしょうか。「参考資料: 中心市街地活性化基本構想図」では、市街地の景観改善事業などが掲げられており、他の地域にあるような映画村、明治村、炭鉱町的なイメージで、昭和の時代を懐古させるような街並みに整備し、誘客することを目的にしていますが、各々の資源の観光価値(誘客の目玉)は低いと思います。単なる観光事業的な街並みの景観改善は、”今”の大子町には必要ないと思います。昭和初期の懐古的なまちづくりは、冒頭に記載しました住民本位の課題解決が見通せた後にすべきと思います。誘客を課題に揚げるのでしたら、既存観光事業の広報戦略を見直すべきではないでしょうか。過去の新規観光事業化(箱物)のほとんどが中途半端で終わってしまい魅力のないものばかりです。基本構想に掲げているものも、その後が続くもののように思います。維持管理経費もばかになりません。

・文化交流拠点について 大子町は”読書の町”を宣言していますが、実際に現在のプチソフィアの利用率は高いのでしょうか。実際の利用率も高くないのに莫大な町の予算を投入するのは止めるべきです。”読書の町”を宣言しているから全国に図書館を整備するという理屈は不要です。矢祭町は予算をかけないで全国から43万冊余の図書の寄贈を受けて運営しています。予算は出さないで知恵を出す工夫をしてみたいかがでしょうか。その工夫の結果が大子町の魅力につながると思います。歴史民俗資料施設の箱モノも必要ないと思います。誘客の目玉にもならず、地元の子供たちの校外学習での利用程度にしかならないと思います。”歴史的文化的価値の高い資料”の保存方法が課題でしたら、一時的に国や県等に貸し出すなど工夫により対応することも可能ではないでしょうか。中心市街地の活性化にしても、ソフト面で対策をたてることから考え、箱モノありき一辺倒の策は、もう卒業すべきと思います。たとえば、大子町の高齢化率トップを逆手にとり、”元気ハツラツ姥捨て山”の町として、高齢者自らが働ける場所(企業)を確保し(単なるシルバー人材センターではなく)、高齢者を県内外から受け入れ、大子町への住み込み従業員の精神で高齢者の暮らしを支えることができれば、終の棲家としての魅力的な町に生まれ変わることができるのではないのでしょうか。そのためには、国の法律をうまく活用し、それに必要な予算を国から手当してもらうことも重要と思います。他の地方では、高齢者による葉っぱの販売も町の収益に一役かっていることですし。何か新しいことを始めるには、まずは高齢者比率の高い町ゆえに、高齢者を元気にすることを優先的にした施策をた

てるべきと思います。

- ・空き地、荒れ地等、野放しになっている場所を早く開拓して、活性化して欲しい。もっと子供たちの遊び場を作ってほしい。

- ・難しいですが、各自が自分ブランド(オリジナリティ)が構築出来たら良いと思います。

- ・大子市は赤字の町、税金が他の所より高くて、住みづらい、そんな時に更にお金をかけて施設を作ってみても、はたして集客できるでしょうか。それより、どこにも負けてない美しい自然や日本一の米づくりなど、自慢できるものをいかして、田舎ならではのリゾートをめざしてみるのもいいのではありませんか？心がいやされるまち町「だいご」として。

- ・まいんでの時間外保育スペースは、学習室で勉強している時、多少気になるのでは？また、観光ホールで集会がある時も、多少講演が聞こえづらくなったりする様に思います。ただ場所は利用しやすいです。

- ・市街地は一方通行が多いため、歩道の十分な確保など、安全面への十分な配慮は必要だと思われる。

3 まちづくりワークショップ詳細

(1) まちづくりワークショップの目的

中心市街地の活性化のためには、そこに住む住民が主体となってまちづくりを考えていくことが重要であり、ワークショップの開催等により自分たちのまちをどのように変えていくべきか、住民同士が話し合える機会と自己啓発につながる場をつくることで、住民参加型のまちづくりを推進するとともに、住民の意見をまちづくりに反映していくことを目的として実施しました。

(2) ワークショップの開催テーマ

H25 年度策定の「中心市街地活性化基本構想」から、主要となるまちづくりの方向性として、「文化交流拠点の整備（拠点施設の検討）」と「公共インフラ整備及びまちなみ景観（中心市街地の整備の検討）」をワークショップのテーマに設定し、住民の意見をまちづくりに反映するためのワークショップを開催しました。

(3) ワークショップの参加者

1班 文化交流拠点の整備について

No.	団 体 名	人 数
1	大子町商工会 青年部	1
2	大子町商工会 女性部	1
3	大子町観光協会	1
4	大子町飲食店組合	1
5	大子町企業連絡協議会	1
6	近町町内会	1
7	泉町町内会	1
8	本町町内会	1
9	大子町連合若連	1
10	依上小学校	1
11	生瀬小学校	1
12	上小川小学校	1
13	大子幼稚園父母と先生の会	1
14	大子町交通安全母の会連合会	1
15	大子町消防団	1
16	大子町社会福祉協議会	1
17	大子町民生委員児童委員協議会	1
18	茨城県水郡医師会	1
19	大子町青少年育成町民会議	1
20	大子町生涯学習課	2
21		

2班 公共インフラ整備及びまちなみ景観について

No.	団 体 名	人 数
1	大子町商工会 青年部	2
2		
3	大子町商工会 女性部	1
4	大子町観光協会	2
5		
6	大子町商店会	1
7	大子町飲食店組合	2
8		
9	栄町町内会	1
10	金町町内会	1
11	愛宕町町内会	1
12	小久慈町内会	1
13	大子町連合若連	1
14	だいが小学校	1
15	さはら小学校	1
16	黒沢小学校	1
17	袋田小学校	1
18	大子町消防団	1
19	観光ボランティア大子	1
20	大子町文化福祉会館自主事業運営委員会	1
21	大子町建設課	1

(4) ワークショップの体制

まちづくりにおける、「官」「民(産)」「学」連携を促進するにあたって、行政職員のワークショップ参加と、主体となる住民からは、中心市街地の各町内会や商工会、学校関係者など幅広い住民の参加を設定するとともに、住み良いまちづくりを進める上で女性の意見が重要となることから、女性の参加者を増やすことに配慮しました。

また、ワークショップの妥当性を検証する上でも、学術的な視点からワークショップの進行をチェックするため、茨城大学の協力を得て進めるものとなりました。(ワークショップアドバイザー：茨城大学 市民共創教育研究センター長 斎藤 義則 教授)

(5) ワークショップの開催経緯と実施概要

第1回 まちづくりワークショップ 平成26年6月15日(日)

1班 文化交流拠点の整備について

- ・既存公共施設の使いにくい点
- ・文化交流拠点施設の役割や機能
- ・まちなかに不足している機能
- ・太子町の良い点

2班 公共インフラ整備及びまちなみ景観について

- ・まちなかの良い点と課題点(まち歩きを実施)

第2回 まちづくりワークショップ 平成26年7月24日(木)

1班 文化交流拠点の整備について

- ・自分が思い描く拠点施設の機能や利用方法について、各自まちづくりの物語(コンセプトワーク)を作成

2班 公共インフラ整備及びまちなみ景観について

- ・自分が思い描くまちの将来像について、各自まちづくりの物語(コンセプトワーク)を作成

第3回 まちづくりワークショップ 平成26年8月21日(木)

1班 文化交流拠点の整備について

- ・前回提案のあった拠点施設の物語(コンセプト)について、1つの共通の物語(コンセプト)にまとめる

2班 公共インフラ整備及びまちなみ景観について

- ・前回考えた「まち物語(コンセプト)」について、意見の確認を行い、1つの共通の「まち物語」について議論を進める

第4回 まちづくりワークショップ 平成26年9月19日（金）

1班 文化交流拠点の整備について

- 拠点施設の機能の配置を検討するため「ゾーニング模型」を作成

2班 公共インフラ整備及びまちなみ景観について

- 前回に引き続き、「まち物語(コンセプト)」について、意見のまとめ
- 基本構想で考えた7つの主要事業について意見交換を行い、具体的に実施していく事業内容を検討

第5回 まちづくりワークショップ 平成26年10月17日（金）

1班 文化交流拠点の整備について

- 拠点施設を整備する際の「留意点」や「工夫」のアイデアを検討

2班 公共インフラ整備及びまちなみ景観について

- 具体的に検討していく事業について、行政と町民の役割分担、整備の優先順位、まちづくりのルールなどについて検討

(6) ワークショップの結果

①第1回 まちづくりワークショップ

○開催概要

日時：平成26年6月15日（日）14：00～17：00
場所：大子町文化福祉会館「まいん」1階 観光交流ホール
内容：1. 副町長挨拶
2. 茨城大学人文学部 斎藤教授 進行説明
3. まちづくりワークショップ
1班テーマ：文化交流拠点の整備について
2班テーマ：公共インフラ整備及びまちなみ景観について
参加者数：1班 17人 2班 17人

○開催状況

全体説明



ワークショップ テーマ①文化交流拠点の整備について



ワークショップ テーマ②公共インフラ整備及びまちなみ景観



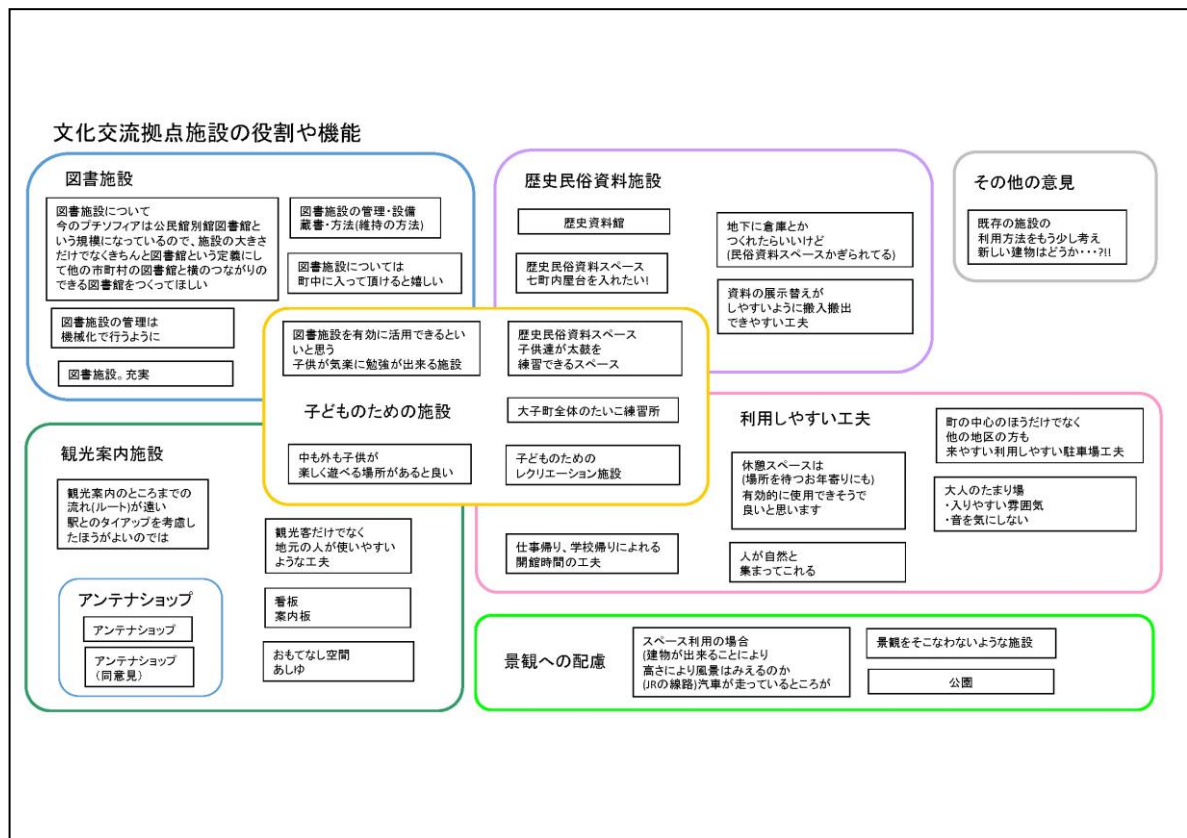
○結果

テーマ①文化交流拠点の整備について

既存施設の 使いにくい点	場所の問題(わかり難い、行きづらい)	駐車場の利用	施設のサービス	施設の設備機能
	森林の温泉 森林の温泉 入口が道路から遠い (坂道の上)	森林の温泉 上の駐車場が満車になっ た場合、雨の日が大変	まいん 「まいん」の中にある観光 協会の場所 やはり、駅の近くが良いの では 利用の目的は活用が何か	まいん 1Fにしていると2Fの音が 気になることがある 音が気になる
プチ・ソフィア	プチ・ソフィア 118号の裏通りになり 解りづらい プチ・ソフィア 場所が問題 なかなかある場所 が皆にわからない	プチ・ソフィア メインの通りから離れ ている 行きづらい プチ・ソフィア 場所が不便 (道路から離れている ため)	プチ・ソフィア ・利用したことがない ・学生の夏休み利用ができ づらい?	プチ・ソフィア 入り口がせまい
教育支援センター	教育支援センターの場所が わかりにくいと思う 教育支援センター(西金) 見学しやすい状態で あってほしい 教育支援センター 町の中よりも自宅からだ と距離があるため	道の駅 道の駅 車の渋滞 コミュニティー センター 生瀬コミュニティーセンター 駐車場のスペースがせまい 中央公民館 中央公民館 運動場がイベントの時の 駐車場になる点	道の駅奥久慈だいい 営業時間(終了が早い) コミュニティーセンター もう少し地域の人たちが 利用できるようにしてほしい	道の駅 車の出入りがしにくい 駐車場のつくり 宮川コメン 空間がない 中央公民館 年配の方の利用が多いのに 階段しかない
その他施設	大子おやき学校 遠い 観光に来た人を案内 しにくい 衛生センター 新118号バイパスが 衛生センターの脇を通る 景観的に?	リフレッシュセンター 駐車場がせまい	大子町役場 係がわかりづらい!	くつをぬがなければならない 小生瀬保育所 建物が老朽化している

【まとめ】

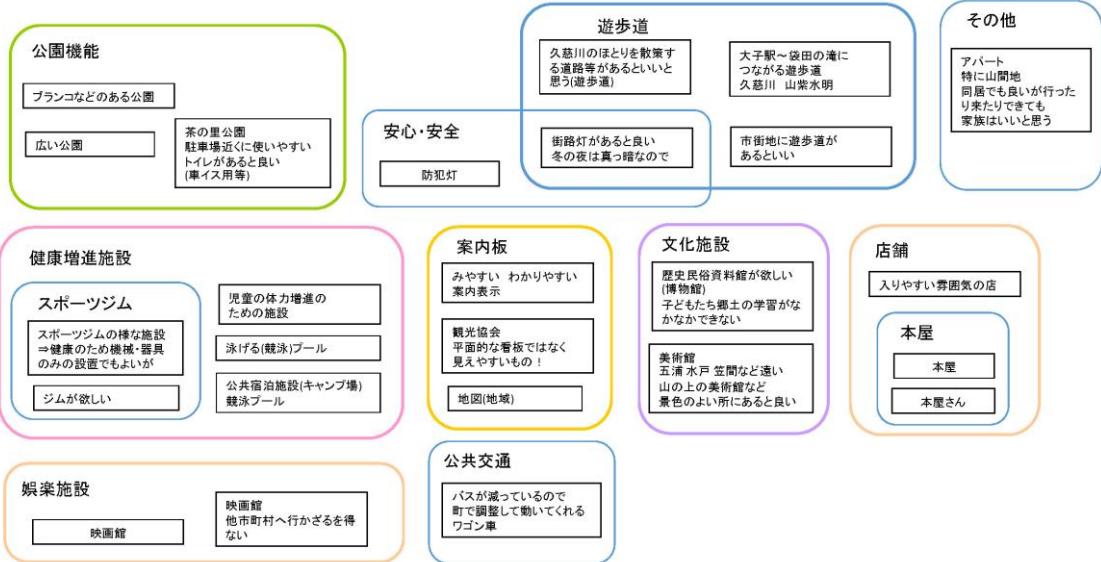
- ・既存の公共公益施設は、場所の問題が目立つ
→文化交流拠点は、町民みんなが使う施設なので、わかりやすい場所や行きやすい場所
がいい
- ・既存の公共公益施設は、駐車場が使いにくい
→大子町では文化交流拠点の利用は自家用車が中心なので、駐車場を充実させることが
大切
- ・既存の公共公益施設にも欠点や課題がある
→文化交流拠点は、既存の公共公益施設の課題点などを参考にすることが大切



【まとめ】

- ・構想案の機能以外に子どものための施設であるとよい
 - ・新しい施設を作る以外に既存施設の活用も考えられる
 - ・文化交流拠点は、さまざまな人が利用するので、みんなが利用しやすいことが大切
 - ・文化交流拠点の計画地は、景観的にも特徴がある場所
- ↓
- ・既存の施設の使い方を工夫するなどの活用を行ったうえで、文化交流拠点の機能を絞ることが大切
 - ・文化交流拠点を作る際には、利用しやすさや周辺の景観に配慮する工夫も大切

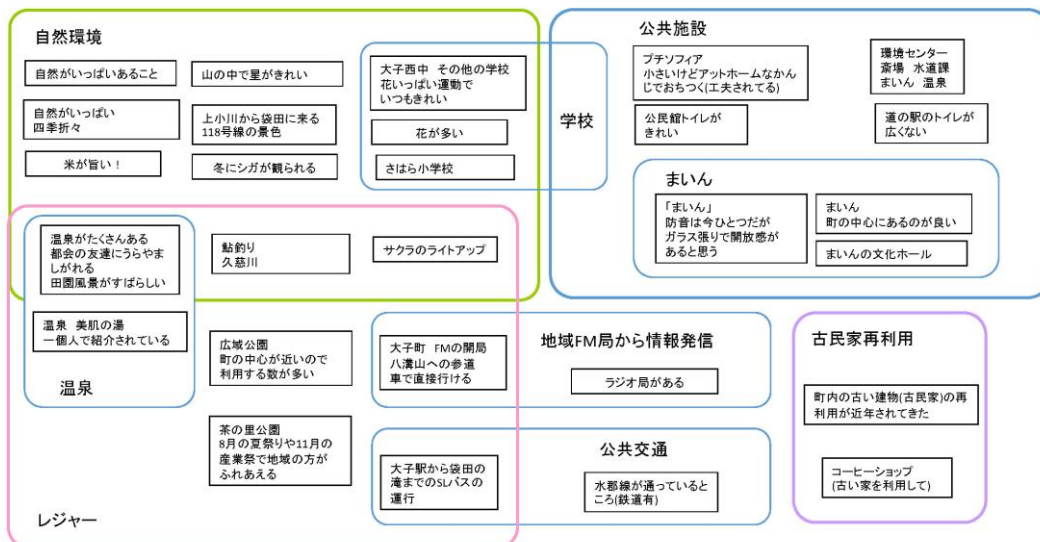
まちなかに不足している点



【まとめ】

- 公園、健康増進、娯楽、店舗、文化、公共交通などまちなかに不足している施設や機能が
多くある
↓
- 文化交流拠点の中や計画地だけでなく、周辺のまちづくりと一体的に考えていくことが
重要

大子町の良い点



【まとめ】

- 周辺には、自然環境や温泉、レジャー資源、既存の公共公益施設などの資源や施設が多い
- ↓
- 文化交流拠点を作る際には、地域の良さを活かした施設にすることが大切

この地図は、東京都荒川区の町田地区を中心とした地域を示しています。地図には、主要な道路、鉄道線、公園、そして様々な施設が描かれています。色分けされたライン（青、オレンジ、緑）は、特定の計画や整備の範囲を示している可能性があります。また、地図上には多くの日本語のラベルがあり、特定の場所や施設を指しています。右下にはスケールバーと方位指示の矢印が配置されています。

171

②第2回 まちづくりワークショップ

○開催概要

日時：平成26年7月24日（木）18：00～20：20

場所：太子町文化福社会館「まいん」1階 観光交流ホール

内容：1. 第1回まちづくりワークショップの結果報告

2. ワークショップの進め方について 茨城大学人文学部 斎藤教授

3. まちづくりワークショップ

1班テーマ：文化交流拠点の整備について

2班テーマ：公共インフラ整備及びまちなみ景観について

参加者数：1班 16人 2班 15人

○開催状況

第1回ワークショップの結果報告



ワークショップ テーマ①文化交流拠点の整備について



ワークショップ テーマ②公共インフラ整備及びまちなみ景観



○結果

テーマ① 文化交流拠点の整備について

ワークショップの進め方

予め用意された「拠点機能カード」を3つ選択し（合うカードがない場合は自分で記入）、選んだ拠点機能カードをもとに、自分が思い描く拠点施設の機能や利用方法について物語を作成してもらい、拠点施設をどのように活用していくのか各自考えていただきました。 【拠点機能カード】 ・広域的な生活ネットワーク拠点 ・広域的な歴史・文化ネットワーク拠点 ・広域的な研究・開発ネットワーク拠点 ・広域的な観光ネットワーク拠点 ・広域的なまちづくりネットワーク拠点 ・広域的な女性起業ネットワーク拠点 ・広域的なイベントネットワーク拠点 ・広域的な交流ネットワーク拠点 ・広域的な教育・学習ネットワーク拠点 ・広域的な防災・情報ネットワーク拠点 ・広域的な福祉・介護ネットワーク拠点 ・広域的なボランティアネットワーク拠点 ・広域的な保育ネットワーク拠点 ・その他（自作カード）	
--	--

ワークショップでの意見

	拠点機能カード	拠点機能の説明や物語
1	広域的な福祉・介護ネットワーク拠点	嫌でも健康になるまちづくり。高齢化率が40%では医療費が高い。病院に行かなくてもいように食事から健康を目指す。健康になれば家族の負担も減る。平均寿命－健康寿命＝寝たきり。この時期をできるだけ短くする。
	広域的な生活ネットワーク拠点	
	広域的なまちづくりネットワーク拠点	
2	広域的な教育・学習ネットワーク拠点	学生の勉強できる拠点として機能させていけたら良いと思います。講習会などに利用できたら良いと思います。
	広域的な保育ネットワーク拠点	子育てしているお母さんの憩いの場として拠点を置いて、いろいろなイベントなどを行えるようにしたいと思います。
	広域的な観光ネットワーク拠点	大子町の観光名所の説明や、行き方などの説明をするところとして置いたらいいと思います。
3	広域的な交流ネットワーク拠点	大子町の各種団体が共同で使えるスペース。常勤スタッフがいて団体の交流やイベント時の協力関係を作る、調整役となる。
	広域的な教育・学習ネットワーク拠点	学習スペースを作り、そこでは高齢者の昔話を聞いたり（伝統文化）、ボランティアによる学習サポート（というより見守り）をうけることができる。図書館を作らなくてもパソコンと他の図書館から貸与した図書で対応できるのでは。
	広域的なイベントネットワーク拠点	イベント時のボランティアの発掘。子どもたちもかわりのあるスペースで活動することにより、将来的に町のイベントに参加できる人を育てる環境づくりができる。

4	広域的歴史・文化ネットワーク拠点	歴史的建造物（神社・彫刻屋台・蔵）→江戸時代から受け継がれる物が多い→歴史的な建造物のPR→展示スペース
	広域的まちづくりネットワーク拠点、広域的観光ネットワーク拠点	→各団体、町民一人一人ができること→各団体、町民しかできないこと→行政に頼らず→すべて一つになることが大事！→（まちづくり、観光につながる） ※人任せが多い！※世代交代が無い、若者が新しい企画をしても潰される ※ネガティブ＝大子の性質！ ※若者は大子に危機感を感じる！大子の後継者です。（仲良く、楽しく、協力）まちづくり、観光につなげたい！
5	広域的教育・学習ネットワーク拠点	まず生涯学習課の取り組みなのかわかりませんが、自閉症や発達障害の親や子が話し合える場があって欲しいと思っています。 少子高齢化ではありますが、発達障害の子は多くなっているようです。療育という面では、大子でもお世話になりました。 栃木県那須烏山市では市の取り組みで話し合いや支援の場を設けていると伺いました。ぜひ前向きに生きる社会を築けたらと思います。
	広域的保育ネットワーク拠点	栃木（大田原）では子育てをサポートするシステムがあるようです。 時給〇〇円と決めて手伝って欲しいお母さん、手伝いたい年配の方がむすんでくれるシステムです。大子でもそのような拠点があるといいと思います。
	広域的福祉・介護ネットワーク拠点	福祉…（例）軽・中・重度により違いがあるようですが、聴覚障害の幼い子は補聴器のサイズも変わり、それにともないお金も必要になっています。その子や親の生涯にかけての金銭面、精神面でのサポートができる様な取り組みができればよいと思います。 介護…大子もバスの運行が少なくなっています（免許のない人もいます）。ある町では困っている方を町で移動を手伝うシステムがあります（TVで見ました）。〇〇病院へ、何時に〇人で行きたいなどを、TEL やネットで連絡し、町のワゴン車で移動を支えるシステムです。 （1回の利用を〇〇円と決めてもいいと思う）
6	広域的防災・情報ネットワーク拠点	災害時、町内の防災情報は FM ラジオが配信してくれると思うが、避難者の施設内への誘導は防災資格者を有効に活用すると良い。小学生のうちからマップ作りなどを体験させながら、町の機能なども学習させるといいと思います。 *アルファ米の炊き方 *夜の体育館（真っ暗い中）の体験 *備蓄の確認
	広域的教育・学習ネットワーク拠点	*図書館の充実 *大子に高校を残す。地元の優秀な人材を外に

		出さない *浅川ささらなどを町内の子供にやってもらう *若い女性が野菜を作って大子カフェを出している
	広域的ボランティアネットワーク拠点	物の無駄を出さない——ゴミ焼却量減少 不良品を活用し、海外に送る。マリ共和国にコンテナで送ったことがある（一番かかるのは送料）。夫の背広などよかった。回収場所があるとなお良い。
7	広域的観光ネットワーク拠点	観光客が拠点に来て、そこからまちなかを散策する。 1. 観光客が来たくするような施設 アンテナショップ、お土産が全部揃う 2. 散策ルートを作る 押川、久慈川をつなぐ遊歩道から、まちなかを通り1周するコース
	広域的まちづくりネットワーク拠点	町民が容易にイベント出来るスペース。 毎週何か参加できるイベントをやっている夏祭り、流しそうめん、キャンドルナイト
	広域的保育ネットワーク拠点	町民のため、子供のため 公園機能
8	広域的観光ネットワーク拠点	観光の町をうたっているが、今ひとつ元気がない。そこで単体ではなく隣町や近隣の市町村と観光姉妹都市を結び、交流を兼ねてイベントを定期的に行い、人の流れを作ってみる。 自分の町の良さももう少しアピールでき、他町村の良さを吸収できるのでは…。
	広域的教育・学習ネットワーク拠点、 広域的福祉・介護ネットワーク拠点	保育、教育、福祉、介護をそれぞれ単体ではなく、1つの組織として子供からお年寄りまで安心して生活できる。
	広域的防災・情報ネットワーク拠点	防災のための情報 ラジオはあったが町全体に放送が聞こえるスピーカーの設置。 ラジオでは電源入切により忘れる場合があるので…。
9	広域的観光ネットワーク拠点	代表的な観光地以外に春夏秋冬に行われる主な良い所を教える。 例）シガを見ることで、冬の素晴らしさを感じることが出来る。 雪が降ると山に大の文字が浮かんでくる。 大子町を観光する時、どのように巡ればよいのかなど
	広域的歴史・文化ネットワーク拠点	大子へ行くことで、大子の歴史を知り、どんな文化財があるのか知ることができる場所があるとよい。
	広域的女性起業ネットワーク拠点	大子町の女性の方たちにもいろいろな面で活躍しているのはわかっても、もう少しどのようなことをやっているのかがわかると利用しやすいと思います。 町外の人たちにもわかってもらい、大子の特産物を使って何かを作る。

10	広域的な生活ネットワーク拠点	・各地域での体力作りのためのために小さな公園、憩いの場の整備 ・お茶を飲みながら、健康増進、遊具 ・子供はもちろん、大人が楽しめるものが外にある風景 ・交流の場、年配の人が子供に昔あそびや生活の知恵を教えたり、子供は年配の人に学校の話をしたり。 ・地域によってはバスの運行がないところがある。学校が休みの時日常の生活に支障あり。
	広域的女性起業ネットワーク拠点	空き店舗を利用した起業（お店は建具屋さんなど） →地元はもとより、都会から若い人を呼び、仕事ができるようにする。 年配の人も自分の好きなものを他の人に教え、またパソコンも利用（年齢関係なく）し、外部への発信ができるように （TV で過疎地域のお年寄りが料理に使うバレン（もみじ）を栽培しパソコンでデータ管理、売上管理をしている放送があった）
	広域的イベントネットワーク拠点	春夏秋冬のイベントは多少あるが、地域ごとで全町民に伝わっているか。 全町民が把握して参加できる1つのもの（組織）があっても良いのではないかな。 姉妹都市との交流場にむけて 単発的である 統一性が必要 全町民→観光客へつなげるのではないかな。 水郡線を利用して来る人へ 大子には常時何かがあるという印象付けが必要
11	広域的歴史・文化ネットワーク拠点	町内で大きく盛り上がる祭。七町内の屋台収納庫。江戸末期から十二所神社祭礼として今に至っているわけですが、各町内の伴テンのうつりかわりでも屋台飾の変化など…。 体験した人じゃないとわからない所を、そこにいけばわかるような…。
	広域的防災・情報ネットワーク拠点	中心街密集していて火災が起こると大きな火災になり、その防災は当然ですが、おきた時ホースや筒先などおいておける収納庫を各地に（密集度の高いところ）に設置。
	広域的福祉・介護ネットワーク拠点	町内の高齢化はますます進みますが、老人ホームの役割を近所の老人気の合う人たちで、プチ老人ホーム、ゆるやかなつながり。重症の方は施設でも、軽いまだまの老人の方で…。町内会よりもっとゆるやかなもので…。
12	広域的教育・学習ネットワーク拠点	笠間市立図書館ばりの図書館 ①自由に会話できるスペースがある ②個人で静かに学習できるスペースがある ③インターネットが自由に使えるスペースがある ④各小中学校にどういう図書があるかがわか

		り、それが貸し出し可能なのかが調べられる機能 ⑤土足禁止
	広域的イベントネットワーク拠点	各小中学校で把握している人材バンクを集約でき、イベントに活用できる機能。
	広域的保育ネットワーク拠点	安心して子供が遊べる、親がコミュニケーションとれるカフェ付きの公園 ①防犯カメラの設置 ②ガキ大将の存在 ③お年寄りによる遊びの継承スペース
13	広域的保育ネットワーク拠点	子供を安心して預けられる施設はもちろんですが、そこに地域のお年寄りも交流できるような施設。 保育所や園の先生だけで地域のお年寄りも交じり、子供たちに昔遊びや知恵を教えてもらいたい。
	広域的教育・学習ネットワーク拠点	各小中学校で生徒数が激減してきています。他校との学習の交流があったら楽しいと思います。 例えば、パソコンなどを利用して、現在の授業風景を配信して、お互いの授業に参加して進めるような授業があっても楽しい。
	広域的交流ネットワーク拠点	各小中学校（高校）との交流。文化祭や発表会、体育祭など各学校単位対抗で楽しんで、また近くの大子町以外の学校との交流も継続的で取り入れ、数多くの子供たち同士で交流させたい。
14	広域的防災・情報ネットワーク拠点	今の天候は今までにないような災害をもたらしている。50年に一度の大雨が降ったり予測できない災害が日本各地に起こっていて、不安が多い。また、地震などの不安もあるので、「災害に強いまちづくり」をして欲しい。何かあったらあそこを頼めば安心という拠点が欲しい。
	広域的観光ネットワーク拠点	大子町の大切な収入源である観光。しかし、今はとても分かりにくいので、中心街に外部から来た人にもわかりやすい案内所など、大子の素晴らしい所が全部わかる拠点があったらもっと観光客も増えるし、リピーターも増えると思う。
	広域的教育・学習ネットワーク拠点	大人も生涯学習が盛んでたくさんのサークルがあるが、今は使いやすい拠点が不足していると思う。 のびのびとサークル活動が出来る拠点が欲しい。 図書館は、本はもちろんのこと、インターネットや視聴覚資料も借りたり、その場で見られる設備があると若者も利用すると思うし、今後はそのような資料がどんどん使われていく世の中になると思うので、大子も遅れずにそういう拠点を作って欲しい。
15	広域的福祉・介護ネットワーク拠点	障害者施設の拡充 例）廃校になったところに設けるとか

		車いすの生活者に対する、道路の舗装
	広域的生活ネットワーク拠点、広域的教育・学習ネットワーク拠点	生涯教育を目指している者に対する施設。意欲を持って学んでいる人たちが多くいるので、設備軽減にも充実した場、展示場所を含めてあったらよいと思う。
	広域的観光ネットワーク拠点	例）町の道の駅に多くの観光客が訪れているが、八溝山はどの方面？おやき学校は？とか尋ねる人たちが多く。その対応として、お店の店員が対応している場面が多く見受けられる。

ワークショップの結果（カードの選択数順）

順位	拠点機能カード	選択数
1	広域的教育・学習ネットワーク拠点	9
2	広域的観光ネットワーク拠点	7
3	広域的保育ネットワーク拠点	5
	広域的福祉・介護ネットワーク拠点	5
5	広域的防災・情報ネットワーク拠点	4
6	広域的生活ネットワーク拠点	3
	広域的交流まちづくりネットワーク拠点	3
	広域的イベントネットワーク拠点	3
9	広域的交流ネットワーク拠点	2
	広域的女性起業ネットワーク拠点	2
11	広域的ボランティアネットワーク拠点	1

テーマ② 公共インフラ整備及びまちなみ景観について

ワークショップの進め方

予め用意された「物語カード」を3つ選択し（合うカードがない場合は自分で記入）、選んだ物語カードをもとに、自分が思い描くまちづくりの物語を作成してもらい、どのようなまちに行きたいのか各自考えていただきました。 【物語カード】 - 温泉とくらすまち物語 - 川が流れるまち物語 - 子どもと女性のまち物語 - 観光のまち物語 - 娯楽を楽しむまち物語 - その他（自作カード） - 鉄道駅がある人に優しいまち物語 - 昭和のくらしを楽しむまち物語 - お年寄りのまち物語 - 便利な暮らしのまち物語 - 田舎暮らしのまち物語 - 風水のまち物語 - 男のまち物語 - 歴史のまち物語 - 肴取りのまち物語 - 花と緑のまち物語		
--	--	--

ワークショップでの意見

	物語カード	まちの物語や説明
1	安心安全な食物と健康づくりを推進して子供からお年寄りまで長生きを目指せる町	生活習慣病が年々低年齢化していて増加する一方、みんなが健康で活き活きと暮らせるような町。新鮮な野菜や果物もでき、水も綺麗、お茶が特産品、米も美味しい、町民ももちろんだけれど観光にもつなげる必要有り。温泉、食、森林浴、滝のマイナスイオンで健康に。
	子どもと女性のまち物語	高齢化率が茨城県1位なことを活かして、子育てや嫁姑問題などをアドバイスしてくれる知恵者がいるまち。人生の先輩達の生きがいにもなる。料理教室や子育てサークルを開催。
	花と緑のまちものがたり	清流高校の森林科学科 河川敷をコスモスやハーブ類など草花でいっぱいにする。小中学校などで個性ある花壇を作り、コンテスト開催。町中も花であふれさせる。花木の北限・南限の展示。空いている畑を活用し、小学生が体験できるファームづくり。
2	花と緑のまち物語×子どもと女性のまち物語	子育て中のお母さん達が子どもと一緒に働ける場を提供（託児所付き） 花を中心にまちづくりの展開し、1年中楽しめる工夫をする。その拠点を母親の働く場に。
	外国人が楽しめるまち物語×昭和の暮らしを楽しむまち物語×田舎暮らしのまち物語	大正から戦前昭和のくらしを楽しむ。日本文化と洋の文化を融合、建物の趣き、名家に残る宝物を表現。その中でソフトな昭和を繰り広げ外国人に日本の文化を知ってもらう。日本の田舎都市の良さを知る。
	マニアの集まるまち物語	大子町の他にはない宝（うるし、こうぞ、米、そば、りんご、お茶、よさこい等）のプロと世界中のマニアが毎週毎月集まってお話ができる場の提供。次の時代・世代へ新たな展開。未来の職人を育てる。
3	観光のまち物語	観光や歴史を大切にしながら温泉や足湯につかりゆっくり楽しいひとときを過ごせる町。花や、果物のあ

		る町。意図的にもみじを増やす。
	田舎暮らしのまち物語	田舎暮らしが楽しめて収入に繋がるような楽しみ方もしていただきたい。町中に地元の食材をふんだんに使った子ども～大人、観光客が楽しめるお店。食の安全にこだわり、長生きの町に。
	便利な暮らしのまち物語	町の近辺はなんといっても、子どもや若い方が気軽に利用できる町にしたい。素敵な建物の中で食事をしたい。地元産のものを町中では手頃な価格で。収入に繋がるものを。統一された町づくりを。新旧の建物があっても良い。だけど考えはまち全体で共有していきたい。
4	和モダンを感じるまち	田舎の良さを最大限に出す。木を使った町づくり。昭和のまちではなく、和を前面に出すことで若い人や都市部の人にも興味を持ってもらえるのではないかな？古い和というより新しい和を考える。とことん山や木にこだわったまち。
	観光のまち	大子を代表するお祭り等、ほかにはない点をアピール。袋田の滝、もみじ寺、八溝山、久慈川などの観光地を点ではなく線で結び歩ける工夫。見る・食べる・遊ぶの3つを揃える。
	年配者と若者が集うまち	大子は少子高齢化が特にすごいので子どもよりも年配者を意識したほうが良い。年配者が楽しく長生き。子供のためには駅に近い場所に図書館・学習館が必要。
5	花と緑のまち	押川～やな場の堤防沿いに草花を植える。散歩時に心の安らぎを感じるような観光の目玉を作る。
	川が流れるまち	久慈川周辺の整備をし、景観の美化を図る。今ある桜並木を活かし、川にマッチした木を植える。桜の木が植えてあるところの見栄えを考える。統一感が必要。
	便利な暮らしのまち	生活必需品などをまちなかで調達するのが不便なので、高齢化に合わせてまちなかで日常生活に必要なものが買えるコンパクトなまちづくりが必要。山中に住む人や単身者にも配慮して、希望があればまち中へ連れてくる。行政が生活圏の確保をする。
6	観光のまち	観光地までの道案内の設置。袋田バイパスなどの道路の整備をし、道の両脇に花などを飾る。滝には子どもたちがブランターを運んでいる。
	子どもと女性のまち	中心街での買い物などはほとんどできない。商店の前に駐車スペースを作り、子どもが母親の買い物の間待ってられるようなスペースがあると良い。
	温泉と暮らすまち	滝の方には温泉宿や温泉はあるので、大子駅前やその他の大子の主要な駅前に足湯を作る。
7	昭和の暮らしを楽しむまち×便利な暮らしのまち×温泉と暮らすまち	現在は、バイパスまで行かなければ買い物はできないが、昭和の時代には、近所に八百屋や肉屋などがあり車を使わずに買い物できた。車なんて必要ない、中心市街地では気軽に温泉にも入れる住人が楽しく暮らせるまち。
8	温泉と暮らすまち	旅館の減少によって温泉に入れる場所も少なくなっ

		ているので、久慈川と押川の合流点や駅の近きなど、大きくなくても良いのでまち中で温泉に入れる場所を作る。
	歴史のまち	七町内の屋台を展示する資料館をつくる。秋のSLの運行に協賛する。
	観光のまち	自然の中を走りぬくトレイルラン。本当の自然の中を走るので、整備は不要。
9	川が流れるまち	やな場のように車を止められて、自由に安全に川に入れる、家族連れで来ても困らず母と子も楽しく過ごせる場所がほしい。綺麗な水が流れ、魚が泳いでいるような町堀の整備。鮎が有名な川にしたい。
10	温泉とスポーツ（野球）のまち	大学や高校の合宿に最適。土地があるので、グラウンドを持つ旅館や野球のグラウンドを10面くらいつくる。メイン球場は、オール天然芝にし、プロ野球のキャンプ場や強豪校の合宿場にすれば、それを目当てに見物客も多く来る。
11	お年寄り、高齢化のまち×自然のあるまち×観光のあるまち×夢の持てるまち	大子を軽井沢に。自然を活かし、袋田の滝を中心に人を呼び込む。他のまちのおもてなしを参考に、どのようにしてまち中に人を連れていくのかを考える。高齢化を利用した元気なお年寄りのまち。スポーツを利用（オール天然芝の野球場）。昔は浴衣を着た観光客がいた。
12	セラピーロードのあるまち	まち中から公園周辺、川沿い、山を歩いて心を癒すセラピーロード（ウォーキングロード）を整備。新しいものは最小限に、今あるものを活用してお金を使わない。森林セラピー、トレッキング、プチ登山。
13	川が流れるまち物語	湯の里公園からの遊歩道の整備。湯の里公園に行政で東屋を設置する。川遊び・リラクゼーションなどの日よけに使う。
	歴史のまち物語	街路灯の整備。旧町内のエリアを示すサインボード取り付ける。各町内の屋台イラストなど。レトロな小ぶりなもの。
	パワースポットのまち物語	「日本一大きなお地蔵さん」「本町 二十三夜堂」は子育てのパワースポットに、鹿島神社は勝負のパワースポットに。パワースポットとして心のよりどころとし案内を盛り込むことで回遊を図る。（案内マップの記載など）
14	（観光のまち）	人を集めるイベントを行う。駅から袋田の滝をつなぐロープウェイの様なものを建設。スポーツ施設をつくる
15	（男のまち）	屋台会館を作り年に数回は開館から出しイベントとして屋台を組み立てる。これを男の活躍の場とする。大きな駐車場がほしい。押川と久慈川の合流地点を水で遊べ、整備された家族が遊べる公園にする。町外の人を意識したものに。

ワークショップの結果（カードの選択数順）

順位	物語カード	選択数
1	観光のまち物語	6
2	川が流れるまち物語	4
3	温泉と暮らしのまち物語	3
	花と緑のまち物語	3
	便利な暮らしのまち物語	3
	子どもと女性のまち物語	3
7	歴史のまち物語	2
	昭和のくらしを楽しむまち物語	2
	田舎暮らしのまち物語	2
10	男のまち物語	1
	安心安全な食物と健康づくりを推進して子供からお年寄りまで長生きを目指せる町	1
	外国人が楽しめるまち物語	1
	マニアの集まるまち物語	1
	和モダンを感じるまち物語	1
	年配者と若者が集うまち物語	1
	温泉とスポーツ（野球）のまち物語	1
	お年寄り、高齢化のまち物語	1
	自然のあるまち物語	1
	夢の持てるまち物語	1
	セラピーロードのあるまち物語	1
	パワースポットのまち物語	1

③第3回 まちづくりワークショップ

○開催概要

日時：平成26年8月21日（木）18：00～20：20
場所：大子町文化福祉会館「まいん」1階 観光交流ホール
内容：1. 第2回まちづくりワークショップの結果報告
2. まちづくりワークショップ
1班テーマ：文化交流拠点の整備について
2班テーマ：公共インフラ整備及びまちなみ景観について
3. 講評とまとめ
茨城大学 人文学部教授 斎藤義則先生
参加者数：1班14人 2班12人

○開催状況

第2回ワークショップの結果報告



ワークショップ テーマ①文化交流拠点の整備について



ワークショップ テーマ②公共インフラ整備及びまちなみ景観



○結果

テーマ① 文化交流拠点の整備について

ワークショップの進め方

今回は、たくさんの意見から拠点施設の機能を絞ることを目的としました。

まず、「拠点施設が目指す物語」(拠点施設のコンセプト)を検討した前回(第2回)のふりかえりとして、メンバーが選んだ【拠点機能カード】や【物語】の意見のまとめや、以前実施した町民意向調査での【拠点施設に導入する機能】のまとめを紹介し、メンバーから感想形式で意見をいただき、次に、茨城大学の齋藤教授による【みんなが考えた物語のまとめ】を発表し、メンバーからの意見をいただきました。

そして、「拠点施設に導入する機能の絞り込み」について、ワークショップメンバーの意見と町民意向調査の結果で得られた「全ての意見による機能」をカードとして用意し、全機能について「どのような場所に導入するのがふさわしいか」を検討しました。

【ワークショップメンバーの意見と町民意向調査の結果による拠点機能の一覧】

観光・物産案内拠点、土産販売拠点、歴史・文化拠点、イベント拠点、休憩拠点、教育・学習拠点、交流拠点、福祉・介護拠点、防災・情報拠点、ボランティア拠点、保育拠点、女性起業拠点、まちづくり拠点、生活拠点

【みんなで考えた拠点施設のものごと(まとめ)】

～子ども・女性とお年寄りが安心してなつかしいくらしを楽しむ拠点～

前回(第2回)ワークショップの感想と物語(コンセプト)への意見

前回の感想(まとめ・抜粋)
・子育て世代や仕事などによってみんな視点が異なり、それを一つにまとめるのは大変(同種意見複数あり)
・コンセプトはこの後どうなるのか気になる。安心したまちづくりは良いと思う。
・みんなすごい意見だと感心した。安心・安全というコンセプトは大事。いま、広島が大変なことになっている。備蓄倉庫の設置の実現が求められる。
・自分は子育てが終わった世代だが、先日、中高生の主張を見てまちづくりのヒントがあった。例えば『老人がつくる日本一の米』というのなるほどと思った。子どもたちも大子をどうにかしようとしているのが分かり、私達もがんばらないといけないと思った。
・自分はどうしたらいいかピンとこないが、精神的にも経済的にも豊かなまちになると良い。
・町民意向調査とコンセプトにズレを感じる。個人的には町民意向調査に違和感があり、コンセプトとは一致している。袋田の滝以北には観光地はいらない。袋田の滝周辺に観光客が集まるようにして、そこで住民が働けるとよい。
・町民意向調査で備蓄倉庫が一位だったのは震災の影響なのではないか。個人的には図書・学習が最も大事である。大子＝袋田の滝なので、もっと滝の周辺を活性化させるべき。また、図書施設をつくり、本が身近にある環境づくりを。せっかく図書のまち宣言をしているのだから小学生の図書離れをくいとめることが必要。
・自分は未婚なので子育てにはまだ目が向かないが、町の人口は減少しており将来的に必要なものが求められる。
・年代や自分が関わっていることにみんな目がいくのは当たり前。しかし、いろんな人のためになるような複合的な施設が必要。
・大子の個性を活かす！

拠点施設の物語(コンセプト)への感想
・「郷土愛」
・子どもがなつかしいというのはおかしい？
・前向きなフレーズを。なつかしいはマイナス？
・まちのなかになつかしさは古くさい。華やかな方が若い人が集まる。
・企業がくると人口が増える。
・子どものころはプールじゃなく、川遊びだった。
・スーパーやコンビニでは会話がなない。人と人のつながりが大切。
・近所の子どものつながりが大事。
・“なつかしい”は、“「愉」しい”が良いのではないか。
・「懐かしさの中から未来を育む」というフレーズはどうか。

町民意向調査の結果では、拠点施設について、「既存の施設を極力有効に活用すべき」という意見が多くありました。

そこで、機能については、「既存施設等で充分に対応できるもの」や「既存の施設に配置した方がふさわしいもの」をピックアップして、最終的に残った機能を拠点施設に配置することとしました。

また、町民意向調査の結果で非常に関心が高かった「備蓄倉庫」については、町民が住む場所の近くにあると安心ですので、町内各所に分散させて配置するほか、防災機能は役場に設けることとしました。

拠点施設に導入する機能の絞り込み作業					
拠点施設内	「既存の公共公益施設等」を有効に活用して機能を配置する				
	道の駅	まいん	役 場	空地・空家・ 空店舗等	その他 (場所未定含む)
観光・物産案内 土産販売 歴史・文化 イベント 休憩 教育・学習	交流 歴史・文化 観光・物産案内 土産販売 休憩	交流 観光・物産案内 福祉・介護	防災・情報 ボランティア 保育	交流 女性起業 土産販売	防災・情報 (だいち小などの高台や地区ごとに備蓄倉庫を配置) 教育・学習(各学校) 観光・物産案内(大子駅) ボランティア (様々な所で) 保育(保健センター) まちづくり拠点(未定) 生活拠点(未定)

※機能は、必ずしも一カ所にまとめなければならないわけではなく、複数の施設に必要な機能もあるため、重複して表記している機能もあります。

テーマ② 公共インフラ整備及びまちなみ景観について

ワークショップの進め方

前回のワークショップでみなさんに提案していただいた「まち物語」について、意見の確認を行い、みんなが共有できる「まち物語（まちづくりテーマ）」について議論をしました。

斎藤先生を中心に、みなさんが考えたまち物語について意見交換をしながら、まちづくりの意見や現在の中心市街地の課題などについて話し合いました。

「まち物語」の提案

	まち物語り(案)	選択したカード等				
1	子どもと女性が長生きできるまち	安心・安全	子どもと女性	花と緑		
2	誰もが懐かしい暮らしを楽しむまち	子どもと女性	外国人が楽しむ	昭和の暮らし	田舎暮らし	マニアが集う
3	田舎暮らしをゆっくり楽しむまち	観光	田舎暮らし	便利な暮らし		
4	高齢者が和を楽しむまち	和モダン	観光	年配者と若者が集う		
5	心安らぐまち	花と緑	川	便利な暮らし		
6	子どもと女性が足湯を楽しむまち	観光	子どもと女性	温泉と暮らす		
7	懐かしい暮らしをのんびり楽しむまち	昭和の暮らし	便利な暮らし	温泉と暮らす		
8	祭りや温泉とまち	温泉と暮らす	歴史	観光		
9	川が流れるまち	川				
10	温泉とスポーツ(野球)のまち	グラウンド				
11	高齢者が夢を持ち元気になれるまち	高齢化	自然	観光	夢の持てる	
12	癒されるまち	セラピーロード				
13	懐かしい暮らしに癒されるまち	川	歴史	パワースポット		
14		イベント	スポーツ施設	駅・袋田の滝ロープウェイ		
15		屋台会館	大きな駐車場	川公園	町外の人	

ワークショップでの意見（意見抜粋）

まち物語	まちづくりの提案や課題
安心安全・子供と女性・花と緑	・食の安心安全を活かす。日本一のものができるまち ・街中の休憩スポット・足湯・交流スペースが必要
こどもと女性・外国人が楽しめる・昭和の暮らし・田舎暮らし・マニアが集う	・マニア（漆、よさこい、祭りなど）が集う交流の場の整備 ・懐かしい暮らし＝太子に根ざした暮らし ・太子のまちに外国人を呼び込む→日本の懐かしい暮らしの提供
和モダン・観光・年配者と若者が集う	・和を楽しむまち。モダンな若者をイメージしており、和モダンにすることで若者も視野に入れる ・古民家を活用する ・太子の特徴的なものをつなげる。特徴のあるものを伸ばす
観光・子供と女性・温泉と暮らす	・地元の人も楽しみ、観光客も楽しめるようなまちにしたい
昭和の暮らし・便利な暮らし・温泉と暮らす	・車を使わずに、子供連れでも安心して歩いて暮らせるまち ・古いが便利なまち。昔のほうが便利だった ・のんびり＝経済の停滞ではない。地域の宝を活かしてのんびり暮らす
温泉と暮らす・歴史・観光	・祭り、屋台を活かす。駐車場が必要 ・祭りの担い手が減少し、祭りの知識も失われつつある ・屋台会館の設置
川	・自然を活かし観光客を呼び込む。 ・やな場を活かす。押川の堤防のサイクリングロードなど ・生活排水などの影響で、川は昔ほどきれいではない。現在

	は遊泳禁止になっている。
グラウンド	・土地と温泉があるので合宿地に利用できなか。野球を中心に多くの団体呼び込めるようにする。遊ぶところが少ないため、スポーツに専念できる。

ワークショップのまとめ

共通の「まち物語」について

今回は時間内に一つの物語にまとまるまでに至りませんでした。まちづくりの物語を考える上での視点について考え、物語の主体に関する意見としては以下になりました。

【まちづくりの物語を考える上での視点】

- ・なぜ、まちづくりの物語が必要か

まちづくりは個性が重要。個性がないと普通の道路、普通の施設、普通のまちなみが出来上がる。大子の特徴（地域資源）を活かすためには、きちんと「まち物語（まちづくりテーマ）」を考えることが重要となる。

- ・どのようなまちづくりを目標とするか

観光の視点でまちづくりを考えるのか、暮らしの視点でまちづくりを考えるのか、何を目標とするかで整備の方向性も違って来る。

【物語の主体に関する意見】

- ・市街地の共通のイメージとして、「和」や「昭和の良き暮らし」などがあげられる。これらを『懐かしい未来の暮らし』とすると、昔の良い暮らしと未来の暮らしを表現できるのではないか。

- ・『子どもと女性』に主体を絞ることで、今ある多くの施設や資源の利用方法を考え直すことができるのではないか（ユニバーサルデザインの考えなど）。また、子どもと女性をターゲットにすることで、家族全体のニーズを解決できるのではないか。

- ・大子と書いて、「大」きな「子」どもを育てる、と考えてはどうか。

- ・中心市街地に絞ったテーマなのか、大子町全体のテーマなのか見づらい。

④第4回 まちづくりワークショップ

○開催概要

日時：平成26年9月19日（金）18：00～20：20

場所：太子町文化福祉会館「まいん」1階 観光交流ホール

内容：1. 第3回まちづくりワークショップのおさらい

茨城大学 人文学部教授 斎藤義則先生

2. まちづくりワークショップ

1班テーマ：文化交流拠点の整備について

2班テーマ：公共インフラ整備及びまちなみ景観について

3. 講評とまとめ

茨城大学 人文学部教授 斎藤義則先生

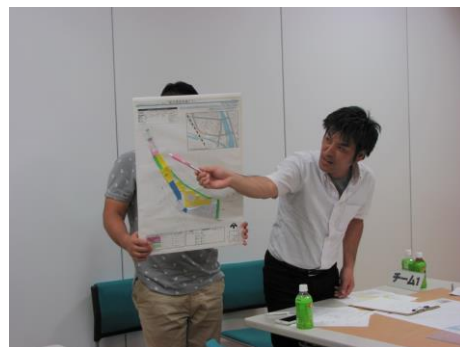
参加者数：1班 18人 2班 13人

○開催状況

第3回まちづくりワークショップのおさらい



ワークショップ テーマ①文化交流拠点の整備について



ワークショップ テーマ②公共インフラ整備及びまちなみ景観



○結果

テーマ① 文化交流拠点の整備について

ワークショップの進め方

今回は、拠点施設の「ゾーニング模型」を作することを目的としました。

3チームに分かれて、前回絞り込んだ6つの拠点機能(観光・物産案内、土産販売、歴史・文化、イベント、休憩、教育・学習)から「メイン機能とサブ機能」、「各機能の規模」を考えました。そして、拠点機能ごとの色タイルをパネル図面に貼り付け、「ゾーニング模型」を作りました。最後に、チームごとの検討結果を発表しました。

ワークショップのまとめ

拠点施設のゾーニング模型

【チーム1】

メイン機能：観光・物産、歴史・文化、教育・学習

サブ機能：土産販売、イベント、休憩

- ・観光物産拠点は駅の近くにあったほうが良いので、近くにおく。
- ・お土産が買えるところや、アンテナショップのような所を集約させたらどうか。
- ・メインで「屋台会館」を作る。
- ・8町内の屋台が揃って展示され、ガラス張りで出来ており、通りを歩く歩行者(観光者)から見える。
- ・名産のこんにゃくの歴史や農機具等の道具も展示する。
- ・「屋台会館」は、教育・学習拠点の図書館とも一体的につながっているようにする。
- ・2階建てで、1階が屋台会館、2階が図書館になっており、屋上も設けて展望台として休憩拠点としても活用し、町民や観光客、子どもたちに利用してもらおう。
- ・他にも、イベントが行えるような何もないスペースを作る。
- ・普段は駐車場として使い、イベントがあるときには広場になるようにする。
- ・この広場には、休憩スペースを広く取る。

1階と屋外



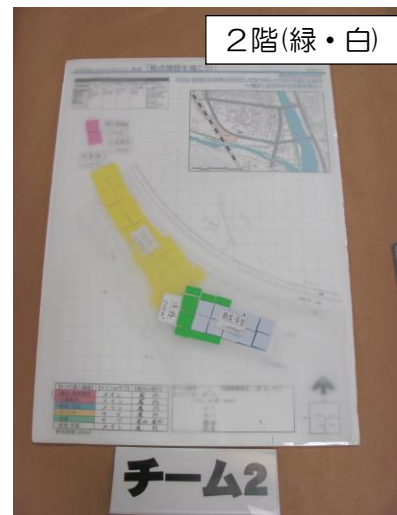
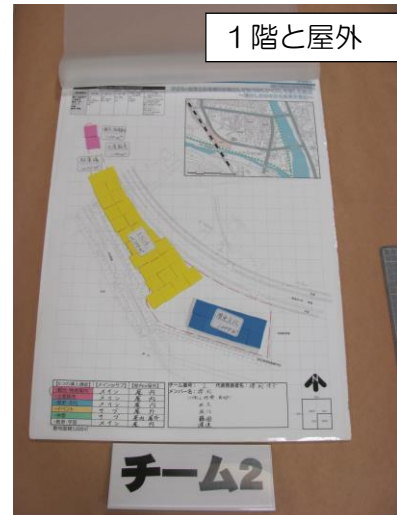
2階(白・緑)



【チーム2】

メイン：観光・物産，土産販売，歴史・文化，教育・学習
サブ：イベント，休憩

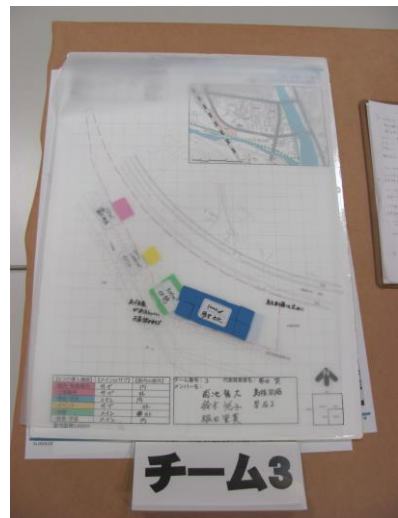
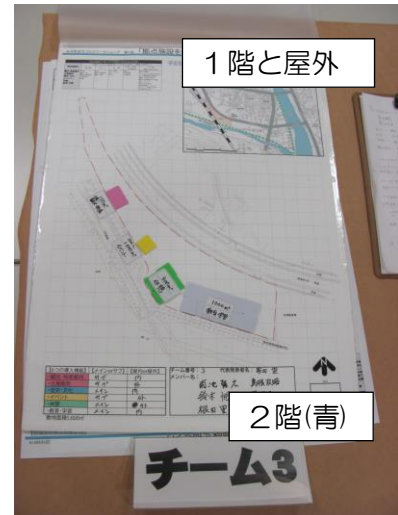
- ・観光物産拠点は駅の近くに置き，見やすいように大きな看板を設置する。
- ・土産販売拠点も一緒の場所におく。
- ・これらの拠点の横に駐車スペースも作る。
- ・この駐車スペースがイベント会場（イベント拠点）へとつなげる役割をはたす。
- ・イベント会場には建物は建てず，必要なときにテントを建てるような方式にし，スペースを自由に活用できるようにする。
- ・イベント会場は駐車スペースの役割も果たす。
- ・1階に歴史・文化拠点を，2階に教育・学習拠点を置いた建物をつくる。
- ・2階へはスロープで上がれるようにし，エレベーターも設置（バリアフリー）。
- ・2階にはガラス張りの休憩スペースも設ける。
- ・さらに，デッキがせり出す形にして，外へ出てまちなみや自然，水郡線などを見て楽しめるようにする。
- ・このデッキの下は，車から乗り降りできるスペースにする。



【チーム3】

メイン：教育・学習，休憩，歴史・文化
サブ：観光・物産，土産販売，イベント

- 小さいものを作ってもダメなので，大きく立派なものを作る。
- 学習スペースを兼ねた図書館を1階に，歴史文化も一緒に学べるところを2階において，民具や土器を展示する。
- 休憩スペースは図書館わきにおく。
- 緑を多く植えて，癒しの効果が得られるようにする。
- 現状として，駐車場が狭いので，広くする。これは女性のためという意味もあり。
- また，駐車場は基本的にイベントも開催できるような状態にしておく。
- 土産販売は専用の施設は作らず，イベントのときなどにテントで行う形式にする。



今後の進め方について

- 最終回となる次回のワークショップにおいて，拠点施設を整備する際の「留意点」や「工夫」のアイデアを検討します。
- 事務局が第1回～第5回までのワークショップのまとめを行い，拠点施設の具体化や整備に関する提案として活用させていただきます。

テーマ② 公共インフラ整備及びまちなみ景観について

ワークショップの進め方

1. 前回到引き続き、「まち物語(コンセプト)」について、前回のポイント【主体となる対象】【まちづくりの個性】【暮らしの目標】を整理して、1つの共通の「まち物語」にまとめます。
2. 「まち物語」から考えられる具体的な事業はどのようなものがあるか、事務局案を作成してきたので、それについて意見交換を行いながら、今後、具体的に進める事業について検討します。

1. 「まち物語」の検討

前回のまとめから、ポイントを整理して「まち物語」の検討を行いました。

大子町/中心街/まち物語りの編集

項目	内容	備考
まちの主体をシフトする	子ども・女性	
	お年寄り	
	若者	
	男	
	観光客	
	町外の人	
物語の核となるお宝	外国人	
	マニア	
	温泉	
	川	
	山と木	
	花と緑	
	自然	
	祭り	
	歴史	
	昭和の(歴史的)景観	
暮らしの目標	パワースポット	
	スポーツ	
	観光とくらす	
	温泉とくらす	
	昭和のくらし	
	田舎ぐらし	
	夢が持てるくらし	
	和モダンのくらし	
	便利なくらし	

案	主体	宝	目標
1	子ども・女性・高齢者	温泉・川・花と緑・自然・パワースポット	温泉と暮らす・田舎ぐらし・昭和のくらし・夢が持てるくらし
	↓	↓	↓
	子ども・女性・高齢者が	温泉と川に囲まれて	懐かし夢をもって暮らせるまち
	→		
2	観光客・外国人・マニア	温泉・川・自然・歴史・パワースポット	和モダンのくらし・観光とくらす・便利なくらし
	↓	↓	↓
	訪れる人が	自然・温泉・歴史に	癒されるまち
	→		
3	男・若者	温泉・スポーツ	夢が持てるくらし・便利な暮らし
	↓	↓	↓
	男が	元気に	夢を持って暮らせるまち
	→		
4	高齢者・子ども・女性	歴史・祭り・山と木	夢がもてるくらし・昭和のくらし・便利なくらし
	↓	↓	↓
	「大」人から「子」どもへ	大子の宝と先人の知恵を未来に繋ぐ	懐かしい未来の暮らしを楽しむまち
	→		
5	子ども・女性・高齢者	自然・歴史・祭り	昭和のくらし・田舎ぐらし・夢が持てるくらし
	↓	↓	↓
	子ども・女性・高齢者が輝き	自然や文化が息づく	懐かしい暮らしを楽しむまち
	→		
6	町外の人・マニア	自然・歴史・昭和の(歴史的)景観	観光とくらす・温泉とくらす・田舎ぐらし
	↓	↓	↓
	昔を想う人が	懐かしさにふれながら	くつろげるまち
	→		

ワークショップでの意見（意見抜粋）

まち物語の選択	まち物語の意見
①子ども・女性・高齢者が温泉と川に囲まれて懐かし夢をもって暮らせるまち	・温泉をメインにするなら、もっと強調する必要がある。 ・鉄道で来る人をターゲットに、駅周辺ににぎわいをつくる整備。 ・例 足湯, 温泉（立派でなくてもよいので）
④「大」人から「子」どもへ大子の宝と先人の知恵を未来に繋ぐ懐かしい未来の暮らしを楽しむまち	・住民がまず誇れる大子にすることが、長期的に考えて大切。そうすることで、観光客にとっても良い町になる。
①子ども・女性・高齢者が温泉と川に囲まれて懐かし夢をもって	・来る人が懐かしいと思える町にするには、今ある景観を変える必要があるため、外の人のことを考えすぎると住民の負担が大きい。

暮らせるまち ④「大」人から「子」どもへ太子の宝と先人の知恵を未来に繋ぐ懐かしい未来の暮らしを楽しむまち	
①子ども・女性・高齢者が温泉と川に囲まれて懐かしく夢をもって暮らせるまち ⑤子ども・女性・高齢者が輝き自然や文化が息づく懐かしい暮らしを楽しむまち	物語⑤の“輝き”というのが良い。 太子という地名は誇れるものである。「大人」と「子ども」が民放の番組で取り上げられた。また、ドラマで百段階段が使用された。景色と地名でドラマの舞台にした。遠方からも太子に興味をもたれたと聞いている。④については「大」人から「子」どもへというのがよい。
⑤子ども・女性・高齢者が輝き自然や文化が息づく懐かしい暮らしを楽しむまち	自然の中でスポーツなどを通して、楽しく生き生きと暮らせるまち。

<結果のまとめ>

- ①子ども・女性・高齢者が温泉と川に囲まれて懐かしく夢を持って暮らせるまち
【9票】
- ⑤子ども・女性・高齢者が輝き自然や文化が息づく懐かしい暮らしを楽しむまち
【7票】
- ④大人から子どもへ太子の宝と先人の知恵を未来に繋ぐ懐かしい暮らしを楽しむまち
【3票】

①が9票で最も多く、子ども・女性・高齢者は大切に、温泉・川・自然等を強調したほうがよいという結果となった。①をベースに、その他の案の中の良いフレーズと合わせて再整理し、次回結果として報告する。

2. 「まち物語」から考える具体的な事業の案

これまでにワークショップで出されたいろいろな「まち物語」と、行政側で考えたまちづくりの基本構想は概ね一致することができます。これらの事業について意見交換を行い、具体的に進める事業について検討します。

(ワークショップで出されたまち物語)

	まち物語(案)	選択したカード等				
1	子どもと女性が長生きできるまち	安心・安全	子どもと女性	花と緑		
2	誰もが懐かしい暮らしを楽しむまち	子どもと女性	外国人が楽しむ	昭和の暮らし	田舎暮らし	マニアが集う
3	田舎暮らしをゆっくり楽しむまち	観光	田舎暮らし	便利な暮らし		
4	高齢者が和を楽しむまち	和モダン	観光	年配者と若者が集う		
5	心安らぐまち	花と緑	川	便利な暮らし		
6	子どもと女性が足湯を楽しむまち	観光	子どもと女性	温泉と暮らす		
7	懐かしい暮らしをのんびり楽しむまち	昭和の暮らし	便利な暮らし	温泉と暮らす		
8	祭りと温泉とまち	温泉と暮らす	歴史	観光		
9	川が流れるまち	川				
10	温泉とスポーツ(野球)のまち	グラウンド				
11	高齢者が夢を持ち元気になれるまち	高齢化	自然	観光	夢の持てる	
12	癒されるまち	セラピーロード				
13	懐かしい暮らしに癒されるまち	川	歴史	パワースポット		
14		イベント	スポーツ施設	駅-袋田の滝ロープウェイ		
15		屋台会館	大きな駐車場	川公園	町外の人	

ワークショップでの意見交換

事業案について	事業の提案や課題
板倉や板塀の風情を活かした景観整備 まち物語⇒「和モダン」「昭和の暮らし」「田舎暮らし」「観光」「外国人が楽しむ」	・八溝杉を最大限に活用，和の街並みに整備すれば統一性があると思う。 ・以前から要望を出していた電線の地中化，できるなら実現してほしい。 ・整備エリアを限定する必要があるのか。エリア外はどうなるのか，統一性が無くなってしまう。
奥ゆかしい路地を活かした回遊路整備 まち物語⇒「昭和の暮らし」「便利な暮らし」「観光」	・路地は障害物が多く，足元が悪いため高齢者は避けている。 ・近道に使える ・古い建物が多いから雰囲気が出て良いと思うが，大子は道がとても狭いので難しいのではないかな。 ・七福神路地という案が昔あったが，そういう感じで路地に名前があると良い。 ・路地の案内板をつくれば祭りのとき等便利。
町堀と水辺を活かした景観整備 まち物語⇒「川」「自然」「観光」「外国人が楽しむ」	・水路があると高齢者や子どもには危険なのではないかな。 ・消防の機能としては必要だと思う。 ・歩道が無くなってしまう。道が狭くなってしまう。 ・路地をメインに水路があるのは良いのではないかな。 ・生活排水なので水がキレイとは言えない。生物がいれば良いけど ・愛宕町の方には鯉がいた。 ・袋田の滝のイルミネーションにあわせてまちなかも何かできないかな。 ・大子にはソメイヨシノと八重桜の2種類があるため時期がずれ長期間桜を楽しむことができる。この地域資源を活用できないかな。
歴史的建造物を活かしたまちなか拠点整備 まち物語⇒「和モダン」「観光」「歴史」「外国人が楽しむ」	・金町通りが昔は雰囲気があった。 ・大子城を中心に町内の名前がついていいるのそういうのも含めて考えられれば良い。 ・歴史をうまく上手く活かして学びを加えるのも大切。 ・つくば銀行の跡地を資料館にしてはどうか。
温泉を活かした癒し空間の整備 まち物語⇒「温泉と暮らす」「観光」	・送水管上の空き店舗を利用した温泉のまちなか交流スペース。 ・木材を利用した温泉 ・子どもも遊べるようなレクリエーション的な温泉，まったりするだけじゃない場所にしてほしい。
空き店舗を活用した交流と活力の場整備 まち物語⇒「マニアが集う」「年配者と若者が集う」	・空き店舗の状況が分からないため何とも言えない。 ・空き店舗を利用した学童保育などはどうかな

文化・歴史の継承と、知的好奇心を刺激する文化交流拠点整備 まち物語⇒「歴史」「子どもと女性」「屋台会館」「イベント」	・いまのマインは勉強スペースとしては不向き ・図書館・勉強スペースを駅周辺に。現在の図書館の場所は女性や子供には危険 ・マインの2階で走り回る子供が気になる。下で会議のなどは少し考えもの。 ・拠点に目的を詰め込みすぎるのは良くない。機能のすみわけを行うべき。
その他 地元食材を活かした 6 次産業の推進 まち物語⇒「大子への食の安心・安全を活かす」	・JAの直売所ではレストランがあり、水耕栽培のものを使った野菜のバイキングがある。休憩室やレストランがありこれに注目するマスコミもいる。行くたびに違うものが並んでいる。JAは大きいから安く出来る。JAと連携することや町で運営して地産地消を進めるべきである。 ・「全て地元」だと大子だけで供給できるのか。 ・こんにゃくの産地である。蒟蒻神社もあることからもっと利用したほうがよい。 ・大子のお茶もある。みんなでアピールしないとイケない。

＜結果のまとめ＞

具体的に検討を進めていく事業の案について、基本構想で考えた7つの主要事業について意見交換を行い、具体的に検討していく事業内容は以下となった

- ① 板倉・板塀の風情を活かした景観整備
- ② 奥ゆかしい路地を活かした回遊路整備
- ③ 町堀と水辺を活かした景観整備
- ④ 歴史的建造物を活かしたまちなか拠点整備
- ⑤ 温泉を活かした癒し空間の整備
- ⑥ 空き店舗を活用した交流と活力の場整備
- ⑦ 文化交流拠点整備
- ⑧ 地元食材を活かした 6 次産業の推進

今後の進め方について

- 今後、具体的に検討していく事業について、行政と町民の役割分担、整備の優先順位、まちづくりのルールなどについて検討します。

⑤第5回 まちづくりワークショップ

○開催概要

日時：平成26年10月17日（金）18：00～20：30

場所：大子町文化福祉会館「まいん」1階 観光交流ホール

内容：1. 講演 大子町を存続させるために ―中心市街地活性化―

茨城大学 人文学部教授 斎藤義則先生

2. まちづくりワークショップ

1班テーマ：文化交流拠点の整備について

2班テーマ：公共インフラ整備及びまちなみ景観について

3. 講評とまとめ

茨城大学 人文学部教授 斎藤義則先生

4. 大子副町長挨拶

参加者数：1班 2班

○開催状況

講演「大子町を存続させるために」―中心市街地活性化―



ワークショップ テーマ①文化交流拠点の整備について



ワークショップ テーマ②公共インフラ整備及びまちなみ景観



○結果

テーマ① 文化交流拠点の整備について

ワークショップの進め方

ワークショップ最終回である今回は、拠点施設の「機能の工夫」「建築物イメージ」「敷地イメージ」「敷地外のまちなかとの関係」などを検討し、5回分のまとめを行いました。

進め方は、前回と同じ3チームに分かれて、ゾーニング模型に書き込む方法で「物語・社会情勢や地域特性これまでのWS内容の反映などの機能の工夫」を行い、その上で建築物イメージのアイデアとして「色、素材、建築様式、高さ、形状、室内など」を、また敷地イメージのアイデアとして「駐車場、植栽、シンボル、外構、景観など」を、さらにまちなかとの関わりのアイデアとして「散策路、他施設との役割分担や連携など」を考えました。そして最後に、チーム案の発表とディスカッションを行いました。

ワークショップのまとめ

チームごとのゾーニング模型による最終案

【チーム1】

メイン機能：観光・物産、歴史・文化、教育・学習

サブ機能：土産販売、イベント、休憩

【建築物イメージのアイデア】

- ・観光・物産拠点は古民家風にしてお茶や野菜を売る。
- ・歴史・文化拠点は石蔵風。屋台だけでなく大子の祭りなど、さまざまな展示。
- ・教育・学習施設は現代風にする。
- ・駅側の建物から「江戸→昭和→現代」とテーマが移り変わるようにする。
- ・図書館は、1階は静かに勉強できる空間、またミニシアターを設置し大人も子供も楽しめるようにする。2階はオープンデッキを設けて休憩できるようにする。

【敷地イメージのアイデア】

- ・普段は駐車場だが、イベント時はそこを使う。
- ・道路沿いに緑を植える。（植物の種類などは任せる）

【その他】

- ・建物を長くし、山のように徐々に高くすることで、建物が山や水郡線などの景色を遮らないようにした。屋根は植物を使った緑の屋根のイメージ。教育拠点は、ガラス張りにしてオープンに。2階へスロープで上がるようにする。

【チーム2】

メイン：観光・物産，土産販売，歴史・文化，教育・学習
サブ：イベント，休憩

【建築物イメージのアイデア】

- ・屋台は，町内の7台を常設するのではなく1台ずつ交代で展示する。
- ・祭りなどを紹介・展示できるサブスペースも設ける。（写真でもよいのでは）
- ・観光・物産拠点は駅から来てすぐ分かりやすいようにする。（近くに駐車場があったほうがよいので隣接させる）
- ・歴史・文化拠点は高い屋台にに応じて，高低差（段）をつける。
- ・2階までスロープで上げられるようにする。
- ・休憩拠点はガラス張りの休憩スペースにする。

【敷地イメージのアイデア】

- ・イベント拠点は普段駐車場として使う。（イベント時はテント）
- ・押川の景観を利用して水郡線とイベント拠点とのあいだに遊歩道を設け，堤防沿いを役場方向からさらに袋田へと続くようにする。

【その他】

- ・教育学習拠点として図書館を造り，イベント（木工，折り紙，パソコン，スマホ教室）などを開催し，子供からお年寄りまで楽しめるようにする。

【チーム3】

メイン：教育・学習，休憩，歴史・文化
サブ：観光・物産，土産販売，イベント

- ・若年女性が住みたくなるような町にするとすると，これまで考えてきたような施設や建物よりも，芝生スペースとするほうがいいのではないかな。
- ・新たな拠点施設より，企業が進出したくなる魅力づくりにお金をかけた方がいい。
- ・若い人と昔から住んでいる人との間には，まちづくりに関する考え方にギャップがあり，目指すべきまちづくりの方向が異なっている。
- ・大子にあった企業を誘致できるまちづくりを目指す。

今後の方針について

【文化交流拠点に関する今後の予定】

今後，町では拠点施設の基本計画等の策定を予定しています。5回のワークショップの成果は，この基本計画等で次のように活用させて頂くことをお知らせしました。

- ・ワークショップで検討した利用者目線の「コンセプト，導入機能，配置，規模，イメージ，工夫」を計画条件の参考として活用します。
- ・ただし，この計画条件は「費用，効果，技術，法制度，基準」などの専門的な視点とすりあわせすることが必要になるため，事務局が反映内容や方法を検討します。

テーマ② 公共インフラ整備及びまちなみ景観について

ワークショップの進め方

1. 前回決定したまち物語「子ども・女性・高齢者が輝き、温泉と川に囲まれて懐かしく夢を持って暮らせるまち」と、中心市街地の基本構想の事業との関係性についてについて考えます。
2. 進行は、まちづくりのテーマごとに3つのテーブルに分かれて話し合い、時間を区切って次のテーブルに移動します。(3ラウンドで1周し、全員の意見を聞きます)
 【テーブル①：テーマ「住みたくなるまちの魅力づくり」(まちなみ景観+回遊路+町堀と水辺)】主に公共インフラ整備について検討
 【テーブル②：テーマ「暮らしを伝えるエコミュージアムの推進」(歴史的建造物+空き店舗)】主に民間建造物の活用と交流の場づくりについて検討
 【テーブル③：テーマ「長生きできる暮らしづくり」(温泉+地元食材)】主に地域資源を活かした暮らしの楽しみ方と健康維持、地域資源を活かした雇用の創出について検討

ワークショップでの意見交換

テーブル①：テーマ「住みたくなるまちの魅力づくり」(まちなみ景観+回遊路+町堀と水辺)

事業の内容	まち物語との関係性	事業の場所	内容及び役割分担や優先順位
歩道の整備	子ども・女性・高齢者に優しいまち	金町通り	- 歩道がない(狭い)ので危険。 - 優先的に整備が必要。
		だいが小～池田橋 だいが小～南側斜面	- 通学路が急な坂道で危険なため、手すりなどの安全設備が必要。 - 優先的に整備が必要。
		本町通り	- 歩道が狭く段差があるので危険。 - 優先的に整備が必要。
		駅前中央通り	- 歩道が狭いので危険。 - 優先的に整備が必要。
		まちなか全体	ルールとして、子どもの安全をみんなで見守る。
交差点の改良	子ども・女性・高齢者に優しいまち	池田橋の西側交差点	- 特に交差点は危険を感じる。 - 優先的に整備が必要。
		新道通り 国道461号交差点	停止線の位置が悪く、交差点が見えづらい。
		国道461号永源寺入り口交差点	信号がないので危険。

道路の整備	子ども・女性・高齢者に優しいまち	国道 461 号から永源寺まで	・永源寺への観光客が多いが、道路が狭いので危険。
まちなみ景観整備	懐かしく夢を持って暮らせるまち	本町通り～金町通り	・板倉や石倉などの昔ながらの家屋が多く、まちなみ景観が良い。 ・電線類の地中化。 ・観光の視点からも、道路景観は重要。
		国道 461 号バイパス	・コキアがきれいな場所があるので、コキア通りにしてはどうか。
		大子町役場～観光やな	・桜並木の雰囲気を活かす道路景観の改善。
		まちなか全体	・自宅前はきれいにするなど、まちなかの景観を良くするルールが必要。
町堀と水辺の景観整備	川や自然に囲まれたまち	泉町交差点～久保田病院の路地	・路地の雰囲気が良いので、町堀とあわせた整備。 ・まちなか全体の町堀整備は難しいのでモデル箇所として整備したい。
		金町通～久慈川ふれあい遊歩道	・昔の水運の面影が残る路地の景観整備。
		十二所神社～蒔蒔神社～愛宕神社	・永源寺や那須本面の眺望も良いので、散策路を整備したい。
遊歩道の整備	川や自然に囲まれたまち	押川沿い 永源寺～観光やな	・押川沿いの遊歩道整備。花いっぱい遊歩道にしたい。 ・花植えはボランティアを活用。 ・永源寺～観光やなまで遊歩道をつなげる。 ・優先的に整備したい。
公園の整備	子ども・女性・高齢者に優しいまち	文武館文庫付近	・文武館文庫付近にポケットパークを整備。
		湯の里公園	・押川と久慈川の水辺をうまく活用した公園整備。
道の駅の活用促進	子ども・女性・高齢者が輝くまち	道の駅 奥久慈だいが	・足湯と露天風呂があるとよい。 ・道の駅の南の国道 118 号沿いの駐車場は、眺望が良いのでうまく活用できないか。

イベント時の駐車場の確保	子ども・女性・高齢者が輝くまち	まいん周辺	・イベント時に活用できる駐車場の整備
地域資源の活用	懐かしく夢を持って暮らせるまち	芭蕉の句碑	・芭蕉の句碑をもっとアピールしてはどうか
		金町	・横山大観の生誕の地である説もある

テーブル②：テーマ「暮らしを伝えるエコミュージアムの推進」（歴史的建造物+空き店舗）

事業の内容	まち物語との関係性	事業の場所	内容及び役割分担や優先順位
歴史的建造物の活用	懐かしく夢を持って暮らせるまち	十二所神社～百段階段～文武館文庫	・歴史的景観が感じられる回遊路の整備
		旧樋口病院	・漆塗り体験などの開催
			・NPO 法人麗潤館が主体で開催
		まちかど美術館（旧常陽銀行）	・建物の壁の修理
			・管理や活用ルールを検討が必要
		旧筑波銀行駅前通り支店	・地域おこし協力隊の事務所として活用
			・大子町地域おこし協力隊が主体となり活用
空き店舗 空き家の活用	子ども・女性・高齢者が輝くまち	大子カフェ	・昔ながらのまちなみ景観の拠点
		常陸大子駅（SL）	・SLを活用して子供向けイベントを開催する
		駅前周辺の空き店舗	・観光協会が主体となり、観光案内所として活用する
まいんの有効活用	子ども・女性・高齢者が輝くまち	旧NTT大子局	・営業所の有効活用 ・資料館として活用検討
		まちなか全般	・空き店舗使った学童保育 ・町民の交流スペースとして活用
地域の資源の活用	懐かしく夢を持って暮らせるまち	まいん	・子育ての情報交流施設の設置 ・ベビー用品のリサイクル等
公園の整備	温泉と川に囲まれて暮らせるまち	大子地藏尊	・参道の整備 ・大子地藏尊祭礼のPR
		湯の里公園	・野外ステージの整備 ・休憩スペースの整備 ・遊び場の整備

テーブル③：テーマ「長生きできる暮らしづくり」（温泉+地元食材）

事業の内容	まち物語との関係性	事業の場所	内容及び役割分担や優先順位
温泉（内湯）の整備	温泉と川に囲まれて暮らせるまち	常陸大子駅	・町で整備し運営は市民レベルでもできるのではないかな。 ・シルバー人材や女性の雇用を推進する。 ・小さなレストラン等、くつろげる場所がほしい。
		道の駅 奥久慈だいて	・既存の温泉施設を拡張する。 ・既存の食堂も拡大して集客力をあげる。 ・まちなかへ新たな温泉施設を整備するよりも、費用面を考えると道の駅の整備を優先した方がよい。
温泉（足湯）の整備	温泉と川に囲まれて暮らせるまち	常陸大子駅	・タクシー乗り場の空間が有効活用できそうである。 ・鉄道の待ち時間に楽しめる。 ・足湯は衛生面が心配。温泉を循環させて衛生面をフォローする。
		道の駅 奥久慈だいて	・既存の温泉施設があるため、駅前広場より整備費用がかからないのではないかな。 ・優先的に整備が必要。
地元食材の活用促進	子ども・女性・高齢者が安心して、夢をもって暮らせるまち	まちなかの既存の施設や空き店舗	・人々が集まる場所や気軽に入れるレストラン。 ・運営する人を日替わり（シフト制）にし、働きたい日に働ける。 ・まちなかカフェ等気軽に入れる場所をつくって女性が働ける空間を作る。安心して働けるように各店舗に託児所を設ける。 ・お年寄りであれば、例えば囲碁を打てる場所がほしい。 ・学校帰りの学生が集まれる場所もほしい。

地元食材の活用促進	子ども・女性・高齢者が安心して、夢をもって暮らせるまち	観光やな	・年間を通して運営できる施設にしたい（現在は夏場だけ）。 ・地元食材の収穫祭やバーベキューができる施設を整備。 ・大子の米をPR販売。 ・施設の管理はボランティアでは難しい。 ・観光やなの運営は、指定管理者制度などの活用を優先してはどうか。
地元食材の活用促進	子ども・女性・高齢者が安心して、夢をもって暮らせるまち	中心市街地近隣	・中心市街地近隣の耕作放棄地を町で借り上げて、農業を希望する人に貸与する。 ・食材の加工はＪＡなどに頼んで、観光やなで販売したい。
食育の推進	子ども・女性・高齢者が安心して暮らせるまち	大子町全体	・栄養士や奥久慈の味研究会（味研）の方を通して、子どもたちのための食育に力を入れてほしい。
駅前広場の有効活用	子ども・女性・高齢者に優しいまち	駅前広場（タクシー乗り場）	・現在のタクシー乗り場が有効活用できていない。 ・鉄道の待ち時間に活用できる交流空間があると良い。
遊歩道の整備	子ども・女性・高齢者に優しいまち	久慈川沿いと押川沿い	・整備や管理は町でお願いしたい。 ・優先的に整備してほしい。

今後の方針について

【公共インフラ整備及びまちなみ景観に関する今後の予定】

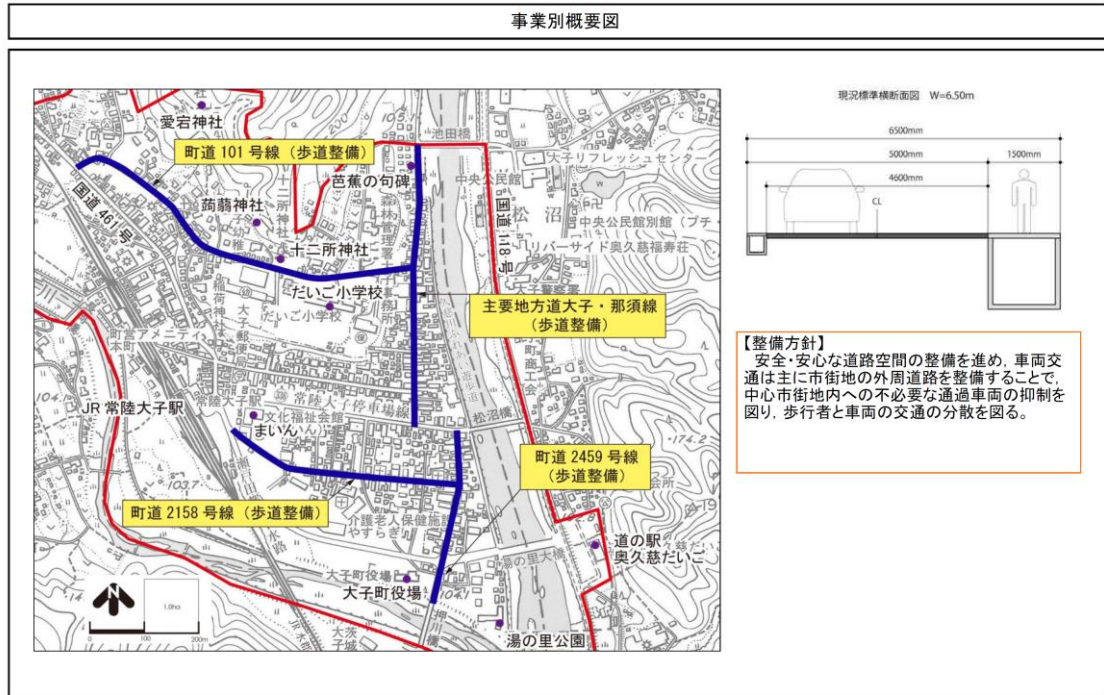
今後、町では中心市街地活性化の基本計画等の策定を予定しています。

これまで第１回～第５回までのワークショップの成果を踏まえ、基本計画の策定に活用させていただきます。

4 都市再生整備計画付図

都市再生整備計画の添付書類 交付対象事業別概要

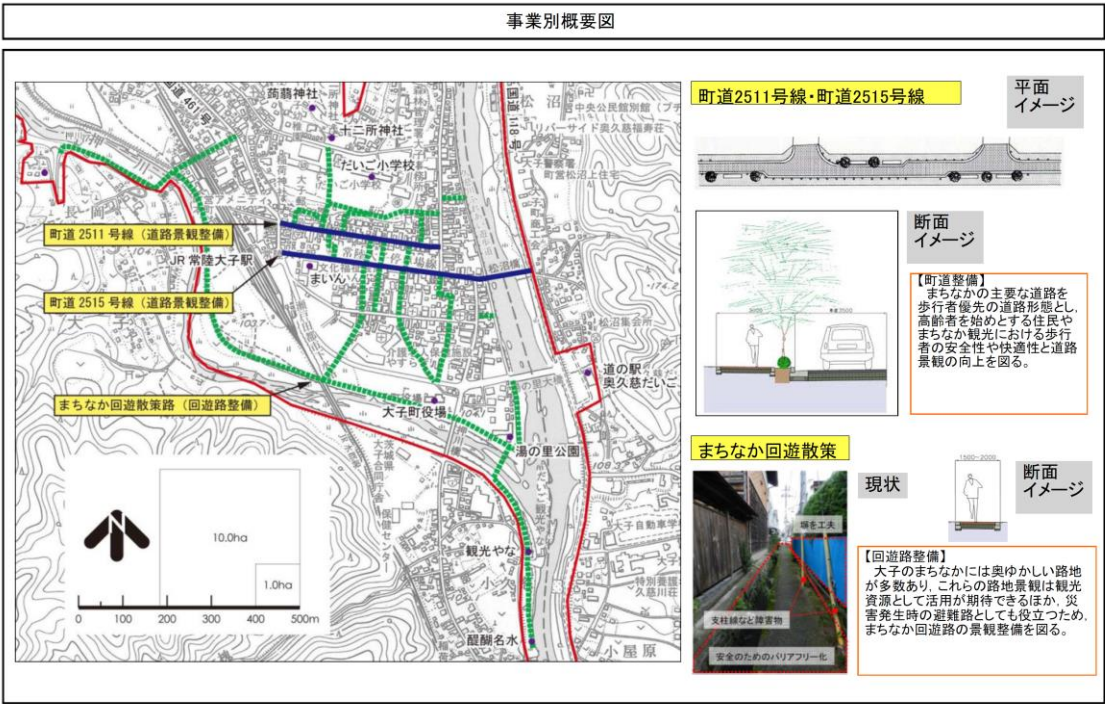
(1) 道路



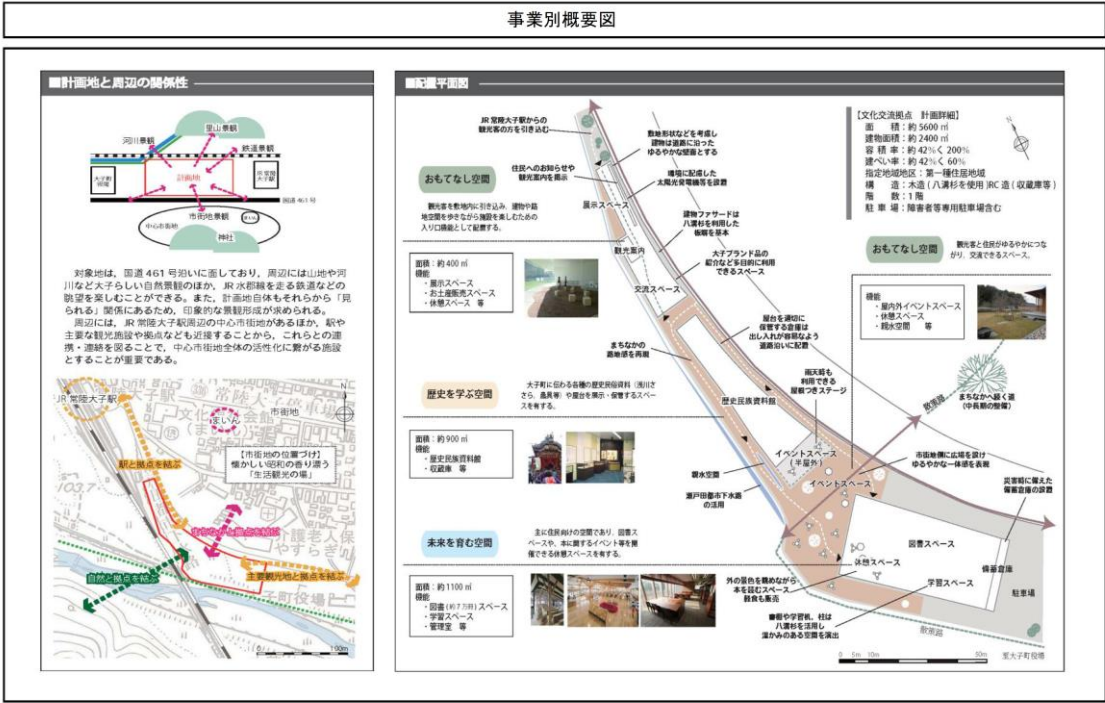
(2) 地域生活基盤施設



(3) 高質空間形成施設



(4) 高次都市施設



(5) 地域創造支援事業（空き店舗・空き家活用事業）

事業別概要図

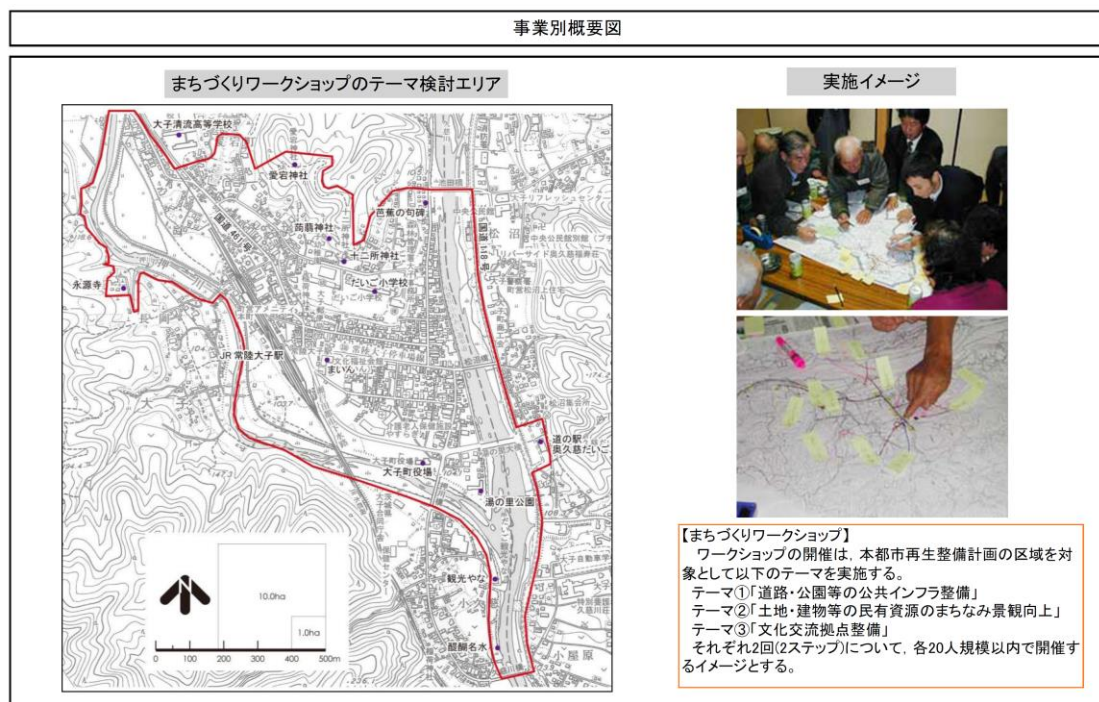


(6) 事業活用調査（大子交流センター等 事業効果分析調査）

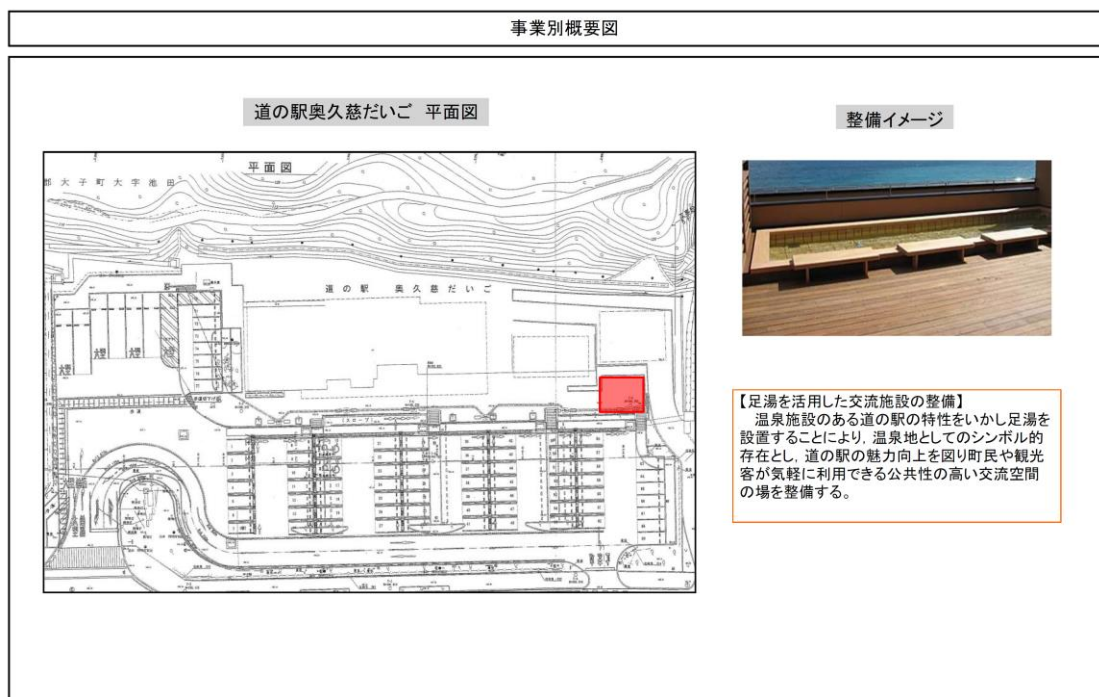
事業別概要図



(7) まちづくり活動推進（まちづくりワークショップ）



(8) 地域創造支援事業（足湯施設整備事業）





太子町中心市街地活性化基本計画

平成 27 年 3 月発行

発行：太子町まちづくり課

〒319-3526 茨城県久慈郡太子町大字太子 866 番地

TEL：0295-72-1131(直通) FAX：0295-72-1167